

<特集「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」他>

マルマ語：

特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」

Marma:

‘Passive expression’, ‘Aspect’, ‘Modality’, ‘Voice and related expressions’, ‘Expressions of possession and existence’, ‘Transitivity’, ‘Complex sentences of adverbial modification’, ‘Information structure and nominal predicate sentences’, ‘Markers of information structure’ and ‘Negation, adjectives, and complex sentences of adnominal modification’

藤原 敬介

HUZIWARA Keisuke

帝京科学大学
Teikyo University of Science

要旨： 本稿は特集補遺「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報表示の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」(『語学研究所論集』第 14–23 号, 2009–2018, 東京外国語大学) に寄与するものである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘Passive expression’, ‘Aspect’, ‘Modality’, ‘Voice and related expressions’, ‘Expressions of possession and existence’, ‘Transitivity’, ‘Complex sentences of adverbial modification’, ‘Information structure and nominal predicate sentences’, ‘Markers of information structure’ and ‘Negation, adjectives, and complex sentences of adnominal modification’ (*Journal of the Institute of Language Research* 14–23, 2009–2018, Tokyo University of Foreign Studies).

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002000391>

キーワード： 受身, アスペクト, モダリティ, ヴォイス, 所有, 存在, 他動性, 複文, 連用修飾複文, 情報構造, 名詞述語文, 否定, 形容詞, 連体修飾複文

Keywords: passive, aspect, modality, voice, possession, existence, transitivity, complex sentence, adverbial modification, information structure, nominal predicate, negation, adjectives, adnominal modification

0. はじめに*

本稿では風間 (2020) に即してマルマ語のデータを提供する。

0.1 マルマ語とは

マルマ語 (Marma: ISO 639-3 rmz) とはバングラデシュ・チッタゴン丘陵を中心として、周辺のインド・トリプラ州やミゾラム州の一部でマルマ人によってはなされるチベット・ビルマ語派ビルマ語



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

* 本稿でもちいる略号のうちライブツィヒグロス規則にないものは、以下のとおりである。ANDV: andative; CONT: continuous; CQ: content question; ELAB: elaborate element; EMPF: emphatic; ESS: essive; EXP: experience; HBT: habitual; HON: honorific; HS: hearsay; INTJ: interjection; NMLS: nominaliser; NPX: nominal prefix; POL: polite; PQ: polar question; PSN: personal name; RDP: reduplication; RLS: realis; SEQ: sequential; SFP: sentence final particle; SIM: simultaneous; VEN: venitive; VRB: verb

群の言語である。マルマ語には大別して三種類の方言がある。すなわち、チッタゴン丘陵のバンドルバン県 (Bandarban district) を中心としたバンドルバン方言、ランガマティ県 (Rangamati district) を中心としたランガマティ方言、カグラチャリ県 (Khagrachari district) を中心としたカグラチャリ方言である。本稿であつかうマルマ語は、バンドルバン方言とランガマティ方言の中間に位置するラジヨストリ地方の方言である。

マルマ語は、ラカイン語としても知られるビルマ語アラカン方言とちかい関係にあり、ある程度の相互理解が可能である。しかし、標準的なビルマ語¹とは相互理解は不可能である。

マルマ語とラカイン語は非常によく似た言語であるけれども、マルマ語の発音のほうの方がより古形をのこしている一方、文法的にはベンガル語の影響をよりつよくうけている。

0.2 表記上の注意

本稿ではマルマ語表記について藤原 (2003) に準じたマルマ語表記をもちいる。表記上の注意は以下のとおりである。

1. 音素：マルマ語の音素は/p, ph, b, t, th, d, c[tɕ], ch[tɕʰ], j[dʒ], k, kh, g, m, hm, n, hn, ŋ, hŋ, y[j], r, hr, w, l, hl, θ, h, ʔ; a, ε, e, i, o, u, ə/である。
2. 声調：マルマ語の声調は高調 (´でしめす)、低調 (ˉ: 無標)、上昇調 (˘) である²。このほか、母音əのみがになう軽声がある。軽声は音節末にはあられない。
3. 音節構造：マルマ語の音節構造は、C (子音)、V (母音)、T (声調) として、基本的には C₁(C₂)(C₃)V(C₄)/T であらわされうる。このうち C₁ にはすべての子音があらわれうる。C₂ には r, y, w のみが、C₃ には w のみが、C₄ には ʔ, ŋ があらわれうる。二重母音があらわれうるのは基本的には促音節のみであり、-aiʔ/-aiŋ, -oiʔ/-oiŋ, -oiʔ, -ouʔ にかぎられる。なお促音節については、音調としては上昇調とおなじであるけれども、表記上はアクセント記号をつけない。
4. 連声：マルマ語における主要な連声は有声交替と r/t の交替がある。有声交替とは、無声無気閉鎖音が有声音には含まれる環境で対応する有声無気閉鎖音に変化する現象である³。具体的には、p > b, t > d, c > j, k > g がありうる。類似した現象として r/t の交替が現実法標識 =re/=te 'RLS' においてみられる。すなわち、声門閉鎖音のあとでは=te があらわれ、それ以外の環境では=re があらわれる。

0.3 資料について

本稿で提示する資料は、マルマ語の母語話者であるバングラデシュ・チッタゴン丘陵・ラジヨストリ地方出身の OCN さん (1970 年代生まれ) による。OCN さんの母語であるラジヨストリ地方のマ

¹ 以下、本稿で単に「ビルマ語」というばあいには、標準ビルマ語をさすものとする。

² マルマ語の上昇調であられる母音は、音声的には緊喉母音である。上昇調はビルマ語では下降調で対応し、ビルマ語の下降調にあられる母音もまた緊喉母音である。両者は緊喉調 (creaky tone) としてまとめることもできる。なお、ビルマ語南部方言 (ベイ方言・Kato and Khin Pale (2012), パロー方言・大塚 (2013)) においても、ビルマ語の下降調は上昇調で対応する。緊喉調について ABA 分布があらわれており、ビルマ語の下降調も本来的には上昇調であった可能性がある。

³ ビルマ語においては無声有気閉鎖音も有声交替しうる。しかし、マルマ語では無声有気閉鎖音が有声交替することはない。

ルマ語は，マルマ人の中心地であるバンドルバン地方のマルマ語とは若干の相違があるけれども⁴，相互理解は十分に可能である。

作業にあたっては，風間 (2020) に提示された英語をもとにベンガル語に翻訳した藤原 (2022) をもちいた⁵。そして，日本語原文や風間 (2020) のビルマ語版というべき岡野 (2009)，岡野 (2010)，岡野 (2012)，岡野 (2019a)，岡野 (2019b)，岡野・トゥザライン (2019)，チンガイリャン (2019a)，チンガイリャン (2019b)，トゥザライン・岡野 (2016)，トゥザライン・岡野 (2019) を適宜参照した。本稿では，マルマ語音素表記，英語による語釈，日本語訳の順で提示した。日本語訳は，日本語としては不自然であっても，マルマ語からの直訳にちかいものをしめすようにした。

1. 受動表現 (語研論集 第 14 号)

1-1 A は B に叩かれた。【直接受身】

- (1) a. mina(=gá) raju+ʔə-bouʔ⁶ khaiŋ(-rǎ)-li=re.
PSN(=TOP) PSN+NPX-beat suffer(-must)-PST=RLS
「ミナはラジュの殴りをうけ (ざるをえなかつ) た」
- b. mina(=gá) raju bouʔ=ca=go khaiŋ(-rǎ)-li=re.
PSN(=TOP) PSN beat=NMLS=OBJ suffer(-must)-PST=RLS
「ミナはラジュが殴ることをうけ (ざるをえなかつ) た」
- c. mina(=gá) raju=bóŋ=ma ʔə-bouʔ/*bouʔ=ca=go khaiŋ(-rǎ)-li=re.
PSN(=TOP) PSN=place.near=LOC NPX-beat/*beat=NMLS=OBJ suffer(-must)-PST=RLS
「ミナはラジュのところで殴りをうけ (ざるをえなかつ) た」
- d. raju(=gá) mina=go bouʔ-li=re.
PSN(=TOP) PSN=OBJ beat-PST=RLS
「ラジュはミナを殴った」

-rǎをつかうと「～せざるをえない」という意味がつよくあらわれる。対応するビルマ語では，この -rǎ と語源的に対応する -yá が必須である一方，マルマ語では任意である。bouʔ「殴る」を接頭辞で名詞化したばあいには(1-b)のように目的格の=go が必須である。また，(1-c)のように「ラジュのところで」と共起することはできない。

なお，マルマ語において受身的な表現はあまり使用されない。(1-d)のような他動詞文で表現するのが普通である⁷。

⁴ 主要な相違としては，(i) バンドルバン方言でのóがラジヨストリ方言ではúで対応する (例：‘steal’ バンドルバン *khó* vs ラジヨストリ *khú*)，(ii) バンドルバン方言の名詞化標識=co ‘=NMLS’ がラジヨストリ方言では=ca で対応する，という二点がある。

⁵ ベンガル語版の協力者も，今回のマルマ語版の協力者である OCN さんである。

⁶ 語源的にビルマ語の *yaiʔ*「殴る」に対応するマルマ語は *roiʔ*「棒や鞭で叩く」である。bouʔ は「叩く・殴る」一般に使用できる。

⁷ 岡野 (2009) がビルマ語でしめす *thí*「当たる」による受身的表現がマルマ語には確認されていない。

1-2 A は B に足を踏まれた。【持ち主の受身、体の部分】

- (2) a. raju+(ʔə)khri⁸ mina+(ʔə)khri=ma khiiʔ-ləkhǎ=re.
 PSN+(NPX-)leg PSN+(NPX-)leg=LOC touch-go.ANDV=RLS
 「ラジュの足がミナの足に触れていった」
- b. mina(=gá) raju+ʔə-náj khaiŋ(-rǎ)-li=re.
 PSN(=TOP) PSN+NPX-step suffer(-must)-PST=RLS
 「ミナはラジュが踏むことをこうむ（らざるをえなか）った（直訳: ラジュの踏みをおけた）」
- c. raju(=gá) mina+ʔə-khri(=go) náj-li=re.
 PSN(=TOP) PSN+NPX-leg(=OBJ) step-PST=RLS
 「ラジュはミナの足を踏んだ」
- d. raju(=gá) mina+khri=go náj-li=re.
 PSN(=TOP) PSN+leg=OBJ step-PST=RLS
 「ラジュはミナの足を踏んだ」

(2-a) や(2-b) のような受身的な表現よりも、(2-c) や(2-d) のような他動詞文が普通である。なお、(2-d) のように名詞化接頭辞なしに「足」をいうばあいには、目的格が必須である。

1-3 A は B に財布を盗まれた。【持ち主の受身、持ち物】

- (3) a. *mina=gá táinǵá+ʔoiʔ raju=bóŋ=ma ʔə-khú khaiŋ(-rǎ)-li=re.
 PSN=TOP money+bag PSN=place.near=LOC NPX-steal suffer(-must)-PST=RLS
 「ミナは財布がラジュのところで盗みをこうむ（らざるをえなか）った（意識: ミナは財布をラジュに盗まれた）」
- b. ʔmina+táinǵá+ʔoiʔ raju=bóŋ=ma ʔə-khú khaiŋ(-rǎ)-li=re.
 PSN+money+bag PSN=place.near=LOC NPX-steal suffer(-must)-PST=RLS
 「ミナの財布はラジュのところで盗みをこうむ（らざるをえなか）った（意識: ミナは財布をラジュに盗まれた）」
- c. mina+táinǵá+ʔoiʔ(=ko) raju khú-li=re.
 PSN+money+bag(=OBJ) PSN steal-PST=RLS
 「ミナの財布をラジュが盗んだ」

(3-a) は非文である。文法的には(3-b) のようにいうことは可能である。しかし、普通はつかわれな
 い。(3-c) のようにいうのが普通である。

⁸ ʔə- 'NPX-' は、動詞に付加して全体を名詞化するという用法のほかに、名詞語根に付加して全体を一語の名詞にするという用法がある。複合語においては、ʔə-は付加しないことがおおい。

1-4 昨日の夜，私は赤ん坊に泣かれた．それでちっとも眠れなかった．【自動詞からの間接受身】

- (4) a. ɲäǵǵǵǵǵǵ ʔəʃe ɲo(-li)=re ʔəkróŋ=nǎ təphě=baŋ mə-ʔoiʔ-hnɔiŋ-li.
last.night baby cry(-PST)=RLS reason=COM a.little=even NEG-sleep-can-PST
「昨夜，赤ん坊が泣いたという理由で，すこしも寝られなかった」
- b. ɲäǵǵǵǵǵǵ ʔəʃe ɲo(-li)=ra=ma⁹ təphě=baŋ mə-ʔoiʔ-hnɔiŋ-li.
last.night baby cry(-PST)=place=LOC a.little=even NEG-sleep-can-PST
「昨夜，赤ん坊が泣いたので，すこしも寝られなかった」

1-5 新しいビルが（Aによって）建てられた．【モノ主語受身，一回的】

- (5) a. kyɔʔkuŋ+(ʔə)θoiʔ(=ko) ɕoʔ-li=re.
building+(NPX-)be.new(=obj) build-PST=RLS
「新しい建物を（誰かが）建てた」
- b. ʔkyɔʔkuŋ+(ʔə)θoiʔ ʔə-ɕoʔ khaiŋ-li=re.
building+(NPX-)be.new NPX-build suffer-PST=RLS
「新しい建物の建設がなされた（直訳：（誰かが）新しい建物の建設をこうむった）」
- c. kyɔʔkuŋ+(ʔə)θoiʔ ʔə-ɕoʔ kyǎ-li=re.
building+(NPX-)be.new NPX-build fall-PST=RLS
「新しい建物の建設をせざるをえなかった」
- d. kyɔʔkuŋ+(ʔə)θoiʔ ɕoʔ=phǒ kyǎ-li=re.
building+(NPX-)be.new build=NMLS.FUT fall-PST=RLS
「新しい建物を建てざるをえなかった」

(5-a) で名詞化接頭辞 ʔə- ‘NPX-’ がつかないときは，目的格標識=ko ‘=OBJ’ を入れたほうがよい．なお，一般に有生物主語における受身的表現の述部は *khaiŋ* ‘suffer’ であり，無生物主語においては *kyǎ* ‘fall’ となる傾向がある．

1-6 バンドルバンではマルマ語が話されている．【モノ主語受身，恒常的．動作主が問題にならない場合】

- (6) a. rwadɔ=ma marəma+cəǵá prɔ-gaiʔ=te.
Bandarban=LOC Marma+language speak-VRB.PL=RLS
「バンドルバンではマルマ語を（人々が）話している」
- b. ʔʔrwadɔ=ma marəma+cəǵá ʔə-prɔ khaiŋ=re.¹⁰
Bandarban=LOC Marma+language NPX-speak suffer=RLS
「バンドルバンではマルマ語を話すことがされている」

⁹ =ra=ma ‘=place=LOC’ は理由をあらわす表現である．

- c. rwadɔ=ma marəma+cəgá θúŋ-gai?=te.
 Bandarban=LOC Marma+language use-VRB.PL=RLS
 「バンドルバンではマルマ語を（人々が）使っている」
- d. ??rwadɔ=ma marəma+cəgá ?ə-θúŋ khaiŋ=re.
 Bandarban=LOC Marma+language NPX-use suffer=RLS
 「バンドルバンではマルマ語を使うことがされている」

1-7 財布が（A に）盗まれた。【モノ主語受身，モノ主語の背後に被影響者が想定される】

- (7) a. ?táŋŋá+?oi? raju=bóŋ=ma ?ə-khú khaiŋ(-rǎ)-li=re.
 money+bag PSN=place.near=LOC NPX-steal suffer(-must)-PST=RLS
 「財布がラジュのところで盗みをこうむ（らざるをえなか）った（意識: 財布がラジュに盗まれた）」
- b. *ŋa(=gá) táŋŋá+?oi? raju=bóŋ=ma ?ə-khú khaiŋ(-rǎ)-li=re.
 I(=TOP) money+bag PSN=place.near=LOC NPX-steal suffer(-must)-PST=RLS
 「私は財布がラジュのところで盗みをこうむ（らざるをえなか）った（意識: 私は財布がラジュに盗まれた）」
- c. ŋǎ táŋŋá+?oi? raju=bóŋ=ma ?ə-khú khaiŋ(-rǎ)-li=re.
 I.OBL money+bag PSN=place.near=LOC NPX-steal suffer(-must)-PST=RLS
 「私の財布がラジュのところで盗みをこうむ（らざるをえなか）った（意識: 私の財布がラジュに盗まれた）」
- d. táŋŋá+?oi?(=ko) raju khú-li=re.
 PSN+money+bag(=OBJ) PSN steal-PST=RLS
 「財布をラジュが盗んだ」

文法的には(7-a)のようということが可能である。しかし、普通はつかわれない。「私」といったければ、(7-b)のように主格でいうのは非文となる。(7-c)のように斜格でいわなければならない。なお、ほぼ同内容の文は(7-d)のように他動詞文でいうのが普通である。

1-8 壁に絵が掛けられている。【モノ主語受身，結果状態の叙述】

- (8) a. rou?puŋ thəraiŋ=ma chwé=bo hǐŋ=re.
 picture wall=LOC hang=SEQ exist=RLS
 「絵は壁にかけてある」
- b. ??rou?puŋ thəraiŋ=ma ?ə-chwé khaiŋ=re.
 picture wall=LOC NPX-hang suffer=RLS
 「絵は壁に掛けられている」

¹⁰ ?ə-pró khaiŋ 'NPX-say suffer' は「ひどくいわれる」という慣用的な意味をもつ。

1-9 A は B に／から愛されている。【感情述語の受身，特に動作主のマーカ―に注目】

- (9) a. mina raju=bóŋ=ma ?ə-khyoi? khaiŋ=re.
 PSN PSN=place.near=LOC NPX-love suffer=RLS
 「ミナはラジュに愛されている」
- b. raju mina=go khyoi?=te.
 PSN PSN=OBJ love=RLS
 「ラジュはミナを愛している」
- c. raju=nă mina ?ə-khyoi? phroi?-niŋ=re.
 PSN=COM PSN NPX-love become-CONT=RLS
 「ラジュとミナは愛した状態が生じている」

受身的な表現として(9-a) はあまり使用されない。(9-b) や(9-c) がよくもちいられる。

なお，岡野 (2009: 135 (28)) があげる「やたらと愛されるのも良くはない」といった内容ならば，(10) のようにマルマ語でも受身的な表現でいうことができる。

- (10) kóŋgóŋ ?ə-khyoi? khaiŋ-ră=ca=lé mə-kóŋ.
 very NPX-love suffer-must=NMLS=too NEG-be.good
 「あまりに愛されるのも良くない (直訳: とても愛することを受けるのも良くない)」

1-10 A は B に／から「…」と言われた。【伝達動詞の受身，特に動作主のマーカ―に注目】

- (11) a. *raju=gă mina ‘mə-hou?’ hǒ ?ə-pró khaiŋ-li=re.
 PSN=ABL PSN NEG-be.right QUOT NPX-say suffer-PST=RLS
 「ラジュからミナは「ちがいます」と言われた」
- b. raju mina=go ‘mə-hou?’ hǒ pró=re.
 PSN PSN=OBJ NEG-be.right QUOT say-PST=RLS
 「ラジュはミナに「ちがいます」と言った」

(11-a) のような受身的表現は使用されない¹¹。(11-b) のような他動詞文でいうのが普通である。

なお，岡野 (2009) があげるように「ひどいことをいわれる」という意味で，マルマ語でも次のように受身的に表現できる。

- (12) a. mina(=gá) kóŋgóŋ ?ə-pró khaiŋ-li=re.
 PSN(=TOP) very NPX-say suffer-PST=RLS
 「ミナはひどく言われた」

¹¹ (11-a) は，文の構造としてはありうる。ただし，(6-b) と同様に，?ə-pró khaiŋ ‘NPX-say suffer’ は「ひどくいわれる」という意味である。文全体の意味があわないという理由により，使用されない。

- b. mina=go kóŋgóŋ pró-li=re.
 PSN=OBJ very say-PST=RLS
 「ミナにかなり言った」

(12-a) のような受身的表現では「わるいことをいわれる」という含意がある。しかし(12-b) のような他動詞文では、そのような含意がない。

1-10-a Aさんは**B**さんに呼ばれて、今**B**さんの部屋に行っています。

- (13) a. ?raju=gǎ mina ?ə-khɔ khaiŋ=rǒ degŭ raju+tɔi?=ma hĩŋ=re.
 PSN=ABL PSN NPX-call suffer=SEQ now PSN+room=LOC exist=RLS
 「ラジュからミナは呼ばれて、今 (ミナは) ラジュの部屋にいる」
 b. raju=gǎ ?ə-khɔ khaiŋ=rǒ mina degŭ raju+tɔi?=ma hĩŋ=re.
 PSN=ABL NPX-call suffer=SEQ PSN now PSN+room=LOC exist=RLS
 「ラジュから呼ばれて、ミナは今ラジュの部屋にいる」

(13-a) は文法的には可能ではあるけれども、あまり使用されない。(13-b) のように主節に主語をおくのが自然な文である。また、実際には(14) のようにいうのが普通である。

1-10-b Bさんが**A**さんを呼んで、**A**さんは今**B**さんの部屋に行っています。

- (14) raju(=gá) mina=go khɔ=rǒ degŭ raju+tɔi?=ma hĩŋ=re.
 PSN(=TOP) PSN=OBJ call=SEQ now PSN+room=LOC exist=RLS
 「ラジュがミナを呼んで、今 (ミナは) ラジュの部屋にいる」

2. 「アスペクト」(語研論集 第 15 号)

2-1 ~さん (固有名詞) は / あの人 は もう 来た。

- (15) a. mina de thé=ma rɔ?(-li)=re.
 PSN this inside=LOC come(-PST)=RLS
 「ミナはすでに到着した (到着していた)」
 b. mina rɔ?-hnǎŋ(-li)=bya.
 PSN arrive-prior.to(-PST)=PRF
 「ミナはすでに到着した (到着していた)」
- (16) a. mina de thé=ma la(-li)=re.
 PSN this inside=LOC come(-PST)=RLS
 「ミナはすでに来た (来ていた)」
 b. mina la-hnǎŋ(-li)=bya.
 PSN arrive-prior.to(-PST)=PRF
 「ミナはすでに来た (来ていた)」

2-2 ~さん（固有名詞）は／あの人はもう来ている。

- (17) a. mina de thé=ma rɔʔ-niŋ=re.
PSN this inside=LOC arrive-CONT=RLS
「ミナはすでに到着した状態にある」
b. mina rɔʔ-hnǎŋ-niŋ=bya.
PSN arrive-prior.to-CONT=PRF
「ミナはすでに到着した状態にあった」

(17-a) で *la-niŋ=re* ‘come-CONT=RLS’ をつかうと「来つつある」という意味になる。(17-b) で *la-hnǎŋ-niŋ=bya* ‘come-prior.to-CONT=PRF’ をつかうと「すでに来つつある状態にあった」という意味になる。

2-3 ~さん（固有名詞）は／あの人はまだ来っていない。

- (18) mina degǔ=baŋ mə-la=θi.
PSN now=even NEG-come=still
「ミナはまだ来っていない」

2-4 ~さん（固有名詞）は／あの人はまだ来ない。

- (19) mina degǔ=baŋ mə-la.
PSN now=even NEG-come
「ミナはまだ来ない」

2-5 ~さん（固有名詞）は／あの人はもう（すぐ）来る。

- (20) mina degǔ=de la=phǒ.
PSN now=EMPF come=NMLS.FUT
「ミナはもうすぐ来る」

2-6 (あ!) ~さんが来た! 【その人が来るのに気づいた場面での発話】

- (21) a. ʔo! mina(=gá) la=bya!
oh PSN(=TOP) come=PRF
「あ、ミナが来た!」
b. ʔo! mina(=gá) də¹²=ma!
oh PSN(=TOP) this=LOC
「あ、ミナはここ!」

2-7 昨日～さんが来たよ.

- (22) a. *mina nyǎgǎ la(-li)=re.*
PSN yesterday come(-PST)=RLS
「ミナは昨日来た」
- b. *mina nyǎgǎ la=bya.*
PSN yesterday come=PRF
「ミナは昨日すでに来た」

(22-a) と(22-b) の相違は不明である¹³.

2-8 昨日～さんは来なかったよ.

- (23) *mina nyǎgǎ mǎ-la-li.*
PSN yesterday NEG-come-PST
「ミナは昨日来なかった」

2-9 (私は) あのリンゴをもう食べた.

- (24) *ŋa yǎŋ páiŋθí=go cá-bǎlǎi?=pya.*
I that apple=OBJ eat-COMPL=PRF
「私はそのリンゴをすでに食べきった」

2-10 私はあのリンゴをまだ食べていない. / 私はあのリンゴをまだ食べない.

- (25) *ŋa yǎŋ páiŋθí=go mǎ-cá=θí.*
I that apple=OBJ NEG-eat=still
「私はまだそのリンゴを食べていない」

2-11 あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています / 食べているところです.

- (26) *yǎŋ=θu degǔ(=ra) yǎŋ páiŋθí=go cá-niŋ=re.*
that=person now(=EMPF) that apple=OBJ eat-CONT=RLS
「あの人はまさに今そのリンゴを食べている」

¹² *dǎ* 'this' は *de* 'this' が弱化したものである.

¹³ 話者によれば(22-a) は「昨日来た」という事実をのべているだけではのべていない. (22-b) は、「昨日来た」というだけでなく、現在もそこにいるということを含意している. しかし、(22-b) のあとに、たとえば *dǎdǎlǎ degǔ dǎ=ma mǎ-hǎŋ* 'however now this=LOC NEG-exist' 「しかし、今ここにはいない」ということもできる.

2-12 窓が開いている／窓が開いていた。

- (27) a. laʔtəbɔʔ pwɔŋ-niŋ=re.
window bloom-CONT=RLS
「窓が開いている」
- b. laʔtəbɔʔ pwɔŋ-niŋ-li=re.
window bloom-CONT-PST=RLS
「窓が開いていた」
- (28) a. páiŋ pwɔŋ-niŋ=re.
window bloom-CONT=RLS
「花が開いている（咲いている）」
- b. páiŋ pwɔŋ-niŋ-li=re.
window bloom-CONT-PST=RLS
「花が開いていた（咲いていた）」

2-13 私は毎朝新聞を読む／読んでいる。

- (29) a. ŋa niŋ-dóŋŋ ŋɛgǎ (rɔʔ=ke) θədánja phaiʔ=te.
I day-every morning (arrive=COND) newspaper read=RLS
「私は毎日，朝に（なると）新聞を読む」
- b. ŋa degũ niŋ-dóŋŋ ŋɛgǎ θədánja phaiʔ-niŋ=re.
I now day-every morning newspaper read-CONT=RLS
「私は（以前はそのような習慣はなかったけれども）今は，毎日，朝に新聞を読んでいる」
- c. ŋǎ¹⁴=ma niŋ-dóŋŋ ŋɛgǎ (rɔʔ=ke) θədánja phaiʔ=lě hĩŋ=re.
I.OBL=LOC day-every morning (arrive=COND) newspaper read=NMLS.practice exist=RLS
「私には毎日，朝に（なると）新聞を読む習慣がある」

(29-a) のような「習慣」の解釈では，継続相をあらわす *-niŋ* ‘-CONT’ をもちいることができない。ただし，(29-b) のように，以前はなかった習慣が今まさに生じているという解釈においては，もちいることができる。

2-14 あなたは（あなたの）お母さんに似ている。

- (30) a. koban¹⁵=gá ʔəmwiŋ=nǎ/ʔəmwiŋ=poŋŋ tu=re.
you.HON=TOP mother=COM/mother=ESS be.similar=RLS
「あなたはお母さんとにている」

¹⁴ 低調で開音節の代名詞的語 (*ŋa* ‘I’, *θu* ‘he/she’, *ko* ‘self’ など) は，属格をあらわすまたは低調の格標識 (= *ma* ‘=LOC’, = *ko* ‘=OBJ’ など) に先行するばあい，斜格に変化し上昇調をもつ傾向にある。

- b. kobaj=go krě=ge ʔəmwiŋ=nă/ʔəmwiŋ=poŋ tu=re.
 you.HON=OBJ watch=COND mother=COM/mother=ESS be.similar=RLS
 「あなたを見ればお母さんにてている」

2-15 私はその頃毎日学校に通っていた。

- (31) ɲa yáj ʔəkhɪŋ=ma niŋ-dóŋ kyóŋ=go lá-niŋ-li=re.
 I that time=LOC day-every school=OBJ go-CONT-PST=RLS
 「私はその頃毎日学校に行っていた」

2-16 私は～に（大きな街の名前など）行ったことがある。

- (32) ɲa dəgá(=dō) lá-phú=re.
 I Dhaka(=ALL) go-EXP=RLS
 「私はダッカに行ったことがある」

2-17 やっとバスは走り出した／走り始めた。【開始】

- (33) a. ʔə-chúŋ=ma gari(=gá) lá=phō cǎ-li=re.
 NPX-end=LOC car(=TOP) go=NMLS.FUT start-PST=RLS
 「やっとバスは行くことをはじめた」
 b. ʔʔə-chúŋ=ma gari(=gá) cǎ=rō lá-li=re.
 NPX-end=LOC car(=TOP) start=SEQ go-PST=RLS
 「やっとバスは行きをはじめた」

(33-a) はベンガル語の影響がつよいかたであり、普通に理解される。(33-b) はビルマ語的ないいかたであり、理解可能ではあるけれども、一般には使用されない。

2-18 昨日彼女はずっと寝ていた。【長時間継続】

- (34) yáj=θu ɲyǎgǎ raʔpraiʔ ʔoiʔ-niŋ-li=re.
 that=person yesterday all.day sleep-CONT-PST=RLS
 「彼（女）は昨日一日中寝ていた」

¹⁵ kobaj 'you.HON' は、ビルマ語にもラカイン語にもみられないマルマ語に特有の語彙である。

2-19 私はそれをちょっと食べてみた。【試行】

- (35) ɲa de=θu¹⁶=go təphě cá(=rō) krě-li=re.
I this=thing=OBJ a.little eat(=SEQ) watch-PST=RLS
「私はこれを少し食べてみた」

2-20 あの人(ら)はそれ(ら)をみんなに分け与えた。【多くの(間接)目的語に対する多回のアスペクト】

- (36) a. yáj=θu ko=ji ko=ji yáj=ca=rō(=go) pí-li=re.
that=person self=each self=each that=NMLS=PL(=OBJ) give-PST=RLS
「彼(女)はそれぞれの人にそれらを与えた」
b. yáj=θu yɔʔ-cɔiŋ=go yáj=ca=rō(=go) pí-li=re.
that=person CLF:person-each=OBJ that=NMLS=PL(=OBJ) give-PST=RLS
「彼(女)はそれぞれの人にそれらを与えた」

「それぞれに」は(36-a)のように *ko=ji ko=ji* ‘self=each self=each’ とするのが普通である。(36-b)のように *yɔʔ-cɔiŋ=go* ‘CLF:person-each=OBJ’ としても理解可能ではあるけれども、あまり使用されない。

2-21 さあ、(私たちは)行くよ！

- (37) lá-gaiʔ=me.
go-VRB.PL=IRR
「行こう」

2-22 地球は太陽の周りを回っている。【恒常的な真理】

- (38) a. gəbalúŋ niŋ=go paiʔ=te.
earth sun=OBJ go.around=RLS
「地球は太陽をまわる」
b. gəbalúŋ niŋ(=go) léphaʔ~laʔci paiʔ=te.
earth sun(=OBJ) four.direction~ELAB go.around=RLS
「地球は太陽を四方にまわる」

¹⁶ =θu はヒトをあらわすこともあればモノをあらわすこともある。統一的には三人称をあらわすといえる。本稿では、文脈にしたがって語釈を ‘=person’ または ‘=thing’ とする。

2-23 あの木は今にも倒れそうだ。【将然相】

- (39) a. yáj ʔəpaŋ cháŋ=phǒ ləlouʔ=pya.
 that tree descend=NMLS.FUT almost=PRF
 「その木はほとんど落ちた」
- b. yáj ʔəpaŋ cháŋ=phǒ ləlouʔ=puŋ.
 that tree descend=NMLS.FUT almost=shape
 「その木はほとんど落ちるようだ」

(39-b) は *mraŋ=re* 'see=RLS' 「みえる」, *twi=re* 'feel=RLS' 「感じる」, *thaŋ=re* 'think=RLS' 「おも
 う」といった動詞句を文末においた方がわかりやすい。

2-24 (私は) あやうく転ぶところだった。【未実現の事態】

- (40) ŋa cháŋ=phǒ ləlouʔ phrɔiʔ-li=re.
 I descend=NMLS.FUT almost become-PST=RLS
 「私はほとんど倒れた (直訳: ほとんど降りた状態になった)」

2-25 明日客が来るので、パンを買っておく。【準備】

- (41) hnaʔphraiŋ=kha ʔɕiŋθe la=phǒ=ra=ma boŋmũŋ we=bo thá=me.
 tomorrow=time guest come=NMLS.FUT=place=LOC bread buy=SEQ put=IRR
 「明日客が来るので、パンを買っておく」

2-26 (私は) ～に (街とか市場とか) 行ったとき、この袋を買った。

- (42) a. jí=dǒ lá-khi(*=ca)=kha de ʔoiʔ=ko we-li=re.
 market=ALL go-go.PST(*=NMLS)=time this bag=OBJ buy-PST=RLS
 「市場に行った時にこの鞆を買った」
- b. jí=dǒ lá-li=re. yə¹⁷=kha de ʔoiʔ=ko we-li=re.
 market=ALL go-PST=RLS that=time this bag=OBJ buy-PST=RLS
 「市場に行った。その時この鞆を買った」

(42-a) は、「行った時」または「行きつつある時」をあらわす。どこで鞆を買ったかについて、言及していない。市場で買ったことを明示したければ、たとえば(42-b)のように表現する。

¹⁷ yə 'that' は yáj 'that' が弱化したものである。

2-27 (私は) ～に (街とか市場とか) 行く時／行く前に，この袋を買った。

- (43) a. jí=dō lá(*=ca)=kha¹⁸ de ʔoiʔ=ko we-li=re.
 market=ALL go(*=NMLS)=time this bag=OBJ buy-PST=RLS
 「市場に行く時にこの鞆を買った」
- b. jí=dō lá=phō ʔəyaŋ(=gǎ) de ʔoiʔ=ko we-li=re.
 market=ALL go=NMLS.FUT before(=ABL) this bag=OBJ buy-PST=RLS
 「市場に行く前にこの鞆を買った」
- c. jí=dō mə-lá=phō/mə-lá=kha ʔəyaŋ(=gǎ) de ʔoiʔ=ko
 market=ALL NEG-go=NMLS.FUT/NEG-go=time before(=ABL) this bag=OBJ
 we-li=re.
 buy-PST=RLS
 「市場に行かないうちにこの鞆を買った」

(43-b) は標準的なベンガル語を翻訳したような表現である。他方(43-c)のように否定をもちいるのは，チッタゴン地方のベンガル語やマルマ語によくみられる表現である。

2-28 (私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。

- (44) a. yáŋ=θu jí=ma de ʔoiʔ=ko we-li=ca=go ŋa θi-li=re.
 that=person market=LOC this bag=OBJ buy-PST=NMLS=OBJ I know-PST=RLS
 「彼が市場でこの袋を買ったのを私は知っていた」
- b. ŋa θi-li=ca=gá yáŋ=θu jí=ma de ʔoiʔ=ko we-li=re.
 I know-PST=NMLS=TOP that=person market=LOC this bag=OBJ buy-PST=RLS
 「私が知っていたのは，彼が市場でこの袋を買ったということだ」
- c. yáŋ=θu jí=gǎ de ʔoiʔ=ko we-li=ca=go ŋa θi-li=re.
 that=person market=ABL this bag=OBJ buy-PST=NMLS=OBJ I know-PST=RLS
 「彼が市場からこの袋を買ったのを私は知っていた」
- d. ŋa θi-li=ca=gá yáŋ=θu jí=gǎ de ʔoiʔ=ko we-li=re.
 I know-PST=NMLS=TOP that=person market=ABL this bag=OBJ buy-PST=RLS
 「私が知っていたのは，彼が市場からこの袋を買ったということだ」

「市場で」の表現は，日本語に即していうならば(44-a)や(44-b)のように場所格を使用して jí=ma ‘market=LOC’ と表現する。しかし，マルマ語としては(44-c)や(44-d)のように奪格を使用して jí=gǎ ‘market=ABL’ と表現する方が普通である。

¹⁸ =kha は単独でもちいられることはなく，名詞または動詞に後続して全体を時をあらわす表現する特別な主要部形成要素である。一般的な名詞修飾表現では名詞化標識の=caのあとに主要部名詞がもちいられる。他方，=kha ‘=time’ に対して=ca ‘=NMLS’ が先行してもちいられることはない。

3. 「モダリティ」(語研論集 第 16 号)

3-1 (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。【許可】

- (45) a. (?ə-lou? brí=ge) lá/praiŋ -hnoij¹⁹ /-rǎ =me.
 (NPX-work finish=COND) go/return -can/-can =IRR
 「(その仕事が終わったら) 行って (もどって) いいです」
- b. (?ə-lou? brí=ge) lá=phǒ/praiŋ=phǒ nɔij=me/rǎ=me.
 (NPX-work finish=COND) go=NMLS.FUT/return=NMLS.FUT can=IRR/can=IRR
 「(その仕事が終わったら) 行って (もどって) いいです」
- c. (?ə-lou? brí=ge) lá/praiŋ -hnoij=bya/-rǎ=bya.
 (NPX-work finish=COND) go/return -can=PRF/-can=PRF
 「(その仕事が終わったら) もう行って (もどって) いいです」
- d. (?ə-lou? brí=ge) lá=phǒ/praiŋ=phǒ nɔij=bya/rǎ=bya.
 (NPX-work finish=COND) go=NMLS.FUT/return=NMLS.FUT can=PRF/can=PRF
 「(その仕事が終わったら) もう行って (もどって) いいです」

3-2 (腐っているから, あなたは) それを食べてはいけない/それを食べるな。【禁止】

- (46) a. (de=θu ?ə-θú. yə=pɔij=ra=ma) mə-cá=gě!
 (this=thing NPX-rot that=ESS=place=LOC) NEG-eat=NEG.IMP
 「(それは腐っているので) 食べるな」
- b. (de=θu ?ə-θú. yə=pɔij=ra=ma) mə-cá-rǎ!
 (this=thing NPX-rot that=ESS=place=LOC) NEG-eat-must
 「(それは腐っているので) 食べるべきではない」

(46-a) は否定命令法標識の=gě '=-NEG.IMP' で禁止をあらわしている。他方(46-b) は命令文の否定である。助動詞-rǎ '-must' が、否定文でもちいられることで、つよい禁止をあらわしている。

3-3 (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。【義務】

- (47) a. (kra-ləkhǎ=bya.) ŋə²⁰=rǒ ?əgǔ wiŋ=dǒ praiŋ-rǎ=phǒ.
 (be.late-go.ANDV=PRF) I=PL now house=ALL return-must=NMLS.FUT
 「(遅くなっていった) 私たちは今家に帰るべきである」
- b. (kra-ləkhǎ=bya.) ŋə=rǒ ?əgǔ wiŋ=dǒ mə-praiŋ=ge mə-rǎ.
 (be.late-go.ANDV=PRF) I=PL now house=ALL NEG-return=COND NEG-must
 「(遅くなっていった) 私たちは今家に帰らなければならない」

¹⁹ 可能をあらわす助動詞である-hnoij '-can' は、本来的には=phǒ nɔij '=NMLS.FUT can' であったものが縮約してできた可能性がある。可能をあらわす本動詞としては nɔij 'can' がもちいられる。

²⁰ ŋə 'I' は ŋa 'I' が弱化したものである。

3-4 (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ. 【推奨】

- (48) a. (mú rwa-niŋ=re.) thí yu=ge kóŋ=me.
 (rain rain-CONT=RLS) umbrella take=COND be.good=IRR
 「雨が降っている) 傘を持っていけばよい」
- b. (mú rwa-niŋ=re.) thí yu=ca=gá kóŋ=me.
 (rain rain-CONT=RLS) umbrella take=NMLS=TOP be.good=IRR
 「雨が降っている) 傘を持っていくのがよい」

3-5 歳をとったら，子供の言うことを聞くべきだ／聞くものだ. 【評価的義務】

- (49) a. kobaŋ jə²¹=kha ʔo=phǒ=lé, yə=kha ʔəfe=rǒ cəgá=go
 you.HON what=time be.old=NMLS.FUT=CQ that=time child=PL word=OBJ
 koiŋ=ge/koiŋ=ca kóŋ=me.
 hold=COND/hold=NMLS be.good=IRR
 「あなたが老いるとき，そのときは子供たちの話をつかめば（つかむのが）よい」
- b. kobaŋ jə=kha ʔo=phǒ=lé, yə=kha ʔəfe=rǒ cəgá=go
 you.HON what=time be.old=NMLS.FUT=CQ that=time child=PL word=OBJ
 koiŋ-rǎ/koiŋ-θǎŋ =me.
 hold-must/hold-should =IRR
 「あなたが老いるとき，そのときは子供たちの話をつかむべきである」

3-6 お腹が空いたので，(私は) 何か食べたい. 【希望】

- (50) ŋa mwaiʔ=te. yə=pɔiŋ=ra=ma beθe~bewa/tə-khǔ+tə-khǔ
 I be.hungry=RLS that=ESS=place=LOC something~ELAB/one-CLF:thing+one-CLF:thing
 cá-khyaŋ=re.
 eat-want=RLS
 「私は空腹だ. だから何か食べたい」

3-7 私が持ちましょう. 【意志】

- (51) ŋa yu(-pí)=phǒ.
 I take(-give)=NMLS.FUT
 「私が持ちます（持ってあげます）」

²¹ jə ‘what’ は ja ‘what’ が弱化したものである.

3-8 じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。【勧誘】

- (52) lá, ʔətu mwáɪŋdĕ+thəmóŋ cá-gaiʔ=me.
 go together noon+rice eat-VRB.PL-IRR
 「さあ（動け）一緒に昼のご飯を食べよう」

3-9 一緒に昼ご飯を食べませんか？【相手の意向が不明な場合の勧誘】

- (53) a. ŋə=rǒ ʔətu mwáɪŋdĕ+thəmóŋ cá=phǒ=ló?
 I=PL together noon+rice eat=NMLS.FUT=PQ
 「私たちは一緒に昼のご飯を食べますか」
 b. kobəŋ (ŋə=nǎ) ʔətu mwáɪŋdĕ+thəmóŋ cá-khyəŋ(=re)²² =ló?
 you.HON (I=COM) together noon+rice eat-want(=RLS)=PQ
 「あなたは一緒に昼のご飯を食べたいですか」

3-10 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。【希望】

- (54) a. ŋə ʔaθa thá=ca=gá hnaʔphraiŋ(=kha) mú+li~wadǎ kóŋ=me.
 I wish put=NMLS=TOP tomorrow(=time) rain+wind~ELAB be.good=IRR
 「私が希望するには、明日は良い天気です」
 b. ŋǎ ʔaθa ʔə-thá=gá hnaʔphraiŋ(=kha) mú+li~wadǎ kóŋ=me.
 I.OBL wish NPX-put=TOP tomorrow(=time) rain+wind~ELAB be.good=IRR
 「私の希望するには、明日は良い天気です」
 c. hnaʔphraiŋ(=kha) mú+li~wadǎ kóŋ=ge kóŋ=re.
 tomorrow(=time) rain+wind~ELAB be.good=COND be.good=RLS
 「明日天気が良いなら（私にとって）良いです」
 d. hnaʔphraiŋ(=kha) mú+li~wadǎ kóŋ=ba=ji.
 tomorrow(=time) rain+wind~ELAB be.good=POL=CAUS
 「明日天気が良くなりますように」

(54-d) の =ba=ji ‘=POL=CAUS’ が希求法的な表現である。

3-11 （私はここで待っているから）すぐにそれを持って来なさい。【命令】

- (55) (ŋə də=ma cǒŋ=me.) yáŋ=ca=go ʔə-práŋ yu-khǎ!
 (I this=LOC wait=IRR) that=NMLS=OBJ NPX-be.fast take-VEN.IMP
 「（私はここで待つ）それをすぐに持ってきなさい」

²² 疑問文において疑問標識の直前にある (=re) ‘(=RLS)’ が発音されないばあい、本来は =re ‘(=RLS)’ があつた残滓として、先行する動詞または助動詞が通常よりもややながく発音される傾向にある。

3-12 そのペンをちょっと貸していただけませんか？【懇願】

- (56) kobaj nã=go yáj hmaŋdaŋ tə-khya? hǵá-hnɔiŋ=me=ló?
 you.HON I.OBL=OBJ that pen one-CLF:time lend-can=IRR=PQ
 「あなたは私にそのペンを少しのあいだ貸すことができますか」

3-13 あの人是中国語が読めます。／あの人是中国語を読むことができます。【能力可能】

- (57) a. yáj lu tərou? baθa+cəgá=go phai?-tai?=te.
 that person Chinese language+word=OBJ read-be.able.to=RLS
 「その方は中国語を読めます」
 b. yáj lu tərou? baθa+cəgá=go phai?-hnɔiŋ=re.
 that person Chinese language+word=OBJ read-can=RLS.
 「その方は中国語を読めます」

能力可能であることを明確にいうときには(57-a)を使用する。(57-b)の方が一般的な表現ではあるけれども、能力可能と状況可能の両方の解釈がありうる。

3-14 明かりが暗くて、ここに何が書いてあるのか、読めない。【状況可能】

- (58) ʔə-láj kóngóŋ né=re. yə=poŋ=ra=ma də=ma ja rwí=bo
 NPX-be.bright very be.few=RLS that=ESS=place=LOC this=LOC what write=SEQ
 hǵŋ=re=lé, (yáj=ca=go) ŋa phai?=phǒ mə-noiŋ.²³
 exist=RLS=PQ (that=NMLS=OBJ) I read=NMLS.FUT NEG-can
 「光がとても少ない。だからここに何が書いてあるか（それを）私は読むことができない」

3-15 (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない。【確信】

- (59) a. (yáj=θu=rǒ múθɔ?=kha lá=phǒ cǎ-li=re. yə=poŋ=ra=ma)
 (that=person=PL dawn=time go=NMLS.FUT start-PST=RLS that=ESS=EMPF=LOC
 də=hlɔ? ʔəθɔ? rɔ?-niŋ=bya.
 this=almost time arrive-CONT=PRF
 「(彼らは早朝に行った。だから) これくらいの時間には到着してしまっている」
 b. (yáj=θu=rǒ múθɔ?=kha lá=phǒ cǎ-li=re. yə=poŋ=ra=ma)
 (that=person=PL dawn=time go=NMLS.FUT start-PST=RLS that=ESS=EMPF=LOC
 də=hlɔ? ʔəθɔ? rɔ?=phǒ taiŋ=bya.
 this=almost time arrive=NMLS.FUT fit=PRF
 「(彼らは早朝に行った。だから) これくらいの時間には到着しているのが似合ったはずである」

²³ *phai?=phǒ mə-noiŋ* ‘read=NMLS.FUT NEG-can’ は *mə-phai?-hnɔiŋ* ‘NEG-read-can’ ということもできる。

- c. (yáj=θu=rǒ múθǝʔ=kha lá=phǒ că-li=re. yǝ=pǝiŋ=ra=ma)
 (that=person=PL dawn=time go=NMLS.FUT start-PST=RLS that=ESS=EMPF=LOC
 dǝ=hlǝʔ ʔǝθǝʔ rǝʔ-yǝʔ=me.
 this=almost time arrive-seem.to.be=IRR
 「(彼らは早朝に行った. だから) これくらいの時間には到着しているはずと思われる」

3-16 (あの人は) 明日はたぶん来ないだろう。【推量】

- (60) a. yáj=θu hnaʔphraiŋ=kha mə-la phrǝiʔ-taiʔ=te.
 that=person tomorrow=time NEG-come become-be.able.to=RLS
 「その人は明日来ない可能性がある」
 b. yáj=θu hnaʔphraiŋ=kha mə-la phrǝiʔ-hnǝiŋ=re.
 that=person tomorrow=time NEG-come become-can=RLS
 「その人は明日来ない可能性がある」

通常, *-taiʔ* 'be.able.to' は能力可能 (3-13), *-hnǝiŋ* '-can' は状況可能 (3-14) をあらわす助動詞である。しかし, *phrǝiʔ* 'become' のあとではいずれも単に可能性をあらわす。

3-17 彼らはまだ来ないなんて, きっと途中で車が壊れたんじゃないか。【疑念】

- (61) a. yáj=θu=rǒ ʔǝgǘ=lé(=θǝʔ)/ʔǝgǘ=thǐ/ʔǝgǘ=thaʔθǐ mə-la=θǐ. láiŋ=ma
 that=person=PL now=too(=till)/now=till/now=till NEG-come=still road=LOC
 yáj=θu=rǒ garí ʔǝhmaiŋ=baj pyaʔ-niŋ=ló mə-θǐ.
 that=person=PL car certainly=even be.broken-CONT=PQ NEG-know
 「彼らは今もまだ来ていない。道中, 車がもちろん壊れてしまったか, わからない」
 b. yáj=θu=rǒ ʔǝgǘ=lé(=θǝʔ)/ʔǝgǘ=thǐ/ʔǝgǘ=thaʔθǐ mə-la=θǐ. láiŋ=ma
 that=person=PL now=too(=till)/now=till/now=till NEG-come=still road=LOC
 yáj=θu=rǒ garí ʔǝhmaiŋ=baj pyaʔ=rǒ hǐŋ-li=phǒ.
 that=person=PL car certainly=even be.broken=SEQ exist-PST=NMLS.FUT
 「彼らは今もまだ来ていない。道中, 車がもちろん壊れてしまっただろう」

3-18 (昼間だからあの人は家に) さあ, いるかもしれないし, いないかもしれない。【可能性】

- (62) (ʔǝgǘ mwáŋǰǎ, yǝ=pǝiŋ=ra=ma yáj=θu wiŋ=ma) hǐŋ-hnǝiŋ(=re/=me)=lé
 (now noon that=ESS=EMPF=LOC that=person house=LOC) exist-can(=RLS/=IRR)=too
 phrǝiʔ=te, mə-hǐŋ-hnǝiŋ=lé phrǝiʔ=te.
 become=RLS NEG-exist-can=too become=RLS
 「(今は昼, だからその人は家に) いるかもしれないし, いないかもしれない」

3-19 (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。【視覚／聴覚以外の感覚による判断】

- (63) a. (nəphúja=ma ʔəlaʔ thá=rö thaŋ=ca=gá) kobaŋ=ma ʔə-phyá
 (forehead-LOC hand put=SEQ think=NMLS=TOP you.HON=LOC NPX-develop.fever
 hĩŋ-daiʔ=te.
 exist-be.able.to=RLS
 「(額に手をおいて思うのだが) あなたには熱がありうる」
- b. (nəphúja=ma ʔəlaʔ thá=rö thaŋ=ca=gá) kobaŋ=ma ʔə-phyá
 (forehead-LOC hand put=SEQ think=NMLS=TOP you.HON=LOC NPX-develop.fever
 hĩŋ=re phrɔiʔ-taiʔ=te.
 exist=RLS become-be.able.to=RLS
 「(額に手をおいて思うのだが) あなたには熱がある可能性がある」
- c. (nəphúja=ma ʔəlaʔ thá=rö thaŋ=ca=gá) kobaŋ=ma ʔə-phyá
 (forehead-LOC hand put=SEQ think=NMLS=TOP you.HON=LOC NPX-develop.fever
 hĩŋ=buŋ.
 exist=shape
 「(額に手をおいて思うのだが) あなたには熱があるようだ」

3-16 と同様に，(63-b)において *phrɔiʔ-taiʔ=te* ‘become-be.able.to=RLS’ は *phrɔiʔ-hnɔiŋ=re* ‘become-can=RLS’ ともいえる。また **2-23** と同様に，(63-c)は *mraŋ=re* ‘see=RLS’ 「みえる」，*twi=re* ‘feel=RLS’ 「感じる」，*thaŋ=re* ‘think=RLS’ 「おもう」といった動詞句を文末におく方がわかりやすい。

3-20 (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。【伝聞】

- (64) (mú+li~wadă hmáinʔkhyáʔ=ʔəhnún) hnaʔphraŋ=kha mú rwa=me=hlaiʔ.
 (rain+wind~ELAB forecast=accotding.to) tomorrow=time rain(n) rain(v)=IRR=HS
 「(天気予報によれば) 明日雨が降るそうだ」

3-21 もしお金があったら，あの車を買うんだけれどなあ。【反実仮想】

- (65) táinǵá hĩŋ-li=re cho=ge, ŋa yáŋ gari=go we-li=phǒ.
 money exist-PST=RLS say=COND I that car=OBJ buy-PST=NMLS.FUT
 「お金があったというなら，私はあの車を買ってしまっていたらろう」

3-22 もしあなたが教えてくれていなかったら，私はそこにたどり着けなかったでしょう。【反実仮想過去】

- (66) (ʔəkraŋ) kobaŋ ŋǎ=go mə-prɔ-li cho=ge, ŋa yə=dǒ mə-rɔʔ-hnɔiŋ-li.
 (if) you.HON I.OBL=OBJ NEG-say-PST say=COND I that=ALL NEG-arrive-can-PST
 「(もしも) あなたが私に言わなかったら，私はそこに到着できなかった」

ʔəkraŋ ‘if’ はビルマ語の文語体にみられる形式であり，マルマ語ではあまり使用されない。

3-23 (あの人は) 街へ行きたがっている。【3 人称の主体による希望】

- (67) (yáŋ=θu=gá) mrõ=dõ lá-khyaŋ-niŋ=re.
 (that=person=TOP) city=ALL go-want-CONT=RLS
 「(その人は) 街に行きたがっている」

3-24 僕にもそれを少し飲ませろ。【1 人称命令】

- (68) a. ŋǎ=go=lé de=θu(=go) taphě θɔʔ-ci.
 I.OBL=OBJ=too this=thing(=OBJ) a.little drink-CAUS
 「私にもそれをちょっと飲ませろ」
 b. ŋǎ=go=lé de=θu(=go) taphě θɔʔ=phõ pí.
 I.OBL=OBJ=too this=thing(=OBJ) a.little drink=NMLS.FUT give
 「私にもそれをちょっと飲ませてくれ」

s de=θu(=go) 'this=thing(=OBJ)' は、話者によっては dẽ=θu(=go) 'this.OBL=thing(=OBJ)', de=ca(=go) 'this=NMLS(=OBJ)', dẽ=ca(=go) 'this.OBL=NMLS(=OBJ)' ともいう。

3-25 これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。【3 人称命令】

- (69) a. lá, yáŋ=θu=go de=ca(=go) yu-khǎ²⁴ -ji.
 go that=person=OBJ this=NMLS(=OBJ) take-ANDV-CAUS
 「さあ (行け) 彼にそれをとっていかせろ」
 b. lá, yáŋ=θu=go de=ca(=go) yu=phõ pí.
 go that=person=OBJ this=NMLS(=OBJ) take=NMLS.FUT give
 「さあ (行け) 彼にそれをとっていくようにさせろ」

(69-a) は「強制的にとっていかせる」という意味である。(69-b) には「強制的にとっていかせる」という意味もあるけれども、「とっていくことを許可する」あるいは「とっていきがままにさせる」という意味もありうる。

3-26 そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。【遠未来命令形】

- (70) yáŋ cákhuŋ=thaʔ=ma hiŋ=ca ʔə-khyo=rõ=go nɔʔ=kǎ cá.
 that dining.table=place.above=LOC exist=NMLS NPX-be.sweet=PL=OBJ back=ABL eat
 「その食卓の上のお菓子は後で食べなさい」

²⁴ -khǎ '-ANDV' は文脈によっては '-VEN' の解釈をもつ (10-21 参照)。

3-27 もっと早く来ればよかった。【反実仮想】

- (71) ʔəra ʔəyaŋ la-li=ge kóŋ-li=phǒ(=ca).
more before come-PST=COND be.good-PST=NMLS.IRR(=NMLS)
「もっとはやく来ればよかった」

誰がはやく来ればよかったかについては，言及していない。

3-28 あなたも一緒に行ったら（どうですか）？【脱従属化】

- (72) kobəŋ=lé ʔətu lá=ge=gá (bəjɔŋ=lé)?
you.HON=too together go=COND=TOP (how=CQ)
「あなたも一緒行けば（どうか）」

3-29 オレがそんなこと知るか！【(疑問詞を含まない) 反語】

- (73) a. ŋa de=θu=go θi=phǒ=ló?
I this=thing=OBJ know=NMLS.FUT=PQ
「私がそれを知るだろうか」
b. ŋa de=θu=go jə=poŋ θi=phǒ=lé?
I this=thing=OBJ what=ESS know=NMLS.FUT=CQ
「私がそれをいかに知るだろうか」
c. ŋa de=θu=go ja=phǒ θi=phǒ=lé?
I this=thing=OBJ what=for know=NMLS.FUT=CQ
「私がそれを何のために知るだろうか」

(73-a) は疑問語をふくまない反語である。(73-b) や(73-c) は疑問語をふくむ反語的な疑問文である。

3-30 これを作った（料理した）のは，お母さんだよ？ / いいえ，私が作ったのよ。【付加疑問】

- (74) a. kobəŋ ʔəmwɪŋ de=θu khyəʔ=ca, mə-houʔ=ló?
you.HON mother this=thing cook=NMLS NEG-be.right=PQ
「あなたのお母さんがこれを料理したんだ，じゃない？」
b. mə-houʔ, ŋa khyəʔ=ca.
NEG-be.right I cook=NMLS
「いいえ，私が料理したんです」

(74-a) にある *kobəŋ ʔəmwɪŋ* “you.HON mother” 「あなたのお母さん」のように，マルマ語では名詞を並列して所有をあらわす²⁵。

²⁵ ビルマ語ならば属格標識をもちいるけれども，マルマ語には属格標識がない。

4. 「ヴォイス」(語研論集 第 17 号)

4-1-a (風などで) ドアが開いた. 【自動詞と他動詞の対立・自動詞による表現】

- (75) a. (li ʔəkrɔŋ=nä) táɪŋkhəboiʔ loiʔ=pya.
 (wind reason=COM) door open(vi)=PRF
 「(風のせいで) ドアが開いた」
- b. (li) táɪŋkhəboiʔ hloiʔ=pya.
 (wind) door open(vt)=PRF
 「(風が) ドアを開いた」

(75-a) は自動詞による表現. (75-b) は他動詞による表現. (75-b) のように「風」を主語にしていることは、「風」が擬人化される文脈でならば可能である. ヒトが主語ならば, 主語として明示されなくとも, (75-b) は普通にもちいられる. 「風」が原因であることを明示したいならば(75-a) のように自動詞をもちいる.

4-1-b (彼が) ドアを開けた. 【自動詞と他動詞の対立・他動詞による表現】

- (76) (yájŋ=θu) táɪŋkhəboiʔ hloiʔ=pya.
 (that=person) door open(vt)=PRF
 「(その人が) ドアを開いた」

4-1-c (入り口の) ドアが開けられた. 【自動詞と他動詞の対立・他動詞の受け身】

- (77) a. (wɔŋwǎ+) táɪŋkhəboiʔ hloiʔ=pya.
 (entrance+) door open(vt)=PRF
 「(入り口の) ドアを開いた」
- b. ʔ(wɔŋwǎ+) táɪŋkhəboiʔ ʔə-hloiʔ khaiŋ=bya.
 (entrance+) door NPX-open(vt) suffer=PRF
 「(入り口の) ドアが開かれた (直訳: 開きを被った)」
- c. (wɔŋwǎ+) táɪŋkhəboiʔ ʔə-hloiʔ kyǎ=bya.
 (entrance+) door NPX-open(vt) fall=PRF
 「(入り口の) ドアが開いた (直訳: 開きに落ちた)」

(77-a) は明示されない動作主が「ドアを開いた」という表現である. (77-b) のように *khaiŋ* 'suffer' をもちいて受身的に表現しても意味は通じるけれども, 通常は使用されない. *ʔə-hloiʔ* 'NPX-open(vt)' をもちいるならば, (77-c) のように *kyǎ* をもちいる.

4-1-d ドアが壊れた. 【自動詞と他動詞の対立】

- (78) a. táɪŋkhəboiʔ kyú-ləkhǎ=re.
 door break(vi)-go.ANDV=RLS
 「ドアが壊れた (直訳: 壊れていった)」

b. ?táɪŋkhəboi? ?ə-khyú khaiŋ-li=re.

door NPX-break(vt) suffer-PST=RLS

「ドアが壊された（直訳：破壊を被った）」

c. táɪŋkhəboi? ?ə-khyú kyǎ-li=re.

door NPX-break(vt) fall-PST=RLS

「ドアが壊された（直訳：破壊におちいった）」

(78-b) のように *khaiŋ* ‘suffer’ を使用すると、「ドア」の背後に所有者が感じられるならば容認されやすい。しかし、そうでなければ不自然な文である。所有者が感じられないならば、(78-c) のように *kyǎ* ‘fall’ を使用するのが普通である。

4-2 私は（私の/自分の）弟を立たせた。【自動詞の使役】

(79) ɲa (ɲǎ/kō) ɲyɪŋ=go raiʔ-ci=bya.

I (I.OBL/self.OBL) younger.brother²⁶ =OBJ stand-CAUS=PRF

「私は（私の/自分の）弟を立たせた」

4-3 私は（私の/自分の）弟に歌を歌わせた。【他動詞の使役】

(80) ɲa (ɲǎ/kō) ɲyɪŋ=go ?é cho-ji=bya.

I (I.OBL/self.OBL) younger.brother=OBJ song say-CAUS=PRF

「私は（私の/自分の）弟に歌を言わせた」

4-4-a（遊びたがっている子供に無理やり）母は子供をパンを買いに行かせた。【強制使役】

(81) a. ?əmwɪŋ kō ?əfe=go (təmaiŋ~təθi) bəŋmũŋ we=phō lá-ji=re.

mother self.OBL child=OBJ (by.force~ELAB) bread buy=NMLS.FUT go-CAUS=RLS

「母は自分の子供に（強制的に）パンを買うように行かせた」

b. ?əmwɪŋ kō ?əfe=go (təmaiŋ~təθi) bəŋmũŋ we=phō hrwaiʔ=te.

mother self.OBL child=OBJ (by.force~ELAB) bread buy=NMLS.FUT send=RLS

「母は自分の子供に（強制的に）パンを買うように送り出した」

c. ?əmwɪŋ kō ?əfe=go (təmaiŋ~təθi) bəŋmũŋ we=phō khyǎ=re.

mother self.OBL child=OBJ (by.force~ELAB) bread buy=NMLS.FUT make.fall=RLS

「母は自分の子供に（強制的に）パンを買うようにした」

²⁶ ビルマ語同様に、マルマ語においても、男性からみた弟と女性からみた弟では語彙がちがう。*ɲyɪŋ* は男性からみた弟である。女性からみた弟は *məŋ* である。

4-4-b (遊びに行きたがっているのを見て) 母は子供に遊びに行かせた。【許可使役】

- (82) a. ʔəmwiŋ kö ʔəfe=go kəjaiʔ=phǒ lá-ji=re.
 mother self.OBL child=OBJ play=NMLS.FUT go-CAUS=RLS
 「母は自分の子供を遊びに行くようにした」
- b. ʔəmwiŋ kö ʔəfe=go kəjaiʔ=phǒ lá=phǒ pí-li=re.
 mother self.OBL child=OBJ play=NMLS.FUT go=NMLS.FUT give-PST=RLS
 「母は自分の子供を遊びに行くようにしてあげた」

4-5-a 私は弟に服を着せた。【他動詞による表現】

- (83) a. ŋa (ŋǎ/kǒ) ŋyiŋ=go kodɔiŋ ʔə-waiʔ waiʔ+pí=re.
 I (I.OBL/self.OBL) younger.brother=OBJ oneself NPX-wear wear+give=RLS
 「私は(私の/自分の)弟に自分で服を着せてあげた」
- b. ŋa (ŋǎ/kǒ) ŋyiŋ=go kodɔiŋ ʔə-waiʔ waiʔ=rǒ/waiʔ=pǒ
 I (I.OBL/self.OBL) younger.brother=OBJ oneself NPX-wear wear=SEQ/wear=SEQ
 pí=re.
 give=RLS
 「私は(私の/自分の)弟に自分で服を着せてあげた」

kodɔiŋ 'oneself' なしでも「私が自分で」という意味になりうるけれども、いれたほうが明示的である。いれなければ、第三者に命じて服を着させた、という解釈も可能となる。

早口でいう場合には(83-a) がもっとも普通に使用される。

4-5-b 私は弟にその服を着させた。【自動詞の使役】

- (84) ŋa (ŋǎ/kǒ) ŋyiŋ=go ʔə-waiʔ waiʔ-ci=re.
 I (I.OBL/self.OBL) younger.brother=OBJ NPX-wear wear-CAUS=RLS
 「私は(私の/自分の)弟に服を着させた」

「弟自身が服を着た」という解釈と「弟がほかの誰かに服を着させた」という解釈がありうる。

4-6 私は弟にその本をあげた。【やりもらい、(話者から見ての)授恩恵と受恩恵の違い】

- (85) ŋa (ŋǎ/kǒ) ŋyiŋ=go yáŋ caʔouʔ(=ko)²⁷ pí=bya.
 I (I.OBL/self.OBL) younger.brother=OBJ that book(=OBJ) give=PRF
 「私は(自分の)弟に(その)本をあげた」

²⁷ 目的格標識をつけると「特定の本」を含意するという。

4-7-a 私は弟に本を読んであげた。【やりもらい，（話者から見ての）授恩恵と受恩恵の違い】

- (86) ŋa (ŋǎ/kǒ) ŋyɪŋ=go caʔouʔ phaiʔ(=rǒ/=pɔ) pí=re/prǎ=re.
I (I.OBL/self.OBL) younger.brother=OBJ book read(=SEQ/=SEQ) give=RLS/show=RLS
「私は（私の/自分の）弟に本を読んであげた/読んでみせた」

4-7-b 兄は私に本を読んでくれた。【やりもらい，（話者から見ての）授恩恵と受恩恵の違い】

- (87) (ŋǎ/kǒ) ʔəko+grí ŋǎ=go caʔouʔ phaiʔ(=rǒ/=pɔ) pí=re/prǎ=re.
(I.OBL/self.OBL) brother+big I.OBL=OBJ book read(=SEQ/=SEQ) give=RLS/show=RLS
「（私の/自分の）兄は私に本を読んであげた/読んでみせた」

4-7-c 私は母に髪を切ってもらった。【テモラウ】

- (88) a. ʔəmwiŋ ŋǎ chaiŋbaŋ(=go) kɔiʔ(=rǒ/=pɔ) pí-li=re.
 mother I.OBL hair(=OBJ) cut(=SEQ/=SEQ) give-PST=RLS
 「母は私の髪を切ってくれた（直訳：髪を切ってあげた）」
 b. ŋa (ŋǎ/kǒ) ʔəmwiŋ=go chaiŋbaŋ kɔiʔ-ci=re.
 I (I.OBL/self.OBL) mother=OBJ hair cut-CAUS=RLS
 「私は（私の/自分の）母に髪を切らせた」

4-8-a 私は（自分の）体を洗った。【再帰】

- (89) ŋa ri khyú-li=re.
I water take.a.bath-PST=RLS
「私は水浴びをした」

(89-a) において再帰をあらわす要素はまったくあらわれていない。

4-8-b 私は手を洗った。【再帰】

- (90) ŋa (ŋǎ/kǒ) ʔəlaʔ chí-li=re.
I (I.OBL/self.OBL) hand wash-PST=RLS
「私は（私の/自分の）手を洗った」

4-8-c 彼は手を洗った。【再帰】

- (91) yáŋ=θu (kǒ) ʔəlaʔ chí-li=re.
that=person (self.OBL) hand wash-PST=RLS
「彼は（自分の）手を洗った」

4-9 (自分のために) 私はその本を買った. 【自利態】

- (92) ɲa (ɲǎ=ʔətʷəʔ/kǒ=ʔətʷəʔ) yáj caʔouʔ we-li=re.
 I (I.OBL=for/self.OBL=for) that book buy-PST=RLS
 「私は (私のために/自分のために) その本を買った」

4-10 彼らは (／その人たちは) (互いに) 殴り合っていた. 【相互】

- (93) yáj=θu=rǒ (tə-yəʔ=ko tə-yəʔ) ʔəlaʔ taŋ-li-niŋ-gaiʔ=te.
 that=person=PL (one-CLF:person=OBJ one-CLF:person) hand put.on-PST-CONT-VRB.PL=RLS
 「彼らは (お互いに) とっくみあいの喧嘩をしていた」

4-11 その人たちは (みんな一緒に) 街へ行った. 【衆動】

- (94) yáj=θu=rǒ (ʔəkunθu ʔətu) mrǒ=dǒ lá-ləkhǎ-gaiʔ=te.
 that=person=PL (all.person together) city=ALL go-go.ANDV-VRB.PL=RLS
 「彼らは (みんな一緒に) 街へ行った」

4-12 その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう). 【自発】

- (95) a. yáj bwě kobəŋ=go ɲo-ji=re.
 that film you.HON=OBJ cry-CAUS=RLS
 「その映画はあなたを泣かせる」
 b. yáj bwě(=go) krě=ge ɲo=phǒ kyǎ=re.
 that film(=OBJ) watch=COND cry=NMLS.FUT fall=RLS
 「その映画を見ると泣いてしまう」
 c. yáj bwě(=go) krě=ge ɲo=phǒ la=re.
 that film(=OBJ) watch=COND cry=NMLS.FUT come=RLS
 「その映画を見ると泣けてくる」
 d. yáj bwě(=go) krě=ge ɲo-khyaŋ=re.
 that film(=OBJ) watch=COND cry-want=RLS
 「その映画を見ると泣きたくなる」
 e. ??yáj bwě(=gá) ɲo-rǎ=re.
 that film(=TOP) cry-can=RLS
 「その映画は泣ける」²⁸

²⁸ 岡野 (2012: 177 (12)) にあがるビルマ語の例をほぼ直訳した(95-e) のような表現は、言われれば理解可能であるけれども、マルマ語では使用されない。

4-13-a 私は卵を割った。【意志／無意志】

- (96) ηa $yáŋ$ $ʔú(=go)$ $khwé-li=re$.
 I that egg(=OBJ) break(vt)-PST=RLS
 「私は卵を割った」

4-13-b (うっかり落として) 私はコップを割った／割ってしまった。【意志／無意志】

- (97) a. ηa ($hmá=rö$) $yáŋ$ $gəloʔ(=ko)$ $khwé-bəloʔ=te$.
 I (mistake=SEQ) that glass(=OBJ) break-COMPL=RLS
 「私は (まちがって) そのグラスを壊しきった」
 b. $ʔ\eta a$ ($hmá=rö$) $yáŋ$ $gəloʔ(=ko)$ $khwé-mwĩŋ-li=re$.
 I (mistake=SEQ) that glass(=OBJ) break-by.mistake-PST=RLS
 「私は (まちがって) そのグラスを壊してしまった」

(97-a) のように ‘ $bəloʔ$ ’ をもちいると「完全に」という含意がある。(97-b) はビルマ語的な表現であり，マルマ語では通常はもちいられない。

4-14-a きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった。【随意の不可能と不随意の不可能】

- (98) a. $\eta y ä g ä(=kha)$ ηa $kəpʰi$ $ʔə-myá$ $θəʔ=pə$ $mə-ʔoiʔ-hnəiŋ-li$.
 yesterday(=time) I coffee NPX-be.many drink=SEQ NEG-sleep-can-PST
 「昨日私はコーヒーをたくさん飲んで眠れなかった」
 b. $\eta y ä g ä(=kha)$ ηa $kəpʰi$ $ʔə-myá$ $θəʔ(-li)=ra=ma$ $mə-ʔoiʔ-hnəiŋ-li$.
 yesterday(=time) I coffee NPX-be.many drink(-PST)=place=LOC NEG-sleep-can-PST
 「昨日私はコーヒーをたくさん飲んだところ (飲んだので)，眠れなかった」

コーヒーのせいでは眠気がなかった，ということ表現している。

4-14-b きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった。【随意の不可能と不随意の不可能】

- (99) $\eta y ä g ä(=kha)$ $\eta ä=ma$ $ʔə-louʔ$ $myá(-li)=ra=ma$ $ʔoiʔ=phö$
 yesterday(=time) I.OBL=LOC NPX-work be.many(-PST)=place=LOC sleep=NMLS.FUT
 $mə-rä-li$.
 NEG-be.able.to-PST
 「昨日私には仕事が多かったところ (多かったので)，眠ることができなかった」

眠気はあったけれども眠っている暇がなかった，ということ表現している。

4-15 私は頭が痛い。【全体と部分・主体・一時的】

- (100) a. ḡǎ ḡəḡḡ koiʔ=te.
I.OBL head bite=RLS
「私の頭が痛い（直訳：私の頭を（何か）が）噛む）」
- b. ḡǎ=ma ḡəḡḡ koiʔ=te.
I.OBL=LOC head bite=RLS
「私において頭が痛い（直訳：私において頭を（何か）が）噛む）」

4-16 彼女は髪が長い。【全体と部分・主体・恒常的】

- (101) a. yáj=θu chaiḡbaḡ ḡə-hre/hre=re.
that=person hair NPX-be.long/be.long=RLS
「その人の髪は長い」
- b. yáj=θu=gá chaiḡbaḡ ḡə-hre/hre=re.
that=person=TOP hair NPX-be.long/be.long=RLS
「その人は髪が長い」
- c. yáj=θu=ma chaiḡbaḡ ḡə-hre/hre=re.
that=person=LOC hair NPX-be.long/be.long=RLS
「その人において髪は長い」

マルマ語で所有をあらわすには、(96)のように一部の名詞については変調させて斜格にするか、名詞を並列するかである。ただし、*yáj=θu*については変調しない。したがって、(101-a)の*yáj=θu chaiḡbaḡ*は「その人の髪」という意味になるのが自然ではあるけれども、文脈によっては「その人は髪が長い」という意味にもなりうる。「その人は髪が長い」と明示的というならば、(101-b)のように主題化標識の=gá ‘=TOP’をもちいる。

4-17-a 彼は（別の）彼の肩をたたいた。【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

- (102) a. yáj=θu yáj=θu paʔkúḡ=ma khoʔ-li=re.
that=person that=person shoulder=LOC knock-PST=RLS
「その人は（別の）その人の肩をたたいた」
- b. yáj=θu ḡə-khrá+lu/lu+khrá paʔkúḡ=ma khoʔ-li=re.
that=person NPX-other=person/person+other shoulder=LOC knock-PST=RLS
「その人は他の人の肩をたたいた」
- c. yáj=θu kō paʔkúḡ=ma khoʔ-li=re.
that=person self.OBL shoulder=LOC knock-PST=RLS
「その人は自分の肩をたたいた」

(102-a)は他人の肩をたたいたという解釈が普通であるけれども、自分の肩をたたいたという解釈も可能である。他人の肩であることを明示したいならば(102-b)のようという。自分の肩というならば、(102-c)のようという。

4-17-b 彼は（別の）彼の腕をつかんだ。【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

- (103) a. yáŋ=θu yáŋ=θu ʔəlaʔ(=ko) koiŋ-li=re.
 that=person that=person arm(=OBJ) hold-PST=RLS
 「その人は（別の）その人の腕をつかんだ」
- b. yáŋ=θu ʔəkhra+lu/lu+khra ʔəlaʔ(=ko) koiŋ-li=re.
 that=person NPX-other=person/person+other arm(=OBJ) hold(-PST)=RLS
 「その人は他人の腕をつかんだ」
- c. yáŋ=θu kō ʔəlaʔ(=ko) koiŋ-li=re.
 that=person self.OBL arm(=OBJ) hold-PST=RLS
 「その人は自分の腕をつかんだ」

(103-a) のようにいうと自分の腕とも他人の腕とも解釈されうる。他人の腕と明示するなら(103-b), 自分の腕と明示するなら(103-c) のようにいう。

4-18-a 私は彼がやって来るのを見た。【知覚構文】

- (104) a. ŋa mraŋ-li=ca=gá yáŋ=θu la-li=re.
 I see-PST=NMLS=TOP that=person come-PST=RLS
 「私が見たのは，その人が来るということだ」
- b. ŋa yáŋ=θu=go la=re=hō mraŋ-li=re.
 I that=person=OBJ come=RLS=QUOT see-PST=RLS
 「私はその人が来るというのを見た」
- c. yáŋ=θu la=ca=go ŋa mraŋ-li=re.
 that=person come=NMLS=OBJ I see-PST=RLS
 「その人が来るのを私は見た」
- d. yáŋ=θu ʔə-la=go ŋa mraŋ-li=re.
 that=person NPX-come=OBJ I see-PST=RLS
 「その人の来訪を私は見た」

(104-b) のように、「見る」という知覚動詞が引用標識をとることがある。(104-d) はあまり使用されない。

4-18-b 私は彼が今日来ることを知っている。【知覚構文】

- (105) a. ŋa θi=ca=gá yáŋ=θu ŋəniŋ la=phō.
 I know=NMLS=TOP that=person today come=NMLS.FUT
 「私を知るのは，その人が今日来るということだ」
- b. ŋă ʔə-θi=gá yáŋ=θu ŋəniŋ la=phō.
 I.OBL NPX-know=TOP that=person today come=NMLS.FUT
 「私の知るところでは，その人は今日来る」

- c. yáŋ=θu ɲəniŋ la=phǒ(=ca)=go ɲa θi=re.
 that=person today come=NMLS.FUT(=NMLS)=OBJ I know=RLS
 「その人が今日来ることを私は知っている」
- d. yáŋ=θu ɲəniŋ la=phǒ=hǒ ɲa θi=re.
 that=person today come=NMLS.FUT=QUOT I know=RLS
 「その人が今日来ると私は知っている」

4-19 彼は自分（のほう）が勝つと思った。【引用文中の再帰】

- (106) a. yáŋ=θu thaŋ-li=ca=gá yáŋ=θu ko=ra ʔɔŋ=phǒ.
 that=person think-PST=NMLS=TOP that=person self=EMPF win=NMLS.FUT
 「その人が思ったのは、その人自身こそが勝つだろうということだ」
- b. yáŋ=θu ʔə-thaŋ hiŋ-li=ca=gá yáŋ=θu ko=ra ʔɔŋ=phǒ.
 that=person NPX-think exist-PST=NMLS=TOP that=person self=EMPF win=NMLS.FUT
 「その人の考えであったのは、その人自身こそが勝つだろうということだ」
- c. yáŋ=θu ko=ra ʔɔŋ=phǒ=hǒ yáŋ=θu thaŋ-li=re.
 that=person self=EMPF win=NMLS.FUT=QUOT that=person think-PST=RLS
 「その人自身こそが勝つだろうとその人は思った」

4-20-a 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】

- (107) ɲa gəɔʔ+ri θɔʔ-li=re.
 I glass+water drink-PST=RLS
 「私はグラスの水を飲んだ」

4-20-b 私は（コップの）水を全部飲んだ。【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】

- (108) ɲa gəɔʔ+ri ʔə-kuj θɔʔ-li=re.
 I glass+water NPX-be.exhausted drink-PST=RLS
 「私はグラスの水を全部飲んだ」

4-21 彼は肉を食べない。【恒常的な否定文】

- (109) yáŋ=θu háŋθá mə-cá.
 that=person meat NEG-eat
 「彼は肉を食べない」

4-22-a 今日は寒い。【感覚述語・非人称文／感覚主体の存在が感じられない，より客観的な表現】

- (110) a. $\eta\text{əniŋ khyáin}=\text{re}$.
today be.cold=RLS
「今日は寒い」
- b. $\eta\text{əniŋ ?í}=\text{re}/\text{mrǎ}=\text{re}$.
today be.very.cold=RLS/be.cold=RLS
「今日は冷たい（寒い）」

(110-a) の *khyáin* は「心地よい寒さ」があることをあらわす。(110-b) の *mrǎ*には「心地よさ」はない。*?í*は「とても寒い」という意味である。

4-22-b 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）。【感覚述語・非人称文／斜格主語】

- (111) a. $\eta\text{a khyáin}=\text{re}/*\text{mrǎ}=\text{re}$.
I be.cold=RLS/*be.cold=RLS
「私は寒い」
- b. $\eta\text{a khyáin}=\text{yɔŋ}/\text{mrǎ}=\text{yɔŋ twí}=\text{re}$.
I be.cold=ESS/be.cold=ESS feel=RLS
「私は寒くなるように感じる」
- c. $\eta\check{\text{a}} \text{ khaiŋtha mrǎ}=\text{re}/*\text{khyáin}=\text{re}$.
I.OBL body be.cold=RLS/*be.cold=RLS
「私の体が寒い」
- d. $\eta\text{a khyáin}=\text{yɔŋ}/\text{mrǎ}=\text{yɔŋ twí}=\text{re}$.
I be.cold=ESS/be.cold=ESS feel=RLS
「私は寒く感じる（直訳：冷たくなるように感じる）」

4-23 人がとても多かったことに私は驚いた。【(感情主体が受動的である) 感情述語】

- (112) a. $\eta\text{a ?aiŋmó kyǎ-li}=\text{ca}=\text{gá lu kóngóŋ hŋ-li}=\text{re}$.
I be.surprised fall-PST=NMLS=TOP person very exist-PST=RLS
「私が驚いたことには，人がとてもいた」
- b. $?ŋǎ ?aiŋmó ?ə\text{-kyǎ hŋ-li}=\text{ca}=\text{gá lu kóngóŋ hŋ-li}=\text{re}$.
I.OBL be.surprised NPX-fall exist-PST=NMLS=TOP person very exist-PST=RLS
「私の驚いたことには，人がとてもいた」
- c. $\text{lu kóngóŋ hŋ-li}=\text{rǒ}/\text{hŋ-li}=\text{ra}=\text{ma } \eta\text{a ?aiŋmó kyǎ-li}=\text{re}$.
person very exist-PST=SEQ/exist-PST=place=LOC I be.surprised fall-PST=RLS
「人がとてもいて（いたので）私は驚いた」

(112-a) と(112-c) は容易に理解可能である。他方，(112-b) は文法的には正しいけれども，理解困難であり，まず使用されない。

4-24 雨が降り始めた。【現象文・現場での直接体験】

- (113) a. mú kyǎ=phǒ cǎ=re.
rain(n) fall=NMLS.FUT start=RLS
「雨が降りはじめた」
- b. ?múgyǎ cǎ=re.
rain(n).fall start=RLS
「雨が降りがはじまった」
- c. mú rwa=phǒ la=bya.
rain(n) rain(v)=NMLS.FUT come=PRF
「雨が降ってきた」

(113-a)~(113-c) はいずれも理解可能であるけれども、(113-b) についてはほとんど使用されない。

4-25 この本はよく売れる。【中間構文】

- (114) a. de ca?ou? kóngóŋ cwaiŋ=re.
this book very sell(vi)=RLS
「この本はよく売れる」
- b. de ca?ou? ?ə-cwaiŋ kóŋ=re.
this book NPX-sell(vi) be.good=RLS
「この本は売上がよい」

岡野 (2012: 182 (25)) にあがるビルマ語の「売る」と同語源の *róŋ* は、マルマ語ではあくまでも他動詞としての用法のみがあり、自動詞的にはもちいられない。岡野 (2012: 183 (25)) にあがる道具主語の例をマルマ語に訳したものを(115) にあげておく。

- (115) a. de dá kóngóŋ prai? =te.
this knife very cut(vi)=RLS
「このナイフはよく切れる」
- b. de dá ?ə-prai? kóŋ=re.
this knife NPX-cut(vi) be.good=RLS
「このナイフは切れ味がよい」

5. 「所有・存在表現」(語研論集 第 18 号)

5-1 あの人は青い目をしている。／青い目の人・目が青い人【一体的(譲渡不可能的)な、恒常的な所有(1)】

- (116) a. yáŋ=θu=ma múgrúrɔŋ+mya?cǐ hǐŋ=re.
that=person=LOC blue.colour+eye exist=RLS
「その人のところには青い目がある」

- b. múgrúrɔŋ+myaʔcǐ hǐŋ=ca lu/hǐŋ=θu (lu).
 blue.colour+eye exist=NMLS person/exist=person (person)
 「青い目がある人」
- c. yáŋ=θu myaʔcǐ múgrúrɔŋ.²⁹
 that=person eye blue.colour
 「その人は目が青い」
- d. múgrúrɔŋ+myaʔcǐ=faŋ.
 blue.colour+eye=owner
 「青い目の持ち主」
- e. múgrúrɔŋ+myaʔcǐ+hǐŋ.³⁰
 blue.colour+eye+exist
 「青目持ち（意訳：青い目がある人・青い目があるもの）」
- f. *múgrúrɔŋ+myaʔcǐ+lu.³¹
 blue.colour+eye=person
 「青い目の人」

5-2 あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている／長い髪の女・髪の長い女【一体的な、恒常的な所有 (2)】

- (117) a. yáŋ=θu chaiŋbaŋ hre=re/?ə-hre.
 that=person hair be.long=RLS/NPX-be.long
 「その人（は／の）髪は長い」
- b. yáŋ=θu=ma chaiŋbaŋ ?ə-hre hǐŋ=re.
 that=person=LOC hair NPX-be.long exist=RLS
 「その人のところに髪は長いのがある」
- c. chaiŋbaŋ hre=ca məmă.
 hair be.long=NMLS woman
 「髪が長い女」
- d. chaiŋbaŋ ?ə-hre hǐŋ=ca³² məmă.
 hair NPX-be.long exist=NMLS woman
 「髪の長いのがある女」
- e. chaiŋbaŋ+hre=faŋ=(mə)mă.
 hair+be.long=owner=woman
 「長髪女」

²⁹ (116-c) には、「その人の目は青い」という解釈もありうる。

³⁰ (116-e) のような外心複合語がマルマ語ではかなり生産的に使用可能である。

³¹ (116-f) は *múgrúrɔŋ+myaʔcǐ+lu tə-yɔʔ* ‘blue.colour+eye=person one-CLF:person’ のように類別詞をともなえば使用可能である。

- f. *chaiŋbaŋ+hre.*
 hair+be.long
 「髪長（意識: 髪長の人・髪長のもの）」

5-3 あの人には髭がある。／髭の男【非普通所有物】

- (118) a. *yáŋ=θu=ma bəráiŋ hǐŋ=re.*
 that=person=LOC beard exist=RLS
 「その人にはひげがある」
- b. *bəráiŋ hǐŋ=ca lu.*
 beard exist=NMLS person
 「ひげがある人」
- c. *bəráiŋ hǐŋ=θu (lu).*
 beard exist=person person
 「ひげがある人」
- d. *??bəráiŋ ?ə-hǐŋ lu.*
 beard NPX-exist person
 「ひげがある人」
- e. *bəráiŋ=faiŋ.*
 beard=owner
 「ひげ男」
- f. *bəráiŋ+hǐŋ.*
 beard+exist
 「ひげあり（意識: ひげがある人・ひげがあるもの）」

5-4 あの人には（見る）目がある。／見る目のある人【慣用句的表現】

- (119) a. *yáŋ=θu mya?ci hraŋ=re.*
 that=person eye live=RLS
 「その人は目が生きている（意識: その人は見る目がある）」
- b. *mya?ci hraŋ=ca lu.*
 eye live=NMLS person
 「目が生きている人（意識: 見る目がある人）」
- c. *mya?ci hraŋ=θu (lu).*
 eye live=person person
 「目が生きている人（意識: 見る目がある人）」
- d. *mya?ci ?ə-hraŋ lu.*
 eye NPX-live person
 「目の生きている人（意識: 見る目のある人）」

³² (117-e) は *hǐŋ=ca* 'exist=NMLS' なしでも通じるけれども、あったほうがわかりやすい。

- e. ?mya?ci+hraŋ=faŋ.
 eye+live=owner
 「具眼の士」
- f. mya?ci+hraŋ.
 eye+live
 「具眼（意識: 具眼の人・具眼のもの）」

(119-a)で「見る目がある」という意味は派生的にはありうるけれども，一般的には「目がよい」，「よく見ることができる」という意味である。

5-5 あの人は 22 歳だ。 / 22 歳の人【側面語のある表現 (1)】

- (120) a. yáŋ=θu ?əθa? hnɔi?+che+hnɔi?(-hnɔi?).
 that=person age two+ten+two(-CLF:year)
 「その人の年齢は 22 (歳) だ」³³
- b. ?əθa? hnɔi?+che+hnɔi?-hnɔi? hɪŋ=ca lu.
 age two+ten+two-CLF:year exist=NMLS person
 「年齢が 22 歳の人」
- c. ?əθa? hnɔi?+che+hnɔi?-hnɔi? hɪŋ=θu (lu).
 age two+ten+two-CLF:year exist=person (person)
 「年齢が 22 歳の人」
- d. hnɔi?+che+hnɔi?-hnɔi?+θá lu.³⁴
 two+ten+two-CLF:year+child person
 「22 歳の人」
- e. hnɔi?+che+hnɔi?-hnɔi?=faŋ.
 two+ten+two-CLF:year=owner
 「22 歳の人（直訳: 22 歳という年齢の持ち主）」
- f. hnɔi?+che+hnɔi?-hnɔi?+hɪŋ.
 two+ten+two-CLF:year+exist
 「22 歳もち（意識: 22 歳である人・22 歳であるもの）」

5-6 あの人は優しい性格だ。 / 優しい性格の人【側面語のある表現 (2)】

- (121) a. yáŋ=θu(=gá) moi?ta=faŋ/kraŋna=faŋ.
 that=person(=TOP) kindness=owner/affection=owner
 「その人は優しい」

³³ (120-a) は語末に類別詞の *-hnɔi?* ‘-CLF:year’ を付加するのが普通である。付加しなくとも意味は通じる。また，全体としては「その人は年齢が 22 (歳) だ」という意味にもなりうるけれども，通常は「その人の年齢は 22 (歳) だ」という意味になる。なお，(120-b) や(120-c) においても類別詞 *-hnɔi?* ‘-CLF:year’ が必須である。

³⁴ (120-c) は，語末の *lu* がなければ「22 歳のいきもの」という意味となる。

- b. yájη=θu(=gá) θəphó/moiʔta/kraŋna kóŋ=re.
 that=person(=TOP) character/kindness/affection be.good=RLS
 「その人は性格がよい」
- c. jaroiʔtä kóŋ=ca lu.
 character be.good=NMLS person
 「性格がよい人」
- d. jaroiʔtä kóŋ=θu (lu).
 character be.good=person person
 「性格がよい人」
- e. jaroiʔtä+góŋ=faŋ.³⁵
 character+be.good=owner
 「よい性格の持ち主」
- f. jaroiʔtä+góŋ.
 character+be.good
 「性格よし (意識: 性格のよい人)」

5-7 あの人は背が高い。 / 背の高い人 【側面語のある表現 (3)】

- (122) a. yájη=θu (ʔəraiʔ) hre=re/ʔə-hre.
 that=person (height) be.long=RLS/NPX-be.long
 「その人は (身長が) 高いです」
- b. yájη=θu lu+hre.
 that=person person+be.long
 「その人は高い人だ」
- c. ʔəraiʔ hre=ca lu.
 height be.long=NMLS person
 「身長が高い人」
- d. ʔəraiʔ hre=θu (lu).
 height be.long=person person
 「身長が高い人」
- e. ʔəraiʔ ʔə-hre lu.
 height NPX-be.long person
 「身長の高い人」
- f. ʔəraiʔ+hre.
 height+be.long
 「背高 (意識: 背の高い人)」

³⁵ 複合語の中では有声交替しうる子音は有声交替する。したがって *jaroiʔtä+góŋ* 'character+be.good' であり, *jaroiʔtä+kóŋ* とはならない。

5-8 あの人は背が 190 センチもある。【側面語のある表現 (4)，属性数量詞構文】

- (123) a. yáj=θu tə-ră+kú+che saĩtimita hre=re/?ə-hre.
 that=person one-hundred.OBL+nine+ten centimetre be.long=RLS/NPX-be.long
 「その人は 190 センチの高さだ」
- b. yáj=θu ?ərai?(=ká/=kǎ) tə-ră+kú+che saĩtimita
 that=person height(=TOP/=ABL) one-hundred.OBL+nine+ten centimetre
 hre=re/?ə-hre.
 be.long=RLS/NPX-be.long
 「その人は身長が 190 センチの高さだ」

(123-a) も(123-b) も *yáj=θu=gá* ‘that=person=TOP’ としたばあい，述部には *?ə-hre* ‘NPX-be.long’ がくるのが普通である。もしも述部を *hre=re* ‘be.long=RLS’ とすると，「その人は身長が 190 センチである」という意味もあるけれども，「その人は（他の人よりも）190 センチ（身長が）高い」という意味にもなる。

5-9 その石は四角い形をしている。／四角い（形の）石【側面語のある表現 (5)】

- (124) a. yáj kyo?lúŋ léthǒŋlébra?³⁶
 that stone square
 「その石は四角い」
- b. léthǒŋlébra?+kyo?lúŋ.
 square+stone
 「四角い石」

5-10 あの人には才能がある。／才能のある人【属性】

- (125) a. yáj=θu=ma ?ũhno? hĩŋ=re.
 that=person=LOC brain exist=RLS
 「その人には知性がある」
- b. ?ũhno? hĩŋ=ca lu/hĩŋ=θu (lu).
 brain exist=NMLS person/exist=person (person)
 「知性のある人」
- c. ?ũhno?=faŋ (lu).
 brain=owner (person)
 「知性のある人」

³⁶ *léthǒŋlébra?* ‘square’ は，さらに分析すれば *lé* ‘four’, *thǒŋ* ‘corner’, *bra?* ‘side’ である。

- d. ?ũhnoʔ+hĩŋ.
 brain+exist
 「知性持ち（意識: 知性のある人）」
- e. yáŋ=θu ?ũhnoʔ=faŋ (lu).
 that=person brain=owner (person)
 「その人は知性がある（人）」
- f. *yáŋ=θu ?ũhnoʔ ?ə-hĩŋ=faŋ.
 that=person brain NPX-exist=owner
 「その人は知性がある」

5-11 あの人は病気だ。 / あの人は熱がある。 / 病気の人【一時的属性】

- (126) a. yáŋ=θu mə-kyáĩŋma.
 that=person NEG-be.healthy
 「その人は健康ではない」
- b. yáŋ=θu phyána=re.
 that=person be.sick=RLS
 「その人は病気である」
- c. yáŋ=θu=ma ?ə-phyá hĩŋ=re.
 that=person=LOC NPX-develop.fever exist=RLS
 「その人には熱がある」
- (127) a. mə-kyáĩŋma=θu.
 NEG-be.healthy=person
 「健康ではない人（直訳: 不健康人）」
- b. mə-kyáĩŋma(=ca) lu.
 NEG-be.healthy(=NMLS) person
 「健康ではない人」
- (128) a. phyána=θu (lu).
 be.sick=person (person)
 「病気である人（直訳: 病人）」
- b. *phyána lu.
 be.sick person
 「病人」
- c. phyána=ca lu.
 be.sick=NMLS person
 「病気である人」
- d. *?ə-phyána lu.
 NPX-be.sick person
 「病気人」

- e. ʔə-phyána hĩŋ=ca lu/hĩŋ=θu (lu).
 NPX-be.sick exist=NMLS person/exist=person (person)
 「病気のある人」
- f. *ʔə-phyána+hĩŋ.
 NPX-be.sick+exist
 「病気もち」
- (129) a. róga-θe.
 disease-person
 「病人」
- b. *róga=θu
 disease=person
 「病人」
- c. róga hĩŋ=ca lu.
 disease exist=NMLS person
 「病気がある人」
- d. róga hĩŋ=θu (lu).
 disease exist=person (person)
 「病気がある人」
- e. róga=ʃaŋ (lu).
 disease=owner (person)
 「病気の持ち主」
- f. róga+hĩŋ.
 disease+exist
 「病気もち」

5-12 あの人は青い服を着ている。／青い服の男【衣服等(1)】

- (130) a. yáŋ=θu múgrúrɔŋ+ʔə-chaŋ waiʔ=te.
 that=person blue.colour+NPX-dress wear=RLS
 「その人は青い服を着ている」
- b. múgrúrɔŋ+ʔə-chaŋ waiʔ=θu (lu).
 blue.colour+NPX-dress wear=person (person)
 「青い服を着る人」
- c. múgrúrɔŋ+ʔə-chaŋ waiʔ=ca lu.
 blue.colour+NPX-dress wear=NMLS person
 「青い服を着る人」
- d. *múgrúrɔŋ+ʔə-chaŋ ʔə-waiʔ lu.
 blue.colour+NPX-dress NPX-wear person
 「青い服の着用者」

- e. múgrúrɔŋ+ʔə-chaŋ=fəŋ.
blue.colour+NPX-dress=owner
「青い服の持ち主」
- f. múgrúrɔŋ+ʔə-chaŋ+waiʔ.
blue.colour+NPX-dress+wear
「青服（意識: 青い服を着ている人）」³⁷

5-13 あの人にはメガネをかけている。／メガネの男【衣服等 (2)】

- (131) a. yáŋ=θu myaʔhmaiŋ waiʔ=te/taiʔ=te.
that=person glasses wear=RLS/put.on=RLS
「その人にはメガネをかけている（直訳: 着ている）」
- b. myaʔhmaiŋ waiʔ=θu/taiʔ=θu.
glasses wear=person/put.on=person
「メガネをかける人（直訳: メガネを着る人）」
- c. myaʔhmaiŋ waiʔ=ca/taiʔ=ca lu.
glasses wear=NMLS/put.on=NMLS person
「メガネをかける人（直訳: メガネを着る人）」
- d. *myaʔhmaiŋ ʔə-waiʔ/ʔə-taiʔ lu.
glasses NPX-wear/NPX-put.on person
「メガネの着用者」
- e. myaʔhmaiŋ=fəŋ (lu).
glasses=owner (person)
「メガネの人（直訳: メガネの持ち主）」
- f. myaʔhmaiŋ+waiʔ/myaʔhmaiŋ+daiʔ.
glasses+wear/glasses+put.on
「メガネの人（直訳: メガネ着/メガネ着用）」

5-14 あの人には妻がいる。／既婚の人・妻のいる人【親族の所有 (1)】

- (132) a. yáŋ=θu=ma məyá h̃ŋ=re.
that=person=LOC wife exist=RLS
「その人には妻がいる」
- b. məyá h̃ŋ=θu.
wife exist=person
「妻がいる人（意識: 妻帯者）」

³⁷ (130-f) で接頭辞 ʔə- 'NPX-' なしで複合語にすることは、文の構造としてはありうる。しかし、実際に使用することはないし、使用したとしても理解することは困難である。

- c. məyá h̥ij=ca lu.
wife exist=NMLS person
「妻がいる人」
- d. *məyá ʔə-h̥ij lu.
wife NPX-exist person
「*妻の存在する人」
- e. məyá+h̥ij.
wife+exist
「妻持ち（意識：妻がいる人）」
- (133) a. wiŋthoŋ=ʃaŋ.
family=owner
「家庭をもつ人（意識：結婚した人）」
- b. wiŋthoŋ-θe.
family-person
「家庭人」
- c. *wiŋthoŋ=θu.
family=person
「家庭人」
- d. wiŋthoŋ prŭ-thá=ca lu.
family do-put=NMLS person
「家庭がある人」
- e. wiŋthoŋ+brŭ.³⁸
family+do
「家庭持ち（意識：家庭がある人）」
- f. laʔthaiʔ-thá=ca lu.
get.married-put=NMLS person
「結婚した人（直訳：結婚しておいた人）」

5-15 あの人には3人子供がいる。／3人の子持ちの人・あの人の子供／妊娠している女性【親族の所有(2)】

- (134) a. yáŋ=θu=ma θá+θəmwíŋ θúŋ-yoʔ h̥ij=re.
that=person=LOC son+daughter three-CLF:person exist=RLS
「彼（女）のところには息子・娘が3人いる」
- b. θá+θəmwíŋ θúŋ-yoʔ h̥ij=ca/phaʔ=ca lu.
son+daughter three-CLF:person exist=NMLS/embrace=NMLS person
「息子・娘が3人いる人」

³⁸ (133-e) が使用されることはまずないけれども，言われれば理解可能である。一般的にもっともよく使用されるのは(133-a)である。

- c. θá+θəmwíŋ θúŋ-yɔʔ +hĩŋ/+phaʔ.
 son+daughter three-CLF:person +exist/+embrace
 「息子・娘 3 人持ち」
- d. *θá+θəmwíŋ θúŋ-yɔʔ ʔə-hĩŋ/ʔə-phaʔ lu.
 son+daughter three-CLF:person NPX-exist/NPX-embrace person
 「*息子・娘が 3 人いる人」
- e. wáŋ=nă məmă.
 belly=COM woman
 「妊娠した女 (直訳: お腹と一緒にの女)」
- f. ko+waiŋ=nă/ko+we=nă məmă.
 self+?=COM/self+?=COM woman
 「妊娠した女 (直訳: 自分の?と一緒にの女)」

5-16 象には足が 4 本ある。【普遍的な事実】

- (135) chaŋ=ma ʔəkhri lé-phaʔ hĩŋ=re.
 elephant=LOC leg four-CLF:one.of.the.pair exist=RLS
 「象には足が四本ある」

5-17 その飲み物にはアルコールが入っている。 / アルコール入りの飲み物 【ともに無生物, 含有物】

- (136) a. yáj ri(=thé)=ma ʔə-múŋ hĩŋ=re/pa=re.
 that water(=place.inside)=LOC NPX-be.drunk exist=RLS/include=RLS
 「その水 (の中) にはアルコールがある (直訳: 酔うものがある)」
- b. ʔə-múŋ hĩŋ=ca/pa=ca ri.
 NPX-be.drunk exist=NMLS/include=NMLS water
 「アルコール入り飲料 (直訳: 酔うものがある水)」
- c. ʔə-múŋ +hĩŋ/+ba ri.
 NPX-be.drunk +exist/+include water
 「アルコール入り飲料 (直訳: 酔うものがある水)」

5-18 あの人はお金を持っている。 / お金持ちの人 【もっとも一般的な所有, やや恒常的】

- (137) a. yáj=θu=ma táŋŋá+pweʃa hĩŋ=re.
 that=person=LOC money+penny exist=RLS
 「その人にはお金がある」
- b. táŋŋá+pweʃa=ʃaŋ (lu).
 money+penny=owner (person)
 「お金を持っている人」
- c. táŋŋá+pweʃa+hĩŋ.
 money+penny+exist
 「お金持ち」

- d. yáj=θu θəthí.
that=person rich
「その人は金持ちだ」

5-19 おまえのところには犬がいるか？ / 犬のいる人【所有， やや恒常的， 所有物は有生・家畜】

- (138) a. kobaŋ(=bóŋ)=ma khwí hǐŋ(=re)=ló?
you.HON(=vicinity)=LOC dog exist(=RLS)=PQ
「あなた（のところに）に犬はいるか？」
b. khwí=faŋ.
dog=owner
「犬を持った人」
c. khwí+hǐŋ.
dog+exist
「犬もち（意識：犬を飼っている人・犬を飼っている家）」

5-20 おまえは（自分の）ペンを持っているか？ / ペンを持っている人【一時的携帯物・自分のもの】

- (139) a. kobaŋ(=bóŋ)=ma (kó) hmaŋdaiŋ hǐŋ(=re)=ló?
you.HON(=vicinity)=LOC (self.OBL) pen exist(=RLS)=PQ
「あなた（のところに）に（自分の）ペンがあるか？」
b. hmaŋdaiŋ=faŋ.
pen=owner
「ペンを持った人」
c. hmaŋdaiŋ+hǐŋ.
pen+exist
「ペン持ち（意識：ペンを持った人）」

5-21 あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている。【一時的携帯物・他人のもの】

- (140) yáj=θu(=bóŋ)=ma ʔəkhra+lu hmaŋdaiŋ hǐŋ=re.
that=person(=vicinity)=LOC other=person pen exist=RLS
「あの人（のところに）に他人のペンがある」

5-22 あの人は運がいい。 / 幸運な人【抽象的・一時的所有物】

- (141) a. yáj=θu=ma kaiŋ kóŋ=re.
that=person=LOC fortune be.good=RLS
「その人のところでは運がよい」

- b. *kaiŋ kóŋ=ca lu.*
 fortune be.good=NMLS person
 「運がよい人」
- c. *kaiŋ+góŋ.*
 fortune+be.good
 「幸運・幸運な人」
- d. *kaiŋ ?ə-kóŋ lu.*
 fortune NPX-be.good person
 「運がよい人」
- e. *lu kaiŋ+góŋ.*
 person fortune+be.good
 「幸運な人」
- f. *kaiŋ+góŋ lu.*
 fortune+be.good person
 「幸運な人」
- (142) a. *yáŋ=θu=ma kaiŋ hĩŋ=re.*
 that=person=LOC fortune exist=RLS
 「その人のところには運がある」³⁹
- b. *kaiŋ hĩŋ=ca lu.*
 fortune+be.good exist=NMLS person
 「運がある人」
- c. *kaiŋ+hĩŋ.*
 fortune+exist
 「運持ち」
- d. **kaiŋ ?ə-hĩŋ lu.*
 fortune NPX-exist person
 「運がある人」
- e. *lu kaiŋ+hĩŋ.*
 person fortune+exist
 「運がある人」
- f. *kaiŋ+hĩŋ lu.*
 fortune+exist person
 「運がある人」

³⁹ (142) の例において *kaiŋ* 'fortune' は「運」のみをあらわし、文脈によって「幸運」にも「悪運」にもなりうる。「幸運」と明示するなら *kaiŋ+góŋ* 'fortune+be.good' をもちいる。

5-23 ここは石が多い，／石の多い土地【恒常的存在＞状態／性質】

- (143) a. də=ma kyoʔ myá=re.
 this=LOC stone be.many=RLS
 「ここには石が多い」
- b. də=ma ʔə-myá+grí kyoʔ hĩŋ=re.
 this=LOC NPX-be.many+be.big stone exist=RLS
 「ここにたくさん石がある」
- c. kyoʔ hĩŋ=ca nera.
 stone exist=NMLS place
 「石がある場所」
- d. *kyoʔ ʔə-hĩŋ nera.
 stone NPX-exist place
 「石の存在地」
- e. *kyoʔ+hĩŋ.
 stone+exist
 「石のある場所」
- f. kyoʔ+hĩŋ+nera.
 stone+exist+place
 「石ありの場所」

- (144) a. də=ma kyoʔ ʔə-myá+grí hĩŋ=re.
 this=LOC stone NPX-be.many+be.big exist=RLS
 「ここに石がたくさんある」
- b. kyoʔ myá=ca nera.
 stone be.many=NMLS place
 「石が多い場所」
- c. kyoʔ ʔə-myá nera.
 stone NPX-be.many place
 「石多き場所」
- d. kyoʔ+myá+nera.⁴⁰
 stone+be.many+place
 「たくさんの石の場所」

5-24 その部屋には椅子が3つある／3つ椅子のある部屋【非恒常的存在と数量】

- (145) a. yáj tɔiʔ=ma thoŋkhuŋ θúŋ-khũ hĩŋ=re.
 that room=LOC chair three-CLF:thing exist=RLS
 「その部屋に椅子が3つある」

⁴⁰ kyoʔ+myá ‘stone+be.many’ は「たくさんの石」という意味である。

- b. yáj tɔiʔ=ma θúŋ-khǔ thoŋkhuŋ hǐŋ=re.
 that room=LOC three-CLF:thing chair exist=RLS
 「その部屋に3つ椅子がある」
- c. thoŋkhuŋ θúŋ-khǔ hǐŋ=ca/*ʔə-hǐŋ tɔiʔ.
 chair three-CLF:thing exist=NMLS/*NPX-exist room
 「椅子が3つある部屋」
- d. θúŋ-khǔ thoŋkhuŋ hǐŋ=ca/*ʔə-hǐŋ tɔiʔ.
 three-CLF:thing chair exist=NMLS/*NPX-exist room
 「3つ椅子がある部屋」
- e. thoŋkhuŋ+θúŋ-khǔ+hǐŋ.
 chair+three-CLF:thing+exist
 「椅子3つ持ち (意訳: 椅子が3つある場所・椅子が3つある人)」
- f. θúŋ-khǔ+thoŋkhuŋ+hǐŋ.
 three-CLF:thing+chair+exist
 「3つ椅子持ち (意訳: 3つ椅子がある場所・3つ椅子がある人)」

5-25 テーブルの上にスプーンがある。 / スプーンのあるテーブル 【存在・存在が新情報】

- (146) a. cákhuŋ=thaʔ=ma jwáŋ hǐŋ=re.
 dining.table=place.above=LOC spoon exist=RLS
 「食卓の上にスプーンがある」
- b. jwáŋ hǐŋ=ca/*ʔə-hǐŋ cákhuŋ.
 spoon exist=NMLS/*NPX-exist dining.table
 「スプーンがある食卓」
- c. jwáŋ+hǐŋ+cákhuŋ.
 spoon+exist+dining.table
 「スプーンあり食卓」⁴¹

5-26 そのスプーンはテーブルの上にある。 / テーブルにあるスプーン 【所在・場所が新情報】

- (147) a. yáj jwáŋ cákhuŋ=thaʔ=ma hǐŋ=re.
 that spoon dining.table=place.above=LOC exist=RLS
 「そのスプーンは食卓の上にある」
- b. cákhuŋ=thaʔ=ma hǐŋ=ca jwáŋ.
 dining.table=place.above=LOC exist=NMLS spoon
 「食卓の上にあるスプーン」

⁴¹ (146-c) は使用頻度は低いけれども、容易に理解可能である。

- c. cákhuŋ jwáiq.
dining.table spoon
「テーブルのスプーン」

5-27 そのペンは私のだ。・そのペンは太郎のだ。／私のペン・太郎のペン【所有物，属格のプロトタイプ】

- (148) a. yáj hmaŋdaiŋ(=gá) ŋǎ=ca.
that pen(=TOP) I.OBL=NMLS
「そのペンは私のだ」
b. ŋǎ hmaŋdaiŋ.
I.OBL pen
「私のペン」

5-28 昨日，学校で火事があった。／私は明日用事があります。【できごとの生起】

- (149) a. ŋyǎgǎ(=kha) kyóŋ=ma mwíŋ loŋ-li=re.
yesterday(=time) school=LOC fire burn-PST=RLS
「昨日学校で火が燃えた」
b. hnaʔphraiŋ(=kha) ŋǎ=ma ʔə-louʔ hĩŋ=re.
tomorrow(=time) I.OBL=LOC NPX-work exist=RLS
「明日私には仕事があります」

5-29 (この世には) お化けなんていない。【実在文】

- (150) de lókǎ=ma púpəroiʔta mə-hĩŋ.
this world=LOC evil.spirit.ELAB NEG-exist
「この世にはお化けなんていない (直訳: この世にはお化けの類はいない)」

5-30 (そこには) 英語を話す人もいるが，話さない人もいる。【絶対存在文 (1)】

- (151) yáj=ma ʔáŋgəloiʔ pró=θu=lé hĩŋ=re, dǒdǒlé mə-pró=θu=lé hĩŋ=re.
that=LOC English speak=person=too exist=RLS however NEG-speak=person=too exist=RLS
「そこには英語を話す人もいるが，話さない人もいる」

5-31 私より英語ができる人は (ほかに／もっと) います。【絶対存在文 (2)】

- (152) a. ŋǎ=thaʔ ʔáŋgəloiʔ taiʔ=ca lu hĩŋ=re.
I.OBL=place.above English be.able.to=NMLS person exist=RLS
「私より英語ができる人がいる」

- b. ?ŋǎ=tha? ?áŋgəloi? ?ə-tai? lu hīŋ=re.
 I.OBL=place.above English NPX-be.able.to person exist=RLS
 「私より英語ができる人がいる」

5-32 ちょっとあなたにお願いがあります。【抽象的なことの所有・発話内効力のある文】

- (153) ŋǎ(=bóŋ)=ma kobaŋ=?ətʷə? káiŋhláŋ (tə-khǔ/təphěje) hīŋ=re.
 I.OBL(=place.near)=LOC you.HON=for proposal (one-CLF:thing/a.little) exist=RLS
 「私のところにあなたに対して（一つ/少し）提案があります」

5-33 冬の雨【時間】 東京の家【場所】

- (154) a. chón+ mú.
 winter+rain
 「冬の雨」
 b. tokiyo+wiŋ.
 Tokyo+house
 「東京の家」

5-34 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発【B が行為を示す名詞である場合の主体】 車の運転【同じく客体／対象】 ～の小説【A の生産物である B】

- (155) a. yáŋ=θu ri+kú=ca.
 that=person water+go.across=NMLS
 「あの人が泳ぐこと」
 b. yáŋ=θu ri+?ə-kú.
 that=person water+NPX-go.across
 「あの人の泳ぐこと」
 c. yáŋ=θu+rəgú.⁴²
 that=person+water.go.across
 「あの人の泳ぎ」
- (156) a. khwí+həŋ+θaiŋ.
 dog+bark+voice
 「犬の鳴き声」

⁴² *rəgú*は「泳ぎ」という意味である。 *ri* 'water' と *kú* 'go.across' が複合するさいに、 *ri* が *rə*へと弱化し、 *kú*が有声交替して *gú*となっている。そして全体としては外心複合語を形成している。

- b. khwí hɔŋ=ca.
dog bark=NMLS
「犬が鳴くこと」
- c. khwí ʔə-hɔŋ.
dog NPX-bark
「犬の鳴くこと」
- d. *khwí+hɔŋ.
dog+bark
「犬の鳴くこと」
- (157) a. mwíŋdɔŋ pwɔŋ=ca.
fire.mountain open=NMLS
「火山が爆発すること」
- b. mwíŋdɔŋ pwɔŋ=khráŋ.
fire.mountain open=style
「火山が爆発する仕方」
- c. mwíŋdɔŋ ʔə-pwɔŋ.
fire.mountain NPX-open
「火山の爆発」
- d. *mwíŋdɔŋ+bwɔŋ⁴³
fire.mountain+open
「火山爆発」
- (158) a. gari móŋ=ca.
car drive=NMLS
「車を運転すること」
- b. gari móŋ=khráŋ.
car drive=style
「車を運転する仕方」
- c. gari ʔə-móŋ.
car drive=NMLS
「車の運転」
- d. *gari+móŋ.
car+drive
「車運転」

⁴³ *mwíŋdɔŋ+bwɔŋ* は、*ʔəmwíŋ* ‘hair’ + *ʔətɔŋ* ‘wing’ + *pwɔŋ* ‘open’ と解釈されて、「翼の毛が抜けること」という意味になる。

- (159) raju+waiʔthũ.
 PSN+tale
 「ラジュのお話」

5-35 X さん (固有名詞) のお母さん【親族】 机の横に/机の前に/*机に (来て!)【場所名詞】あの人
 の次【時間的關係】

- (160) a. raju+ʔəmwiŋ.
 PSN+mother
 「ラジュの母」
 b. khuŋ=ná=dō⁴⁴ (la=laiʔ).
 table=side=ALL (come=IMP)
 「机の横の方に (来い)」
 c. khuŋ=dō (la=laiʔ).
 table=ALL (come=IMP)
 「机の方に (来い)」
 d. yáj lu ʔəprouʔ/nɔʔkǎ.⁴⁵
 that person after/after
 「あの人その後で/後に」

5-36 バラの花びら【種別】 果物のナイフ【用途】 紙の飛行機【材料・材質】 チューリップの絵【内
 容】 花の匂い【産出物】 英文の手紙【表現形式 (?)】 日本語の先生【職種】 井戸の水【取得源】【「～
 の果物」のような産地でも良い】 雨の日【状況】

- (161) a. hnánji+páinphaiʔ
 rose+petal
 「バラの花びら」
 b. θɔiʔθí θaŋ(=ca) dáʃe.
 fruit cut(=NMLS) knife.small
 「果物を切るナイフ」
 c. θɔiʔθí+dáʃe.⁴⁶
 fruit+knife.small
 「果物ナイフ」
 d. *θɔiʔθí ʔə-θaŋ dáʃe.
 fruit NPX-cut knife.small
 「果物切りナイフ」

⁴⁴ ビルマ語やラカイン語では方向をあらわすために目的格が使用されうる。しかし、マルマ語では通常は使用されず、方向格が使用される。

⁴⁵ ʔəprouʔ も nɔʔkǎ も、時間的のみならず空間的にも「後」であることをあらわしうる。

- e. $\theta\omega i? \theta i? \theta i? \theta \omega a \eta \quad n\omega i \eta = ca \quad d\acute{a} \eta e.$
 fruit NPX-cut can=NMLS knife.small
 「果物切りできるナイフ」
- (162) a. $ca?ku \eta + hlebyai \eta.$
 paper+airplane
 「紙飛行機」
- b. $ca?ku \eta + lou? + hlebyai \eta.$
 paper+work+airplane
 「紙製飛行機」
- c. $*ca?ku \eta \quad lou? = ca/? \theta - lou? \quad hlebyai \eta.$
 paper work=NMLS/NPX-work airplane
 「*紙がつくる飛行機」
- d. $ca?ku \eta = n\grave{a} \quad lou? = ca/*? \theta - lou? \quad hlebyai \eta.$
 paper=COM work=nmls/*NPX-work airplane
 「紙でつくる飛行機」
- (163) a. $hn\acute{a} \eta jib\acute{a} i \eta + ?\omega rou?.$
 rose.flower+picture
 「バラの絵」
- b. $p\acute{a} i \eta + (? \theta) n\acute{a} i \eta.$ ⁴⁷
 flower+smell(n)
 「花の匂い」
- (164) a. $?\acute{a} \eta g\omega loi? + k\acute{a} i \eta ja.$
 English+letter
 「英語の手紙」
- b. $j\omega pai \eta \quad ba\theta a + c\acute{a} g\acute{a} \quad ch\omega ra.$
 Japan language+word teacher
 「日本語の先生」
- c. $j\omega pai \eta \quad ba\theta a + c\acute{a} g\acute{a} \quad \theta a \eta = \theta u.$
 Japan language+word teach=person
 「日本語を教える先生」
- d. $j\omega pai \eta \quad ch\omega ra.$
 Japan teacher
 「日本語の先生・日本人の先生」

⁴⁶ $\theta\omega i? \theta i? + d\acute{a} \eta e$ ‘fruit+knife.small’ といえば「果物を切るためのナイフ」という解釈のほかにも、「果物でできたナイフ」という意味もありうる。

⁴⁷ 名詞の「匂い」は上昇調の $? \theta n\acute{a} i \eta$ であるけれども、動詞の「におう」は低調の $nai \eta$ である。そして、 $p\acute{a} i \eta + n\acute{a} i \eta$ とはいえるけれども、 $pai \eta + nai \eta$ とはいえない。

- (165) a. rədwóŋ+ri.
 well(water.hole)+water
 「井戸の水」
- b. mú+raʔníŋ.
 rain+day.ELAB
 「雨の日」
- c. mú+raʔ.
 rain+day
 「雨の日」
- d. mú+níŋ.
 rain+day
 「雨の日」

5-37 妹の花子／社長の田中さん 【同格】

- (166) a. ŋǎ nəhmǎʃe/ŋjomǎʃe⁴⁸ mina.
 I.OBL younger.sister PSN
 「私の妹ミナ」
- b. kuŋpaní+ʔouʔkhyouʔ raju.
 company+govern PSN
 「会社の社長ラジュ」

5-38 となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ（が昨日突然パンクしたんだって。） 【属格の連続使用】

- (167) wiŋ+bá moiʔchwi ʔəphǎ+ká+taya.⁴⁹
 house+place.beside friend father+car+tyre
 「となりの家の友だちのお父さんの車のタイヤ」

⁴⁸ 「私」が男性なら *nəhmǎʃe*, 女性なら *ŋjomǎʃe* をつかう。

⁴⁹ この文において, *wiŋ+bá moiʔchwi* 'house+place.near friend' は, 「となりの家に住んでいる友達 (私の友達)」という解釈と「となりの家に住んでいる人の友達 (私の友達であるとはかぎらない)」という解釈がありうる。

6. 「他動性」(語研論集 第 19 号)

6-1 【直接影響・変化】

6-1-a 彼はそのハエを殺した。

- (168) yáŋ=θu yáŋ khraŋ=go θaiʔ-li=re.
that=person that fly=OBJ kill-PST=RLS
「その人はそのハエを殺した」

6-1-b 彼はその箱を壊した。

- (169) yáŋ=θu yáŋ θaiʔtaiŋ=go khwé-li=re.
that=person that box=OBJ break-PST=RLS
「その人はその箱を壊した」

6-1-c 彼はそのスープを温めた。

- (170) yáŋ=θu yáŋ háŋre=go nənín/pəbu pyaŋ-li=re.
that=person that soup=OBJ be.hot.RDP/be.hot.RDP do-PST=RLS
「その人はそのスープをあたたくした」

6-1-d 彼はそのハエを殺したが，死ななかった。(言えるか？ 言えないか？)

- (171) yáŋ=θu yáŋ khraŋ=go θaiʔ-li=re, dödólé mə-θi-li.⁵⁰
that=person that fly=OBJ kill-PST=RLS however NEG-die-PST
「その人はそのハエを殺したが，(そのハエは) 死ななかった」

6-2 【直接影響・無変化】

6-2-a 彼はそのボールを蹴った。

- (172) yáŋ=θu bójlúŋ khaiʔ-li=re.
that=person ball kick-PST=RLS
「その人はボールを蹴った」

⁵⁰ (171) において *θaiʔ-bəłəiʔ=te* ‘kill-COMPL=RLS’ あるいは *θaiʔ=pya* ‘kill=PRF’ といったとすれば，後半の *mə-θi-li* ‘NEG-die-PST’ は成立しない。

6-2-b 彼女は彼の足を蹴った.

- (173) yáŋ=θu yáŋ+lu+ʔəkhri=go khaiʔ-li=re.
 that=person that+person+leg=OBJ kick-PST=RLS
 「その人はその（別の）人の足を蹴った」

6-2-c 彼はその人にぶつかった（故意に）.

- (174) a. yáŋ=θu yáŋ lu=go/lu=nǎ təmaiŋ ʔaʔ-li=re.
 that=person that person=OBJ/person=COM intentionally touch-PST=RLS
 「彼はその人に意図的にふれた」
 b. yáŋ=θu yáŋ lu=go/*lu=nǎ təmaiŋ kǎiŋ-li=re.
 that=person that person=OBJ>(*person=COM) intentionally interrupt-PST=RLS
 「彼はその人を意図的にさえぎった」

6-2-d 彼はその人とぶつかった（うっかり）.

- (175) a. yáŋ=θu yáŋ lu=go/lu=nǎ ʔəlolo ʔaʔ-li=re.
 that=person that person=OBJ/person=COM by.oneself touch-PST=RLS
 「彼はその人にひとりでにぶつかった」
 b. yáŋ=θu yáŋ lu=go/*lu=nǎ ʔəlolo kǎiŋ-li=re.
 that=person that person=OBJ/person=COM by.oneself interrupt-PST=RLS
 「彼はその人をひとりでにさえぎった」

6-3 【知覚 2A vs. 2B】

6-3-a あそこに人が数人見える.

- (176) yə=ma lu lóŋŋə-yəʔ⁵¹ mraŋ-rǎ=re.
 that=LOC person some-CLF:person see-can=RLS
 「あそこに何人か人が見える」

6-3-b 私はその家を見た.

- (177) ŋa yáŋ wiŋ=go krě-li=re.
 I that house=OBJ watch-PST=RLS
 「私はその家を（意図的に）見た」

⁵¹ lóŋŋəにおける ŋəは何らかの語が縮約したものとおもわれる。しかし、常に類別詞が後続するので、lóŋŋəという音形でしかあらわれない。

6-3-c 誰かが叫んだのが聞こえた。

- (178) a. θu ʔo=ca(=go) krá-li=re.
 someone yell=NMLS(=OBJ) hear-PST=RLS
 「誰かが叫ぶのが聞こえた」
 b. θũ ʔə-ʔo(=go) krá-li=re.
 someone.OBL NPX-yell(=OBJ) hear-PST=RLS
 「誰かの叫びが聞こえた」

6-3-d 彼はその音を聞いた。

- (179) yáj=θu yáj ʔəθaiŋ=go krá-li=re.
 that=person that sound=OBJ hear-PST=RLS
 「彼はその音を聞いた」

(180) にしめすように，マルマ語においては，ビルマ語と同様に，「みる」と「きく」は意志性の有無によって語形が異なる。

- (180) a. 「みる」 *krě* (意志性あり) ; *mraŋ* (意志性なし)
 b. 「きく」 *ná+thoŋ* (意志性あり) ; *krá* (意志性なし)

6-4 【(知覚 2A) 発見・獲得・生産など】

6-4-a 彼は (なくした) カギを見つけた。

- (181) a. yáj=θu (pyoʔ-li=ca) θwǎ=go hra=rö twĩ-li=re.
 that=person (disappear-PST=NMLS) key=OBJ search=SEQ find-PST=RLS
 「彼は (なくした) 鍵を探して見つけた」
 b. yáj=θu (pyoʔ-li=ca) θwǎ=go hra=rö ră-li=re.
 that=person (disappear-PST=NMLS) key=OBJ search=SEQ get-PST=RLS
 「彼は (なくした) 鍵を探して手に入れた」

6-4-b 彼は椅子を作った。

- (182) yáj=θu thoŋkhuŋ=go louʔ-li=re.
 that=person chair=OBJ make-PST=RLS
 「彼は椅子を作った」

6-5 【追及】

6-5-a 彼はバスを待っている.

- (183) yáj=θu kágri(=go) cǒŋ-niŋ=re.
 that=person car.big(=OBJ) wait-CONT=RLS
 「その人はバスを待っている」

6-5-b 私は彼が来るのを待っていた.

- (184) a. ŋa yáj=θu la(=phǒ)=ca=go cǒŋ-niŋ-li=re.
 I that=person come(=NMLS.FUT)=NMLS=OBJ wait-CONT-PST=RLS
 「私は彼が来るのを待っていた」
 b. ?ŋa yáj=θu ?ǎ-la=go cǒŋ-niŋ-li=re.
 I that=person NPX-come=OBJ wait-CONT-PST=RLS
 「私は彼の来訪を待っていた」⁵²

6-5-c 彼は財布を探している.

- (185) a. yáj=θu táinŋá+?oi? hra-niŋ=re.
 that=person money+bag search-CONT=RLS
 「彼は財布を探している」
 b. yáj=θu táinŋá+?oi?=ko hra-niŋ=re.
 that=person money+bag=OBJ search-CONT=RLS
 「彼は財布を探している」

(185-a) のように目的格標示なしでも, (185-b) のように目的格標示ありでも, どちらも使用される。ただし, 目的格標示があるほうが, 「ある特定の財布」という含意があるようである。

6-6 【知識 1】

6-6-a 彼はいろんなことをよく知っている.

- (186) a. yáj=θu ja waiŋ mə-cho kóŋgóŋ θi=re.
 that=person what thing NEG-say very know=RLS
 「彼は何であれとても知っている」
 b. yáj=θu kóŋgóŋ ?ǎ-myá+grí θi=re.
 that=person very NPX-be.many+be.big know=RLS
 「彼はとてもたくさん知っている」

⁵² (184-b) は理解可能ではあるけれども, あまり使用されない。

6-6-b 私はあの人を知っている。

- (187) $\eta a \theta u \text{ lu}=\text{go} \quad \theta i=\text{re}.$
 I that person=OBJ know=RLS
 「私はあの人を知っている」

6-6-c 彼はロシア語ができる。

- (188) a. $y\acute{a}\eta=\theta u \quad ruf^{53} +c\acute{o}g\acute{a}(=\text{go}) \quad \text{no}\eta\eta=\text{re}/\text{pr}\acute{o}\text{-h}\eta\eta=\text{re}.$
 that=person Russian+language(=OBJ) can=RLS/speak-can=RLS
 「その人はロシア語が（話すことが）できる」
 b. $y\acute{a}\eta=\theta u \quad ruf=\text{p}\eta\eta\eta \quad \text{pr}\acute{o}\text{-h}\eta\eta=\text{re}.$
 that=person Russian=ESS speak-can=RLS
 「その人はロシア人のように話すことができる」

6-7 【知識 2】

6-7-a あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？

- (189) a. $\eta y\acute{a}g\acute{a} \quad \eta a \text{ ja} \quad \text{pr}\acute{o}\text{-li}=\text{re}=\text{l}\acute{e}, \quad y\acute{a}\eta=\theta u(=\text{go}) \quad (\text{kob}\eta\eta)$
 yesterday I what say-PST=RLS=CQ that=thing(=OBJ) (you.HON)
 $\text{h}\eta\text{mai?}\text{-r}\acute{a}=\text{re}=\text{l}\acute{o}?$
 remember-can=RLS=PQ
 「昨日私が言ったこと，それを（あなたは）覚えていますか？」
 b. $\eta y\acute{a}g\acute{a} \quad \eta a (\text{kob}\eta\eta=\text{go}) \quad \text{pr}\acute{o}\text{-li}=\text{ca}=\text{go} \quad (\text{kob}\eta\eta) \quad \text{h}\eta\text{mai?}\text{-r}\acute{a}=\text{re}=\text{l}\acute{o}?$
 yesterday I (you.HON=OBJ) say-PST=NMLS=OBJ (you.HON) remember-can=RLS=PQ
 「昨日私が（あなたに）言ったことを（あなたは）覚えていますか？」

6-7-b 私は彼の電話番号を忘れてしまった。

- (190) $\eta a \text{ y}\acute{a}\eta=\theta u^{54} \quad \text{ph}\acute{u}\eta\eta+\text{nai}\eta\eta\text{bai?} \quad \text{m}\eta\eta\eta\text{-l}\acute{a}\text{k}\eta\eta=\text{re}.$
 I that=person phone+number forget-go.ANDV=RLS
 「私は彼の電話番号を忘れてしまった」

⁵³ *ruf* ‘Russian’ はベンガル語からの借用語なので，マルマ語としては破格ながら，語末に *-f* がある。

⁵⁴ もしも *y\acute{a}\eta* ‘that’ がなければ，*\theta\acute{u}* ‘he/she.OBL’ のように斜格があらわれる。しかし，*y\acute{a}\eta=\theta u* ‘that=person’ のように *\theta u* の前に何か先行すると，斜格にならない。

6-8 【感情 1】

6-8-a 母は子供たちを深く愛していた。

- (191) yáj ʔəmwíŋ θá+θəmwíŋ=rǒ=go kǒŋgǒŋ khyɔiʔ-li=re.
that mother son+daughter=PL=OBJ very love-PST=RLS
「その母は子供たちをととても愛していた」

6-8-b 私はバナナが好きだ。

- (192) ŋa ŋəpyúθí(=go) krɔiʔ=te.
I banana(=OBJ) like=RLS
「私はバナナを好む」

6-8-c 私はあの人が嫌いだ。

- (193) ŋa yáj lu=go múŋ=re.
I that person=OBJ hate=RLS
「私はあの人を嫌う」

6-9 【感情 2】

6-9-a 私は靴が欲しい。

- (194) a. ŋǎ=ma phənaiʔ lo=re.
I.OBL=LOC shoe need=RLS
「私には靴が必要だ」
b. ŋa phənaiʔ(=ko) lo(-khyəŋ)=re.
I shoe(=OBJ) need(-want)=RLS
「私は靴が必要だ」

(194-a) がマルマ語らしいいいまわしである。(194-b) はビルマ語的ないいまわしであり、ラカイン人が使用する傾向にある。

6-9-b 今、彼にはお金が要る。

- (195) a. ʔəgǔ yáj=θu=ma táŋŋá lo=re.
now that=person=LOC money need=RLS
「今、彼にはお金が必要だ」
b. ʔəgǔ yáj=θu táŋŋá lo(-khyəŋ)=re.
now that=person money need(-want)=RLS
「今、彼はお金が必要だ」

(195-a) がマルマ語らしい表現である。(195-b) はビルマ語的な表現であり，ラカイン人が使用する傾向にある。

6-10 【感情 3】

6-10-a (私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている。

- (196) ṅǎ ṅyiŋje bóri pró-li=ra=ma ṅǎ ʔəmwiŋ maiŋ pa-niŋ=re.
I.OBL younber.brother lie say-PST=place=LOC I.OBL mother anger come.close-CONT=RLS
「私の弟が嘘を言ったところ (言ったので)，私の母は怒っている」

6-10-b 彼は犬が怖い。

- (197) yáŋ=θu khwí=go⁵⁵ kɔʔ=te.
that=person dog=OBJ fear=RLS
「彼は犬を恐れる」

6-11 【関係 1】

6-11-a 彼は父親に似ている。

- (198) a. yáŋ=θu (kō) ʔəphǎ=poiŋ.
that=person (self.OBL) father=ESS
「彼は (彼自身の) 父親のようだ」
b. yáŋ=θu (kō) ʔəphǎ=nǎ/ʔəphǎ=poiŋ tu=re.
that=person (self.OBL) father=COM/father=ESS resemble=RLS
「彼は (彼自身の) 父親と似ている」

6-11-b 海水は塩分を含んでいる。

- (199) paŋle+ri=ma chádaiʔ hīŋ=re.
sea+water=LOC salt.content exist=RLS
「海の水に塩分がある」

⁵⁵ =go ‘=OBJ’ は任意の要素ではあるけれども，使用するほうが普通である。

6-12 【関係 2】

6-12-a 私の弟は医者だ.

- (200) a. ḡǎ ḡyijfe(=gá) chíθamá.
 I.OBL younger.brother(=TOP) medical.doctor
 「私の弟は医者だ」
- b. ḡǎ ḡyijfe phrói?=te chíθamá.
 I.OBL younger.brother become=RLS medical.doctor
 「私の弟は医者である」
- c. ḡǎ ḡyijfe(=gá) chíθamá phrói?=te.
 I.OBL younger.brother(=TOP) medical.doctor become=RLS
 「私の弟は医者になった」

(200-b) で *phrói?=te* 'become=RLS' は、形式的には動詞述部のように見える。だが、実際にはあたかも主題化標識のように機能している。これはベンガル語における類似したいまわしを模倣しているとともに、英語の *be* 動詞に影響をうけているのかもしれない。他方、(200-c) のように *phrói?=te* 'become=RLS' を文末に使用すると、動詞述部としての解釈しかありえない。

6-12-b 私の弟は医者になった.

- (201) ḡǎ ḡyijfe chíθamá phrói?=pya.
 I.OBL younger.brother medical.doctor become=PRF
 「私の弟は医者になった」

6-13 【能力 1】

6-13-a 彼は車の運転ができる.

- (202) a. yáj=θu garí móη=phō tai?=te.
 that=person car drive=NMLS.FUT be.able.to=RLS
 「その人は車を運転ができる」
- b. yáj=θu garí ?ə-móη tai?=te.
 that=person car NPX-drive be.able.to=RLS
 「その人は車の運転ができる」
- c. yáj=θu garí ?ə-móη-dai? tə-yo?.
 that=person car NPX-drive-be.able.to one-CLF:person
 「その人は車の運転能力がある人だ」
- d. yáj=θu tə-yo? garí ?ə-móη-dai?.
 that=person one-CLF:person car NPX-drive-be.able.to
 「その人は車の運転能力がある人だ」

- e. yáj=θu garí mój-dai?⁵⁶=te.
 that=person car drive-be.able.to=RLS
 「その人は車を運転できる・その人は車を運転するかもしれない」
- f. yáj=θu garí mój-hnɔiŋ=re.
 that=person car drive-can=RLS
 「その人は車を運転できる・その人は車を運転するかもしれない」

6-13-b 彼は泳げる.

- (203) a. yáj=θu rəgú tai?=te.
 that=person water.crossing(swimming) be.able.to=RLS
 「その人は泳げる (直訳: その人は水渡りができる)」
- b. yáj=θu ri kú=phō tai?=te.
 that=person water go.across=NMLS.FUT be.able.to=RLS
 「その人は泳げる (直訳: その人は水を渡ることができる)」
- c. yáj=θu ri ?ə-kú tai?=te.
 that=person water NPX-go.across be.able.to=RLS
 「その人は泳げる (直訳: その人は水の渡りができる)」
- d. yáj=θu ri ?ə-kú-dai? tə-yɔʔ.
 that=person water NPX-go.across-be.able.to one-CLF:person
 「その人は泳げる (直訳: その人は水の渡り能力がある) 人だ」
- e. yáj=θu tə-yɔʔ ri ?ə-kú-dai?
 that=person one-CLF:person water NPX-go.across-be.able.to
 「その人は泳げる (直訳: その人は水の渡り能力がある) 人だ」
- (204) a. yáj=θu ri kú-dai?=te.
 that=person water go.across-be.able.to=RLS
 「その人は泳げる・その人は泳ぐかもしれない」
- b. yáj=θu ri kú-hnɔiŋ=re.
 that=person water go.across-can=RLS
 「その人は泳げる・その人は泳ぐかもしれない」
- c. yáj=θu rəgú nɔiŋ=re.
 that=person water.crossing(swimming) can=RLS
 「その人は泳げる」

⁵⁶ *tai?* 'be.able.to' は，本動詞として使用すると能力可能のみをあらわす．助動詞として使用すると能力可能も状況可能もあらわしうる．

6-14 【能力2】

6-14-a 彼は話をするのが上手だ.

- (205) a. yáŋ=θu(=gá) cəgá=ma ma=re.
that=person(=TOP) language(=LOC) be.skillful=RLS
「彼は話において巧みである」
- b. yáŋ=θu(=gá) cəgá=ma ?ə-ma.
that=person(=TOP) language=LOC NPX-be.skillful
「彼は話において巧みだ」

6-14-b 彼は走るのが苦手だ.

- (206) a. yáŋ=θu ?ə-brí=ma mə-ma.
that=person NPX-run=LOC NEG-be.skillful
「彼は走りにおいて巧みではない」
- b. yáŋ=θu ?ə-brí=ma ?ə-ma mə-hou?.
that=person NPX-run=LOC NPX-be.skillful NEG-be.right
「彼は走りにおいて巧みではない」

6-15 【移動】

6-15-a 彼は学校に着いた.

- (207) yáŋ=θu ?iʃəku=ma/?iʃəku=dö⁵⁷ rɔʔ=pya.
that=person school=LOC/school=ALL arrive=PRF
「その人は学校に着いた」

6-15-b 彼は道を渡った／横切った.

- (208) yáŋ=θu láij⁵⁸ kú=bya.
that=person road go.across=PRF
「その人は道を渡った」

⁵⁷ *ʔiʃəku=go* 'school=OBJ' とするのはラカイン語的な表現である.

⁵⁸ *láij=go* 'road=OBJ' とするのはラカイン語的な表現であり, あまり使用されない.

6-15-c 彼はこの道を通った.

- (209) a. yáŋ=θu de láij=gǎ lá-li=re.
that=person this road=ABL go-PST=RLS
「彼はこの道から（意識: この道経由で）行った」
- b. yáŋ=θu de láij=dǒ⁵⁹ lá-li=re.
that=person this road=ALL go-PST=RLS
「彼はこの道を行った」

6-16 【感覚1】

6-16-a 彼はお腹を空かしている.

- (210) a. yáŋ=θu mwai?=te.
that=person be.hungry=RLS
「その人は空腹である」
- b. yáŋ=θu mwai?=túŋ.
that=person be.hungry=NMLS.CONT
「その人は空腹状態だ」
- c. yáŋ=θu ?ə-mwai? khaiŋ=re/*niŋ=RLS.
that=person NPX-be.hungry suffer=RLS/*stay=RLS
「その人は（意図的に）空腹をこうむっている」

6-16-b 彼は喉が渴いている.

- (211) a. yáŋ=θu ri ŋai?=te.
that=person water thirst=RLS
「彼は水に飢えている（解釈: 喉が渴いていて水がちかかかない）」
- b. yáŋ=θu ri ŋai?=túŋ.
that=person water thirst=NMLS.CONT
「彼は水に飢えた状態だ（解釈: 喉が渴いていて水がちかかかない）」
- c. yáŋ=θu ri ?ə-ŋai? niŋ=re/khaiŋ=re.
that=person water NPX-thirst stay=RLS/suffer=RLS
「彼は水を意図的に飲まずにいる（解釈: 水はちかかかあるけれども，意図的に喉が渴いた状態にある）」

⁵⁹ *láij=go* ‘road=OBJ’ とするのはラカイン語的な表現であり，あまり使用されない。

- d. yáj=θu ri mwai?=te.
 that=person water be.hungry=RLS
 「彼は喉が渴いている (解釈: 喉が渴いていて水がちかくにあるかもしれないし, ないかもしれない)」
- e. yáj=θu ri mwai?=túj.
 that=person water be.hungry=NMLS.CONT
 「彼は喉が渴いている (解釈: 喉が渴いていて水がちかくにあるかもしれないし, ないかもしれない)」
- f. yáj=θu ri ?ə-mwai? khaij=re/*niij=re
 that=person water NPX-be.hungry suffer=RLS/*stay=RLS
 「彼は喉の渴きをこうむっている (解釈: 喉が渴いていて水がちかくにあるかもしれないし, ないかもしれない)」

6-17 【感覚 2】【完全な一項, もしくは 0 項の感覚述語である。】

6-17-a 私は寒い.

- (212) ŋa khyáij=re.
 I be.cool=RLS
 「私は寒い」

6-17-b 今日は寒い.

- (213) ŋəniŋ khyáij=re.
 today be.cool=RLS
 「今日は寒い」

6-18 【(社会的) 相互行為 1】

6-18-a 私は彼を手伝った／助けた.

- (214) ŋa yáj=θu=go ku-li=re.
 I that=person=OBJ help-PST=RLS
 「私はその人を助けた」

6-18-b 私は彼がそれを運ぶのを手伝った.

- (215) ŋa yáj=θu=go de=ca rwo?=phǒ/??ə-rwo? ku-li=re.
 I that=person=OBJ this=NMLS carry=NMLS.FUT/??NPX-carry help-PST=RLS
 「私は彼がそれを運ぶのを助けた」

6-19 【(社会的) 相互行為 2 (言語行動)】

6-19-a 私はその理由を彼に聞いた。

- (216) $\eta a \ yá\eta = \theta u = go \quad yá\eta \ \text{ʔ}ákró\eta = ca (=go) \quad mwí\eta - li = re.$
I that=person=OBJ that reason=DEF⁶⁰ (=OBJ) ask-PST=RLS
「私は彼にその理由をたずねた」

6-19-b 私はそのことを彼に話した。

- (217) a. $\eta a \ yá\eta \ \text{ʔ}ákró\eta^{61} \ yá\eta = \theta u = go \quad pró - li = re.$
I that subject that=person=OBJ say-PST=RLS
「私はそのことを彼に言った」
b. $\eta a \ yá\eta \ \text{ʔ}ákró\eta = go \quad yu = bo \quad yá\eta = \theta u = go \quad pró - li = re.$
I that subject=OBJ take=SEQ that=person=OBJ say-PST=RLS
「私はそのことをとりあげて彼に話した」

6-20 【再帰・相互】

6-20-a 私は彼と会った。

- (218) a. $\eta a \ yá\eta = \theta u = nã \quad twi - li = re.$
I that=person=COM meet-PST=RLS
「私は彼と会うことになった (解釈: 意図的または非意図的に出会った)」
b. $\eta a \ yá\eta = \theta u = nã \quad \text{ʔ}ə - twi \quad khai\eta - li = re.$
I that=person=COM NPX-meet suffer-PST=RLS
「私は彼と (意図的に) 会った」

7. 「連用修飾的複文」(語研論集 第 20 号)

7-1 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。【同時動作】

- (219) $yá\eta = \theta u \quad \text{ʔ}əmré = dó\eta \ \thetaədájja \ \text{phai}ʔ = rō \ \text{ʔ}ətó\eta \ \text{thəm}ó\eta \ cá = re.$
that=person always=each newspaper read=SEQ SIM rice eat=RLS
「彼はいつも新聞を読みつつご飯を食べる」

⁶⁰ 定辞の=*ca* ‘=DEF’ と語積をつけているのは、対応するベンガル語において定辞の=*ta* があらわれていることによる。しかしながら、この=*ca* は、機能としては指示語あるいは主題化標識に類似したところがあり、名詞化標識の=*ca* ‘=NMLS’ とともに本来的には同一のものであるとおもわれる。マルマ語の名詞化については [Huziwara \(2011\)](#) も参照。

⁶¹ *ʔákró\eta* には「理由」という意味と「ものごと」という意味とがある。

7-2 (私は) 昨日は九時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。【継起的動作・物語的連鎖】

- (220) ɲa ɲyǎǎ kú-khyaʔ=ma wiŋ=dö/?wiŋ=go praiŋ=rö təná tibi
 I yesterday nine-CLF:time=LOC house=ALL/?house=OBJ come.back=SEQ for.a.while TV
 krě=rö ʔoiʔ-li=re.
 watch=SEQ sleep-PST=RLS
 「私は昨日九時に家にもどって、しばらくテレビを見て、寝ました」

7-3 (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。【継起：理由】

- (221) a. ɲa ɲyǎǎ θəgrá=ma lé=ra=ma ʔə-na rǎ-li=re.
 I yesterday staircase=LOC fall.down=place=LOC NPX-pain get-PST=RLS
 「私は昨日階段で倒れたので (直訳: 倒れたところ), ケガをした (直訳: ケガを得た)」
 b. ɲa ɲyǎǎ θəgrá=ma lé=rö ʔə-na rǎ-li=re.
 I yesterday staircase=LOC fall.down=SEQ NPX-pain get-PST=RLS
 「私は昨日階段で倒れて、ケガをした (直訳: ケガを得た)」

同主語ならば, (221-a) のように動名詞の場所格をもちいた理由の表現でも, (221-b) のように継起の表現でも可能である.

7-4 今日も父は会社に行つて、兄は大学に行つた。【異主語】

- (222) a. ɲəniŋ=lé ɲǎ ʔəba kuŋpaní=dö lá-li=re, ʔəra ɲǎ ʔəko
 today=too I.OBL father company=ALL go-PST=RLS and I.OBL elder.brother
 taʔkəθu=dö lá-li=re.
 university=ALL go-PST=RLS
 「今日も私の父は会社に行つた, そして私の兄は大学に行つた」
 b. ɲəniŋ=lé ɲǎ ʔəba kuŋpaní=dö lá=ra=ma, ɲǎ ʔəko
 today=too I.OBL father company=ALL go=place=LOC I.OBL elder.brother
 taʔkəθu=dö lá-li=re.
 university=ALL go-PST=RLS
 「今日も私の父は会社に行つたので (直訳: 行つたところ), 私の兄は大学に行つた」
 c. *ɲəniŋ=lé ɲǎ ʔəba kuŋpaní=dö lá=rö, ɲǎ ʔəko taʔkəθu=dö
 today=too I.OBL father company=ALL go=SEQ I.OBL elder.brother university=ALL
 lá-li=re.
 go-PST=RLS
 「今日も私の父は会社に行つて, 私の兄は大学に行つた」

異主語のばあい, (222-b) のように場所格をもちいた理由の表現は可能である. しかし, (222-c) のように継起の表現は不可能である.

他方，前文が無生物主語であれば，(223-a)のように場所格をもちいた理由の表現でも，(223-b)のように継起の表現でも可能である。

- (223) a. ligrí la=ra=ma yáy ?əpaŋ lé-li=re.
 wind.big come=place=LOC that tree fall.down-PST=RLS
 「嵐が来て（直訳：来たところ）その木は倒れた」
- b. ligrí la=rō yáy ?əpaŋ lé-li=re.
 wind.big come=SEQ that tree fall.down-PST=RLS
 「嵐が来てその木は倒れた」

7-5（あの人は）今日は帽子をかぶって歩いていた。【付帯状況】

- (224) yáy=θu ŋəniŋ=gá mǔ chój=rō θwá-niŋ-li⁶²=re.
 that=person today=TOP hat wear.a.hat=SEQ walk-CONT-PST=RLS
 「あの人は今日は帽子を着て歩いていた」

7-6（私は）休みの日にはいつも本を読んだり，テレビを見たりしています。【並行動作】

- (225) (ŋa) ?əpoi?ra?(=ma) cho=ge ?əmre=dójŋ ca?ou? phai?=rō tibi krě=rō niŋ=re.
 (I) holiday(=LOC) say=COND always=each book read=SEQ TV watch=SEQ stay=RLS
 「(私は) 休みの日といえばいつも本を読んで，テレビをしています」⁶³

7-7 時間がないから，急いで行こう。【理由・カラ】

- (226) a. ?əkhij mə-hij=ra=ma ?ə-práj lá=phǒ.
 time NEG-exist=place=LOC NPX-be.fast go=FUT
 「時間がないので（直訳：ないところ），急いで行こう」
- b. ?əkhij mə-hij(=ca) ?əkrój=nǎ ?ə-práj lá=phǒ.
 time NEG-exist(=NMLS) reason=COM NPX-be.fast go=FUT
 「時間がないという理由で，急いで行こう」

⁶² θwá-niŋ-li=re ‘walk-CONT-PST=RLS’の方がよく使用されるけれども，θwá-li-niŋ=re ‘walk-PST-CONT=RLS’も可能である。

⁶³ (225)には，「本を読むこともあれば，テレビを見ることもある」，「本を読んだ後で，テレビを見る」という二通りの解釈が可能である。「本を読みながらテレビを見る」としたいならば ca?ou?=lé phai?=rō tibi=lé krě=rō niŋ=re ‘book=too read=SEQ TV=too watch=SEQ stay=RLS’ という。

7-8 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。【理由・ノデ】

- (227) a. $\eta y \acute{a} g \ddot{a} = kha$ $\eta \acute{a} g \acute{o} \eta k \acute{o} i ? = ra = ma$ $kha = d \acute{o} i \eta = kha = tha ?$ $\eta \acute{a} - ya \eta$
yesterday=time head bite=place=LOC time=each=time=than NPX-be.quick
 $\eta \acute{o} i ? - li = re$.
sleep-PST=RLS
「昨日頭が痛かったので（直訳：痛かったところ）普段より早く寝ました」
- b. $\eta y \acute{a} g \ddot{a} = kha$ $\eta \acute{a} g \acute{o} \eta k \acute{o} i ? = te / k \acute{o} i ? = ca$ $\eta \acute{a} k r \acute{o} \eta = n \acute{a}$ $kha = d \acute{o} i \eta = kha = tha ?$
yesterday=time head bite=RLS/bite=NMLS reason=COM time=each=time=than
 $\eta \acute{a} - ya \eta$ $\eta \acute{o} i ? - li = re$.
NPX-be.quick sleep-PST=RLS
「昨日頭が痛かったという理由で普段より早く寝ました」

7-9 あの人は本を買いに行った。【趨向／移動の目的】

- (228) a. $y \acute{a} \eta lu$ $ca ? ou ?$ $we = ph \ddot{o}$ $l \acute{a} - li = re / l \acute{a} kh \acute{a} = bya$.
that person book buy=FUT go-PST=RLS/go.ANDV=PRF
「あの人は本を買いに行った」
- b. $y \acute{a} \eta lu$ $l \acute{a} = r \ddot{o}$ $ca ? ou ?$ $we - li = re$.
that person go=SEQ book buy-PST=RLS
「あの人は行って本を買った」
- c. $*y \acute{a} \eta lu$ $ca ? ou ?$ $l \acute{a} - we - li = re$.⁶⁴
that person book go-buy-PST=RLS
「あの人は本を行って買った」

7-10 (彼は) 外がよく見えるように窓を開けた。【目的・意図】

- (229) $(y \acute{a} \eta = \theta u)$ $pra \eta = d \ddot{o} / pra \eta = go$ $\eta \acute{a} hl \acute{a} p \acute{a} m ra \eta = ph \ddot{o} = \eta \acute{a} t w \acute{o} ?$ $la ? t \acute{a} b \acute{o} ?$
(that=person) place.outside=ALL/place.outside=OBJ well see=NMLS.FUT=for window
 $hl \acute{o} i ? = pya$.
open=PRF
「(その人は) 外をよく見えるように窓を開けた」

7-11 ここでは夏になると、よく雨が降ります。【恒常的条件】

- (230) a. $d \acute{a} = ma$ $ni \eta ra \theta i$ $ph r \acute{o} i ? = ke / r \acute{o} ? = ke$ $kha = d \acute{o} i \eta$ $m \acute{u}$
this=LOC hot.season become=COND/arrive=COND time=each rain(n)

⁶⁴ (228-c) はビルマ語やラカイン語的な表現であり、マルマ語では使用されない。

kyǎ=re/rwa=re.

fall=RLS/rain(v)=RLS

「ここでは暑季になると，たいてい雨が降ります」

b. də=ma niŋraθi=ma kha=dóij mú kyǎ=re/rwa=re.

this=LOC hot.season=loc time=each rain(n) fall=RLS/rain(v)=RLS

「ここでは暑季にたいてい雨が降ります」

7-12 窓を開けると，冷たい風が入って来た。【確定条件・生起】

- (231) a. laʔtəbɔʔ hloiʔ=ra=ma li+mrǎ/ʔə-mrǎ+li ʔəthé=dǒ
 window open=place=LOC wind+be.cold/NPX-be.cold+wind place.inside=ALL
 la-li=re.
 come-PST=RLS
 「窓を開けたので（直訳：開けたところ），冷たい風が中に来た」
- b. laʔtəbɔʔ hloiʔ=rǒ li+mrǎ/ʔə-mrǎ+li ʔəthé=dǒ la-li=re.
 window open=SEQ wind+be.cold/NPX-be.cold+wind place.inside=ALL come-PST=RLS
 「窓を開けると，冷たい風が中に来た」
- c. *laʔtəbɔʔ hloiʔ=ke/hloiʔ-li=ge li+mrǎ/ʔə-mrǎ+li
 window open=COND/open-PST=COND wind+be.cold/NPX-be.cold+wind
 ʔəthé=dǒ la-li=re.
 place.inside=ALL come-PST=RLS
 「窓を開けるなら/開けたなら，冷たい風が中に来た」
- d. laʔtəbɔʔ hloiʔ=ke li+mrǎ/ʔə-mrǎ+li ʔəthé=dǒ
 window open=COND wind+be.cold/NPX-be.cold+wind place.inside=ALL
 la=re/la=phǒ.
 come=RLS/come=NMLS.FUT
 「窓を開けるなら，冷たい風が中に来る」
- e. laʔtəbɔʔ hloiʔ-li=ge li+mrǎ/ʔə-mrǎ+li ʔəthé=dǒ
 window open-PST=COND wind+be.cold/NPX-be.cold+wind place.inside=ALL
 la-li=phǒ.
 come-PST=NMLS.FUT
 「窓を開けたなら，冷たい風が中に来ただろう」

(231-c) のように従属節で条件標識をもちいると，主節で過去形にできない。(231-d) のように主節を現在形または未来形にするか，(231-e) のように反実仮想文として従属節でも主節でも過去形⁶⁵を

⁶⁵ -li ‘-PST’ は過去をあらわす事態で多用されるので語釈としては「過去形」としている。しかしながら，反実仮想文に典型的であるように，かならずしも過去のこととはいえない文においてもあらわれる。むしろ「完了形」と解釈したほうがよいかもしれない。

もちいる必要がある。

7-13 坂を上ると、海が見えた。【確定条件・発見】

- (232) tɔŋgróŋ(=go) taʔ=ra=ma mɾɔiʔ(=ko) mraŋ-rǎ-li=re.
 mountain.path(=OBJ) climb=place=LOC sea⁶⁶ (=OBJ) see-can-PST=RLS
 「山道をのぼったところ、海が見えた」

7-14 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。【仮定条件】

- (233) hnaʔphraiŋ(=kha) mú rwa=ge ŋa yáŋ=dǒ lá=phǒ/*ʔə-lá mǎ-houʔ.
 tomorrow(=time) rain(n) rain(v)=COND I that=ALL go=NMLS.FUT/*NPX-go NEG-be.right
 「明日雨になれば、私はそこに行かない」

7-15 もっと早く起きればよかったなあ。【反実仮想】

- (234) ʔəra cǔjǔ/ʔə-yaiŋ thǎ-li=ge kǔŋ-li=phǒ.
 more early/NPX-be.quick arise-PST=COND be.good-PST=NMLS.FUT
 「もっと早く起きればよかった」

7-16 あんところへ行かなければよかった。【反実仮想・前件否定】

- (235) yáŋ=poŋj jaiʔ ʔəra=dǒ mǎ-lá-li=ge kǔŋ-li=phǒ.
 that=ESS type place=ALL NEG-go-PST=COND be.good-PST=NMLS.FUT
 「あの種類の場所に行かなければよかった」

7-17 1に1を足せば、2になる。【一般的真理】

- (236) toiʔ=nǎ toiʔ pǔŋ=ge hnoŋiʔ phɾoiʔ=te.
 one=COM one gather=COND two become=RLS
 「1と1を足すと2になる」

⁶⁶ マルマ語と同源形式のビルマ語では「(大きな) 川」という意味である。マルマ語地域にはビルマほどの大河がなく、川に対してビルマ語と同源の *khyóŋ* 'river' のみもちいられる。そしてビルマ語の「(大きな) 川」が「海」をあらわすようになったのではないかとおもわれる。なお、ビルマ語の「海」と同源の *paŋle* 'sea' も「海」の意味で使用される。

7-18 駅に着いたら電話をしてください。【仮定条件+働きかけのモダリティ】

- (237) mwínrətháchoi?(=ma) rɔʔ=ke phúj chaʔ(=pa).
 railway.station(=LOC) arrive=COND phone connect(=POL)
 「駅に着いたら電話してください」⁶⁷

7-19 日曜日になったら，みんなで公園に行きたいなあ。【仮定条件+願望】

- (238) a. təláŋŋəniŋ+nīŋ ʔəkunθu=nǎ (ʔətu) ʔúyɔiŋ=dǒ lá-khyaŋ=re.
 Sunday+day everyone=COM (together) garden=ALL go-wan=RLS
 「日曜日にみんなと公園に行きたい」
 b. təláŋŋəniŋ+nīŋ cho=ge/kyǎ=ge/rɔʔ=ke/la=ge ʔəkunθu=nǎ
 Sunday+day say=COND/fall=COND/arrive=COND/come=COND everyone=COM
 (ʔətu) ʔúyɔiŋ=dǒ lá-khyaŋ=re.
 (together) garden=ALL go-wan=RLS
 「日曜日といえば/になるなら/に至れば/が来れば，みんなと公園に行きたい」

7-20 明日雨が降ったら困るなあ。【心配】

- (239) hnaʔphraiŋ(=kha) mú rwa=ge douʔkhǎ/gwǎ kyǎ=phǒ.
 tomorrow(=time) rain(n) rain(v)=COND unhappiness/danger fall=NMLS.FUT
 「明日雨になれば，不幸におちいる/危険におちいる」

7-21 家に来るなら，電話をしてから来てください。【時間的前後関係に則していないナラ条件文】

- (240) wiŋ=dǒ la=ge phúj chaʔ=pɔ la-laiʔ(=pa)/la(=ba)-laiʔ.
 house=ALL come=COND phone connect=SEQ come-COMPL(=POL)/come(=POL)-COMPL
 「家に来るなら，電話してから来てください」

7-22 (もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら，教えてください。【予想を伴った条件文】

- (241) góŋda mre=kha ʔə-θī pí(=ba)!
 gong ring=time NPX-know give(=POL)
 「鐘が鳴る時，知らせてください」

(241) のように *mre=kha* ‘ring=time’ をもちいると，鐘が鳴ること自体は確定していることが含意される。(242) のように *mre=ge* ‘ring=COND’ をもちいれば，鐘が鳴るかどうかは未確定であることが含意される。

⁶⁷ 場所をあらわす=*ma* は任意の要素である。丁寧をあらわす=*pa* は使用されないことがおおい。

7-23 (もしかしたらベルが鳴るかもしれないので) もし鳴ったら, 教えてください. 【予想を伴わない条件文】

- (242) góŋda mre=ge ʔə-θi pí(=ba)!
 gong ring=COND NPX-know give(=POL)
 「鐘が鳴れば, 知らせてください」

7-24 働かざるもの食うべからず. /働かない者は, 食べるべきではない. 【相関構文】

- (243) a. ʔəθu=rö ʔə-louʔ mə-louʔ=lé, yáŋ=θu=rö mə-cá-ră.⁶⁸
 who=PL NPX-work NEG-work=CQ that=person=PL NEG-eat-can
 「仕事をしない人たち, その人たちは食べるべきではない」
 b. ʔə-louʔ mə-louʔ=ca lu cho=ge, mə-cá-ră.
 NPX-work NEG-work=NMLS person say=COND NEG-eat-can
 「仕事をしない人といえ, 食べるべきではない」

7-25 もう少しお金があったらなあ. 【言いさし・願望】

- (244) a. ʔəra táŋŋá hŋ(-li)=ge(=gá)/hŋ(-li)=tə(=gá).⁶⁹
 more money exist(-PST)=COND(=TOP)/exist(-PST)=COND(=TOP)
 「もっとお金があれば (あったら)」
 b. ʔəra táŋŋá hŋ-li=phö cho=ge(=gá)/cho=tə(=gá).
 more money exist-PST=NMLS.IRR say=COND(=TOP)/say=COND(=TOP)
 「もっとお金があったというなら」

7-26 これも食べたら? 【言いさし・提案】

- (245) de=θu=lé cá=ge(=gá)/??cá=tə(=gá)?⁷⁰
 this=thing=too eat=COND(=TOP)/eat=COND(=TOP)
 「これも食べれば?」

⁶⁸ -ră '-can' のかわりに-ʔăŋ 'be appropriate' もよく使用される.

⁶⁹ =tə '=COND' はあまり使用されない. ビルマ語の [θə/ðə] 'COND' と同源形式であるとおもわれる. ただし, 有声交替しない点がビルマ語とは異なる.

⁷⁰ cá=tə(=gá) 'eat=COND(=TOP)' を使用すると「食べていけばなあ」という願望の含意がある. 提案の意味にはならない.

7-27 (やりたいなら自分の)好きなようにやれば?【言いさし・つき放し】

- (246) a. louʔ-khyaŋ=ca=poŋ louʔ!
do-want=NMLS=ESS do
「したいようにしなさい」
- b. louʔ-khyaŋ=ge(=gá)?
do-want=COND(=TOP)
「したければ(意訳: したければ, していいですよ)」

(246-a)のように命令文でいうのがわかりやすいけれども、「言いさし」ではない。「言いさし」でいうならば(246-b)のようになるけれども、適切な文脈がなければわかりにくい。

7-28 このコップは落としても割れない。【仮定的な逆接】

- (247) a. de gəlbʔ khyä=gə⁷¹=lé mə-kwé.
this glass drop(vt)=COND=too NEG-break(vi)
「このグラスは落としても壊れない」
- b. de gəlbʔ prouʔ+kyä=gə=lé mə-kwé.
this glass be.separated+fall=COND=too NEG-break(vi)
「このグラスは落ちても壊れない」

7-29 このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。【アクチュアルな逆接】

- (248) a. de páiŋθí ʔəphúdaŋ hĩŋ-li=gə=lé ʔəfáŋ mə-khyo.
this apple expensive exist-PST=COND=too completely NEG-be.sweet
「このリンゴは高かったのに、まったく甘くない」
- b. de páiŋθí ʔəphúdaŋ hĩŋ-li=re cho=gə=lé ʔəfáŋ mə-khyo.
this apple expensive exist-PST=RLS say=COND=too completely NEG-be.sweet
「このリンゴは高かったとはいえ、まったく甘くない」

7-30 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。【逆接3】

- (249) yáŋ=θu+wĩŋ=dō lá-li=gə=lé yáŋ=θu mə-hĩŋ-li.
that=person+house=ALL go-PST=COND=too that=person NEG-exsit-PST
「その人の家に行ったけれども、その人はいなかった」

⁷¹ =gəは=ge ‘=COND’ の縮約形式である。

7-31 あの人が来るまで、私はここで待っています。【時間的期限 [1]】

- (250) a. yáj=θu mə-la=θəgrá (ŋa) də=ma cǝŋ=phǝ.
 that=person NEG-come=until (I) this=LOC wait=NMLS.FUT
 「その人が来ないうちは、(私は) ここで待ちます」
- b. yáj=θu (mə-)la(=ca)=ʔəthǝ (ŋa) də=ma cǝŋ=phǝ.
 that=person (NEG-)come(=NMLS)=until (I) this=LOC wait=NMLS.FUT
 「その人が来るまでは、(私は) ここで待ちます」

(250-a) では *mə-la* 'NEG-come' のあとに名詞化標識=*ca* 'NMLS' をいれると非文となる。また、否定辞の *mə-*はいわなくても意味は通じるけれども、ほとんどかならず否定辞が使用される。(250-b) では名詞化標識はなくても非文とはならないけれども、名詞化標識をいれるほうが普通である。また、否定辞の *mə-*は使用しても使用しなくても意味にほとんどかわりはない。なお、(250-a) と(250-b) では、(250-a) のほうがより頻繁に使用される。

7-32 あの人が来るまでに、食事を作っておきますよ。【時間的期限 [2]】

- (251) a. yáj=θu mə-la=kha (ŋa) khyáʔ=rǝ thá=phǝ.
 that=person NEG-come=time (I) cook=SEQ put=NMLS.FUT
 「その人が来ないときに、(私は) 料理しておきます」
- b. yáj=θu mə-la=khaŋ (ŋa) khyáʔ=rǝ thá=phǝ.
 that=person NEG-come=before (I) cook=SEQ put=NMLS.FUT
 「その人が来ない前に、(私は) 料理しておきます」
- c. yáj=θu mə-la=θəgrá (ŋa) khyáʔ=rǝ thá=phǝ.
 that=person NEG-come=until (I) cook=SEQ put=NMLS.FUT
 「その人が来ないうちに、(私は) 料理しておきます」
- d. yáj=θu la=phǝ ʔəyáŋ(=gǎ) (ŋa) khyáʔ=rǝ thá=phǝ.
 that=person come=NMLS.FUT before(=ABL) (I) cook=SEQ put=NMLS.FUT
 「その人が来る前に、(私は) 料理しておきます」

8. 「情報構造と名詞述語文」(語研論集 第 21 号)

8-1 えっ、A (固有名詞) が来たの? /いや、A じゃなくて B が来たんだ。【对比焦点 (主語)】

- (252) a. ʔo... mina la-li=ca=lǝ?
 INTJ PSN come-PST=NMLS=PQ
 「おー、ミナが来たの?」
- b. mina mə-houʔ, raju (la-li=ca).
 PSN NEG-be.right PSN (come-PST=NMLS)
 「いや、ミナではない、ラジュ (が来たん) だ」

8-2 誰が来たの？ / A が来たよ。【WH 焦点（主語）・WH 応答焦点（主語）】

- (253) a. ʔəθu la-li=ca=lé?
 who come-PST=NMLS=CQ
 「誰が来たの？」
- b. mina (la-li=ca).
 PSN (come-PST=NMLS)
 「ミナ（が来たんだ）」

8-3 A のほうが大きいんじゃないの？ / いや，A じゃなくて，B のほうが大きいんだよ。【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】

- (254) a. mina(=ra) ʔə-myá/po=rö krí=re, mə-houʔ=ló?
 PSN(=EMPF) NPX-be.many/increase=SEQ be.big=RLS NEG-be.right=PQ
 「ミナがより大きいのではないか？」
- b. mina mə-houʔ, raju(=ra) ʔə-myá/po=rö krí=re.
 PSN NEG-be.right PSN(=EMPF) NPX-be.many/increase=SEQ be.big=RLS
 「ミナではない，ラジュがより大きい」

8-4（電話で）どうしたの？ / うん，今，お客さんが来たんだ。【文焦点（自動詞文）】

- (255) a. ja phroiʔ-li=ca=lé?
 what become-PST=NMLS=CQ
 「何がおきたの？」
- b. ʔo, degü=ra ʔöŋθe roʔ=ca.
 INTJ now=EMPF guset arrive=NMLS
 「うん，たった今お客さんが着いたんだ」⁷²

8-5 あの子供が A を叩いたんだって! / いや，A じゃなくて，B を叩いたんだよ。【対比焦点（目的語）】

- (256) a. yáj ʔəʃe(=gá) mina=go bouʔ-li=ca=ló?
 that child(=TOP) PSN=OBJ hit-PST=NMLS=PQ
 「あの子供がミナを叩いたのか？」
- b. mina(=go) mə-houʔ, raju=go=ra bouʔ-li=ca.
 PSN(=OBJ) NEG-be.right PSN=OBJ=EMPF hit-PST=NMLS
 「いや，ミナではない，ラジュをこそ叩いたんだ」

⁷² (255-b) のように「たった今」というときは，明示的に過去形であることは表示しない。したがって roʔ-li=ca ‘arrive-PST=NMLS’ とはいわない。

8-6 赤い袋と青い袋があるけど、どっちを買うの？ / (私は) 青い袋を買うよ。【対比焦点 (目的語, 特に「どっち」という対比的な疑問語の場合)】

- (257) a. ʔə-niŋ+ʔoiʔ=nǎ múgrúrɔŋ+ʔoiʔ hĩŋ=re, ja=θu(=go)
 NPX-be.red+bag=COM thunder.colour+bag exist=RLS what=thing(=OBJ)
 we=phǒ=lé?
 buy=NMLS.FUT=CQ
 「赤い袋と青い袋がある。どちらを買いますか」
- b. (ŋa) múgrúrɔŋ=ca=go we=phǒ.
 (I) thunder.colour=DEF=OBJ buy=NMLS.FUT
 「(私は) その青い袋を買います」

8-7 A はどこですか？ / A は朝からどっかへでかけたよ。【述語焦点】 (例えば, 朝少し遅く起きて来た A の父親が, 姿の見えない A について母親に尋ねている場面で)

- (258) a. mina jə=ma=lé?
 PSN what=LOC=CQ
 「ミナはどこ？」
- b. mina=gá ɲěgǎ=baj⁷³ ja=dǒ mǝ-θĩ lá-khǎ⁷⁴=re.
 PSN=TOP morning=even what=ALL NEG-know go-ANDV=RLS
 「ミナは朝からどこかに行った」

8-8 (あの子供は) 誰を叩いたの？ / (あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。【WH 焦点 (目的語)・WH 応答焦点 (目的語)】

- (259) a. (yáŋ ʔəʃe) ʔəθũ=go bouʔ-li=ca=lé?
 (that child) who.OBL=OBJ hit-PST=NMLS=CQ
 「(あの子供は) 誰を叩いたのか？」
- b. (yáŋ ʔəʃe) kǒ ɲyiŋ=go bouʔ-li=ca.
 (that child) self.OBL younger.brother=OBJ hit-PST=NMLS
 「(あの子供は) 自分の弟を叩いたのです」

⁷³ 助詞=baj 'even' は奪格の=gǎ '=ABL' に後続するときに「～から」という意味を強調する。ɲěgǎ 'morning' は, 文字どおりには ɲě=gǎ 'night=ABL' と分析可能である。したがって直訳としては「夜から」という意味になることが予想される。しかし, ここでは「朝から」という意味になっている。

⁷⁴ lá-khǎ 'go-ANDV' は, しばしば lǝkhǎ 'go.ANDV' になる。

8-9 (電話で) どうしたの? / うん, A が (自分の) 弟を叩いたんだ. 【文焦点 (他動詞文)】 (例えば, 電話の向こうで子供の泣き声 that 起きたのを聞いての発話)

- (260) a. ja phrɔiʔ-li=ca=lé?
what become-PST=CQ
「何がおきたの?」
- b. ʔɔ, mina(=gá) kǒ mɔŋʃe=go bouʔ-li=ca.
INTJ PSN(=TOP) self.OBL younger.brother=OBJ hit-PST=NMLS
「うん, ミナが自分の弟を叩いたんです」

8-10 あのケーキ, どうした? / (ああ, あれは) A が食べちゃったよ. 【目的語主題化, 主題 (目的語) の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

- (261) a. kemũŋ=ca ja phrɔiʔ-li(=re)=lé?
cake=DEF what become-PST(=RLS)=CQ
「そのケーキは何がおきた?」
- b. (ʔɔ, yáŋ=θu) mina cá-bəlɔiʔ-li=re.
(INTJ that=thing) PSN eat-COMPL-PST=RLS
「(うん, それは) ミナが食べてしまいました」

8-11 私が昨日お店から買ってきたのはこの本だ. 【分裂文】

- (262) a. de=θu=gá yáŋ caʔouʔ, ja=θu ŋa ŋyǎǎ chɔiŋ=gǎ we-li=re=lé.
this=thing=TOP that book what=thing I yesterday shop=ABL buy-PST=RLS=PQ
「これが, 私が昨日店から買った本だ」
- b. ŋa ŋyǎǎ chɔiŋ=gǎ we-li=ca caʔouʔ phrɔiʔ=te de caʔouʔ.
I yesterday shop=ABL buy-PST=NMLS book become=RLS this book
「私が昨日店から買った本は, この本です」

(262-a) は相関関係文. (262-b) が分裂文である.

8-12 あの人は先生だ. この学校でもう 20 年働いている. 【措定文 主題 (名詞述語文の主語) の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

- (263) a. yáŋ lu=gá kyóŋchəra. de kyóŋ=ma hnoiʔ=póŋ+hnoiʔ-che=lúŋ=mǎ
that person=TOP school.teacher this school=LOC year=gather+two-ten=whole=during
ʔə-louʔ louʔ-niŋ=re.
NPX-work work-CONT=RLS
「あの人は先生だ. この学校で 20 年にわたり仕事をしている」
- b. yáŋ lu=gá kyóŋchəra. de kyóŋ=ma louʔ-niŋ=ca
that person=TOP school.teacher this school=LOC work-CONT=NMLS

hnoiʔ=pɔŋ+hnoiʔ-che hŋ=bya/phroiʔ=pya.
 year=gather+two-ten exist=PRF/become=PRF
 「あの人は先生だ。この学校で仕事をするのが 20 年になった」

8-13 彼のお父さんは、あの人だ。【倒置同定文】

- (264) a. yáŋ=θu ʔəphǎ=gá⁷⁵ yáŋ lu (phroiʔ=te).
 that=person father=TOP that person (become=RLS)
 「彼（女）のお父さんが、あの人だ」
- b. yáŋ=θu ʔəphǎ=ra yáŋ lu (phroiʔ=te).
 that=person father=EMPF that person (become=RLS)
 「彼（女）のお父さんこそ、あの人だ」
- c. yáŋ=θu ʔəphǎ=ra=gá yáŋ lu (phroiʔ=te).
 that=person father=EMPF=TOP that person (become=RLS)
 「彼（女）のお父さんこそが、あの人だ」

8-14 あの人が彼のお父さんだ。【同定文】

- (265) a. yáŋ lu=gá⁷⁶ (phroiʔ=te) yáŋ=θu ʔəphǎ.
 that person=TOP (become=RLS) that=person father
 「あの人が彼（女）のお父さんだ」
- b. yáŋ lu=ra (phroiʔ=te) yáŋ=θu ʔəphǎ.
 that person=EMPF (become=RLS) that=person father
 「あの人こそ彼（女）のお父さんだ」
- c. yáŋ lu=ra=gá (phroiʔ=te) yáŋ=θu ʔəphǎ.
 that person=EMPF=TOP (become=RLS) that=person father
 「あの人こそが彼（女）のお父さんだ」

8-15 あさってってというのはね、明日の次の日のことだよ。【定義文】

- (266) (hnaʔphraiŋ tə-raʔ) θaiŋphaʔ (ʔədoiʔpe) cho=ge
 (tomorrow one-CLF:day) two.days.before.or.after.today (meaning) say=COND
 hnaʔphraiŋ=ʔəprouʔ ʔəra tə-raʔ.
 tomorrow=after more one-CLF:day
 「あさって（の意味）というのは、明日の後の一日である」

⁷⁵ yáŋ=θu ʔəphǎ=gá=ra 'that=person father=TOP=EMPF' は理解可能だが、まずいわない。

⁷⁶ yáŋ lu=gá=ra 'that person=TOP=EMPF' は理解可能だが、まずいわない。

8-16 (何人かが入った喫茶店で注文を聞かれて) 私はコーヒーだ。【ウナギ文】

- (267) $\eta a=gá$ $k\phi h\acute{i}$.
 I=TOP coffee
 「私はコーヒーだ」

8-17 【(注文した数人分のお茶が運ばれてきて) どなたがコーヒーですか? との問いに】 コーヒーは私だ。【逆行ウナギ文】

- (268) $k\phi h\acute{i}=gá$ ηa .
 coffee=TOP I
 「コーヒーは私だ」

8-18 その新しくて厚い本は (値段が) 高い。【形容詞述語文 修飾・並列・述語】

- (269) a. $yáj$ $\text{?}\phi\text{-}\theta\phi i\text{?}+ca\text{?ou?}+t\acute{e}th\ddot{u}(=gá)$ $\text{?}\phi h\acute{u}dai\eta$.
 that NPX-be.new+book+thick(=TOP) expensive
 「その新しくて厚い本 (直訳: 新しい本で厚いやつ) は高価だ」
 b. $yáj$ $\text{?}\phi\text{-}\theta\phi i\text{?}+t\acute{e}th\ddot{u}+ca\text{?ou?}(=ká)$ $\text{?}\phi h\acute{u}dai\eta$.
 that NPX-be.new+thick+book(=TOP) expensive
 「その新しく厚い本は高価だ」
 c. $yáj$ $\text{?}\phi\text{-}\theta\phi i\text{?}+t\acute{e}th\ddot{u}+\text{?}\phi h\acute{u}dai\eta+ca\text{?ou?}(=ká)$ $\eta\check{a}=ca$.
 that NPX-be.new+thick+expensive+book(=TOP) I.OBL=NMLS
 「その新しく厚い高価な本は私のだ」
 d. $yáj$ $ca\text{?ou?}(=ká)$ $\theta\phi i\text{?}=te$, $th\ddot{u}=re$ $\text{?}\phi ra$ $\text{?}\phi h\acute{u}dai\eta$.
 that book(=TOP) be.new=RLS be.thick=RLS and expensive
 「その本は, 新しく, 厚く, そして高価だ」
 e. $yáj$ $ca\text{?ou?}(=ká)$ $\text{?}\phi\text{-}\theta\phi i\text{?}$, $t\acute{e}th\ddot{u}$ $\text{?}\phi ra$ $\text{?}\phi h\acute{u}dai\eta$.
 that book(=TOP) NPX-be.new thick and expensive
 「その本は, 新しい, 厚い, そして高価だ」

文法的にいえば, (269-a)~(269-c) のようにいうことが可能であり, 教育をうけた人ならば容易に理解する. しかし, 教育をうけていない人は, 修飾語を複雑にくみあわせることができない. (269-d) のように, ひとつひとつ述語のようにもちいる. さらに(269-e) のように, 述語をすべて名詞的にするのがもっともわかりやすい.

8-19 (砂糖入れを開けて) あっ, 砂糖が無くなっているよ! 【意外性 (mirativity)】

- (270) $\text{?}\phi bal\eta!$ $\theta\acute{e}gr\acute{a}=gá$ $m\acute{a}-h\acute{i}\eta$.
 INTJ suger=TOP NEG-exist
 「あれ! 砂糖がない!」

8-20 午後, 誰かに会うはずだったなあ. 誰だったっけ? あっ, そうだ, ~君だったな. 【思い出し】

- (271) ŋyǎja lu tə-yoʔ=nǎ twi=phǒ cəgá hĩŋ-li=re. yáŋ=θu
 afternoon person one-CLF:person=COM meet=NMLS.FUT word exist-PST=RLS that=person
 ʔəθu hĩŋ-li=re=lé? ʔə, raju=ra=gá!
 who exist-PST=RLS=CQ INTJ PSN=EMPF=TOP
 「午後, 誰かと会う話があった. それは誰だったか. あ, ラジュ君だよね」

9. 「情報標示の諸要素」(語研論集 第 22 号)

9-1 この土地は野菜がよく育つ. だから高い値段で売れるだろう. 【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

- (272) de le=ma háŋ kóngóŋ phrɔiʔ=te. yə=pɔiŋ=ra=ma jí
 this field=LOC vegetables very become=RLS that=ESS=place=LOC value
 ʔə-khaʔ=nǎ cwaiŋ=phǒ.
 NPX-be.expensive=COM sell(vi)=NMLS.FUT
 「この土地で野菜がよくなる. だから, 高値で売れるだろう」

9-2 私は頭が痛い. だから今日は休む. 【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外, 統語的軸項としての機能】

- (273) ŋǎ ʔəgóŋ kɔiʔ=te. yə=pɔiŋ=ra=ma de nĩŋ ʔə-ná yu=phǒ.⁷⁷
 I.OBL head bite=RLS that=ESS=place=LOC this day NPX-rest take=NMLS.FUT
 「私の頭が痛い. だから今日は休みをとる」

9-3 あの人だけ, 時間通りに来た. 【限定】

- (274) θaʔθaʔ yáŋ=θu=ra=gá ʔəkhɪŋ=ʔəhnúŋ/ʔəkhɪŋ=ʔətóŋ la-li=re.
 only that=person=EMPF=TOP time=according.to/time=according.to come-PST=RLS
 「あの人だけが時間通りに来た」

9-4 これはここでしか買えない. 【限定・否定との共起】

- (275) de=θu θaʔθaʔ də=ma=ra we=phǒ⁷⁸ rǎ=re.
 this=thing only this=LOC=EMPF buy=NMLS.FUT can=RLS
 「これはここでだけ買うことができる」

⁷⁷ ʔə-ná yu=phǒ ‘NPX-rest take=NMLS.FUT’ は ná=phǒ ‘rest=NMLS.FUT’ ということもできる.

9-5 その家にいたのは子供ばかりだった。【限定・多数】

- (276) yáj wiŋ=ma θa?θa? ?əfe(=rō)⁷⁹ hīŋ-li=re.
 that house=LOC only child(=PL) exist-PST=RLS
 「その家には子供（たち）だけがいた」

9-6 次回こそ，失敗しないようにしよう。【限定・強調】

- (277) la, nɔ? tə-khoʔ=kha=ra
 come after one-CLF:time=time=EMPF
 mə-fúŋ=phō(=ca)=go/mə-fúŋ=yɔŋ louʔ-kaiʔ=me.
 NEG-lose=NMLS.FUT(=NMLS)=OBJ/NEG-lose=in.order.to do-VRB.PL=IRR
 「来い，今後こそ失敗しないようにしよう」

9-7 疲れたね，お茶でも飲もう。【反限定・例示】

- (278) ŋyó=re=gá. lá, laʔphaʔ~yaʔphaʔ⁸⁰ θɔʔ-kaiʔ=me.
 be.tired=RLS=TOP go tea~ELAB drink-VRB.PL=IRR
 「疲れるなあ。さあ，お茶とか飲もう」

9-8 水さえあれば，数日間は大丈夫だ。【極端・意外】

- (279) θaʔθaʔ ri hīŋ=ge=ra lóŋŋə-raʔ=?ətwɔʔ kóŋ=me.
 only water exist=COND=EMPF some-CLF:day=for be.good=IRR
 「ただ水がありさえすれば，数日間は大丈夫だろう」

9-9 小さい子供まで，その仕事の手伝いをさせられた。【極端・意外】

- (280) a. ?əfe cho=gə=lé de ?ə-louʔ=ma ku=phō kyā-li=re.
 child say=COND=too this NPX-work=LOC help=NMLS.FUT fall-PST=RLS
 「子供といえどもその仕事において助けることにおちいった」

⁷⁸ we=phō ‘buy=NMLS.FUT’ というのはマルマ語的な表現である。we=rō ‘buy=SEQ’ といえはラカイン語的な表現となる。

⁷⁹ 数詞と類別詞がつかずに単独で ?əfe といえは，文脈によって単数にも複数にも解釈されうる。明示的に複数標識=rōをつければ，複数とだけ解釈される。

⁸⁰ laʔphaʔ ‘tea’ は単独でもちいるときは ləphaʔ となることがおおい。そして精巧表現としては，ləphaʔ~yəphaʔ とも ləphaʔ~yaʔphaʔ とも laʔphaʔ~yaʔphaʔ ともいう。しかし，laʔphaʔ~yəphaʔ ということはできない。

- b. ʔəfe cho=gə=lé de ʔə-louʔ=ma ʔə-ku pí-rǎ-li=re.
 child say=COND=too this NPX-work=LOC NPX-help give-must-PST=RLS
 「子供といえどもその仕事において助けを与えなければならなかった」

9-10 私はお金なんか欲しくない。【反極端・低評価】

- (281) ŋa táiŋŋá~pwɛfa mə-lo.
 I money~penny NEG-need
 「私はお金とか必要ない」

9-11 自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。【反極端・最低限】

- (282) ʔə-né+phaʔkǎ⁸¹ kǒ tɔiʔ=ko ko rərwé pyaŋ!
 NPX-be.few+side self.OBL room=OBJ self cleanly do
 「すくなくとも自分の部屋を自分できれいにしなさい」

9-12 私にもちょうだい。【類似・累加】

- (283) ŋǎ=go=lé pí!
 I=OBJ=too give
 「私にもあたえなさい」

9-13 お父さんもう帰って来たね。お母さんは？【反類似・対比（疑問）】

- (284) ʔəba=gá praŋ la=bya. ʔəmwǐŋ=gá?
 father=TOP return come=PRF mother=TOP
 「お父さんは帰ってきた。お母さんは？」

9-14 誰か（が）電話してきたよ。【特定未知（specific unknown）】

- (285) a. (lu) tə-yɔʔ (kobəŋ=go) phúŋ chaʔ-li=re.
 (person) one-CLF:person (you.HON=OBJ) phone connect-PST=RLS
 「ある人が（あなたに）電話をした」
 b. ʔəθu mə-θi (tə-yɔʔ) (kobəŋ=go) phúŋ chaʔ-li=re.
 who NEG-know (one-CLF:person) (you.HON=OBJ) phone connect-PST=RLS
 「誰か知らない人が（あなたに）電話をした」

⁸¹ ʔə-né+phaʔkǎ ‘NPX-be.few+side’ は ʔə-né=chúŋ ‘NPX-be.few=end’ ともいえる。

9-15 誰かに聞いてみよう。【非現実不特定 (irrealis non-specific)】

- (286) a. (lu) tə-yɔʔ=ko mwíŋ=phǒ.
 (person) one-CLF:person=OBJ ask=NMLS.FUT
 「ある人に質問しよう」
- b. (lu) tə-yɔʔ tə-yɔʔ=ko⁸² mwíŋ=phǒ.
 (person) one-CLF:person one-CLF:person=OBJ ask=NMLS.FUT
 「誰かに質問しよう」
- c. (lu) tə-yɔʔ mə-houʔ tə-yɔʔ=ko mwíŋ=phǒ.
 (person) one-CLF:person NEG-be.right one-CLF:person=OBJ ask=NMLS.FUT
 「誰かに質問しよう」

9-16 私のいない間に誰か来た？【疑問 (question)】

- (287) a. ŋa mə-hiŋ=kha tə-yɔʔ tə-yɔʔ la-li=ló?
 I NEG-exist=time one-CLF:person one-CLF:person come-PST=PQ
 「私がいない時に誰か来ましたか」
- b. ŋa mə-hiŋ=kha tə-yɔʔ mə-houʔ tə-yɔʔ la-li=ló?
 I NEG-exist=time one-CLF:person NEG-be.right one-CLF:person come-PST=PQ
 「私がいない時に誰か来ましたか」

9-17 誰か来たら，私に教えてください。【条件節内 (conditional)】

- (288) khyaj=θu+phroiʔ⁸³ la=ge ŋǎ=go pró!
 want=person+become come=COND I.OBJ=OBJ say
 「誰かが来れば，私に言いなさい」

9-18 今日は誰も来るとは思わない。／今日は誰も来ないと思う。【間接 (全部) 否定 (indirect negation)】

- (289) a. ŋa thaŋ=ca=gá ŋəniŋ ʔəra tə-yɔʔ=lé la=phǒ mə-houʔ.
 I think=NMLS=TOP today more one-CLF:person=too come=NMLS.FUT NEG-be.right
 「私が思うのには，今日はもう一人も来ない」
- b. ŋǎ ʔə-thaŋ=gá ŋəniŋ ʔəra tə-yɔʔ=lé la=phǒ mə-houʔ.
 I.OBL NPX-think=TOP today more one-CLF:person=too come=NMLS.FUT NEG-be.right
 「私の考えによれば，今日はもう一人も来ない」

⁸² (286-b)において，ビルマ語的に tə-yɔʔ-yɔʔ=ko ‘one-CLF:person-CLF:person=OBJ’ ということは普通はできない。

⁸³ khyaj=θu+phroiʔ ‘want=person-become’ は「誰であれ」という意味である。

- c. ɲəniŋ ʔəra tə-yɔʔ=lé la=phǒ mə-houʔ(=hǒ) thaŋ=re.
 today more one-CLF:person=too come=NMLS.FUT NEG-be.right(=QUOT) think=RLS
 「今日は今一人も来ないと思う」

9-19 そこには今誰もいないよ。【直接（全部）否定（direct negation）】

- (290) yə=ma dəgǔ tə-yɔʔ=lé mə-hiŋ(=gá).
 that=LOC now one-CLF:person=too NEG-exist(=TOP)
 「そこに今一人もいない（よ）」

9-20 （それは）誰でもできる。【自由選択（free-choice）】

- (291) (də=ca) khyəŋ=θu+phrɔiʔ nɔiŋ=re.
 (this.OBL=NMLS) want=person+become can=RLS
 「（それは）やりたい人が誰であれできる」

9-21 そんなこと（は）、みんな知っているんじゃないか!?! 【自由選択を示す「みんな」】

- (292) a. de=θu=go ʔəkuyθu θi=re, mə-houʔ=lóʔ
 this=thing=OBJ all know=RLS NEG-be.right=PQ
 「それはみんなが知ってるでしょ？」
 b. de=θu=go khyəŋ=θu+phrɔiʔ θi=re, mə-houʔ=lóʔ
 this=thing=OBJ want=person+become know=RLS NEG-be.right=PQ
 「それはやりたい人は誰であれ知ってるでしょ？」

9-22 そんなもの、誰が買うんだよ!?! 誰も買うわけじゃないか! 【反語】

- (293) de=ɲɔiŋ jaiʔ ʔəθu we=phǒ=léʔ tə-yɔʔ=lé we=phǒ
 this=ESS kind.of.thing who buy=NMLS.FUT=CQ one-CLF:person=too buy=NMLS.FUT
 mə-houʔ.
 NEG-be.right
 「このような種類のものを誰が買うか？ 一人も買わないだろう」

9-23 君は英語がうまいね。【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

- (294) naŋ/maiʔ ʔəŋgəloiʔ nɔiŋ=re=gá.
 you(female)/you(male) English can=RLS=TOP
 「君は英語ができるね」

9-24 君は退屈そうだね。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

- (295) naʔ=ma/maiʔ=ma myaʔhna mə-hlǎ=gá.
 you(female).OBL=LOC/you(male)=LOC face NEG-be.beautiful=TOP
 「君の顔は美しくないね（意識: 君は楽しそうではないね・君は退屈そうだね）」

9-25 明日も寒いらしいよ。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

- (296) hnaʔphraiŋ=lé khyáŋ=phǒ=hlaiʔ.
 tomorrow=too be.cold=NMLS.FUT=HS
 「明日も寒くなるそうだ」

10. 「否定，形容詞と連体修飾複文」（語研論集 第 23 号）

10-1 これは私の本ではない。【名詞述語文／コピュラ文の否定】

- (297) a. de=θu ŋǎ caʔouʔ mə-houʔ.
 this=thing I.OBL book NEG-be.right
 「これは私の本ではない」
 b. de caʔouʔ(=ká) ŋǎ=ca mə-houʔ.
 this book(=TOP) I.OBL=NMLS NEG-be.right
 「この本は私のではない」

10-2 この部屋には椅子がない。【存在文の否定】

- (298) de toiʔ=ma thoŋkhuŋ mə-hiŋ.
 this room=LOC chair NEG-exist
 「この部屋に椅子がない」

10-3 この部屋には一つも椅子がない。【全部否定・モノ】

- (299) a. de toiʔ=ma thoŋkhuŋ tə-khǔ(=lé)=baŋ mə-hiŋ.⁸⁴
 this room=LOC chair one-CLF:thing(=too)=even NEG-exist
 「この部屋には椅子が一つさえ（も）ない」
 b. de toiʔ=ma tə-khǔ=baŋ thoŋkhuŋ mə-hiŋ.⁸⁵
 this room=LOC one-CLF:thing=even chair NEG-exist
 「この部屋には一つさえ椅子がない」

10-4 その部屋には誰もいない。【全部否定・ヒト】

- (300) a. de tɔiʔ=ma tə-yɔʔ=lé mə-hĩŋ.⁸⁶
 this room=LOC one-CLF:person=too NEG-exist
 「この部屋には一人もいない」
- b. de tɔiʔ=ma tə-yɔʔ=paŋ mə-hĩŋ.
 this room=LOC one-CLF:person=even NEG-exist
 「この部屋には一人さえいない」
- c. de tɔiʔ=ma tə-yɔʔ=paŋ=lé mə-hĩŋ.
 this room=LOC one-CLF:person=even=too NEG-exist
 「この部屋には一人さえもいない」
- d. de tɔiʔ=ma tə-yɔʔ=lé=baŋ mə-hĩŋ.
 this room=LOC one-CLF:person=too=even NEG-exist
 「この部屋には一人もさえいない」

10-5 その本はこの部屋にない。【所在文の否定】

- (301) a. yáj caʔouʔ(=ca) de tɔiʔ=ma mə-hĩŋ.
 that book(=DEF) this room=LOC NEG-exist
 「その本はこの部屋にない」
- b. de tɔiʔ=ma yáj caʔouʔ(=ca) mə-hĩŋ.
 this room=LOC that book(=DEF) NEG-exist
 「この部屋にその本はない」

10-6 この犬は大きくない。【形容詞文の否定】

- (302) a. de khwí(=ca) ʔə-grí mə-houʔ.
 this dog(=DEF) NPX-be.big NEG-be.right
 「この犬は大きくない」

⁸⁴ モノを否定で強調するときには=paŋ/=baŋ をもちいる。=lé ‘=too’ と=baŋ ‘=even’ の辞順はいれかえ可能である。「名詞・数詞-類別詞」の語順においては、「名詞」にも「数詞-類別詞」にも付加しうる。したがって、たとえば *thoŋkhuŋ=lé=baŋ tə-khũ=lé=baŋ* といえる。

⁸⁵ 「数詞-類別詞・名詞」の語順においては、「数詞-類別詞」または「名詞」のどちらか一方にのみ、=paŋ/=baŋ と=lé ‘=too’ とが任意の辞順で後続しうる。たとえば *tə-khũ thoŋkhuŋ=lé=baŋ* も *tə-khũ=lé=baŋ thoŋkhuŋ* も可能である。しかし、たとえば *tə-khũ=lé=baŋ thoŋkhuŋ=lé=baŋ* は不可能である。

⁸⁶ ヒトを否定で強調するときには=lé ‘=too’ をもちいることがおおいけれども、=paŋ/=baŋ ‘=even’ をもちいることもできるし、併用することもできる。

- b. de khwí(=ca) mə-krí.
this dog(=DEF) NEG-be.big
「この犬は大きくない」⁸⁷

10-7 この犬はあまり大きくない。【形容詞文の部分否定】

- (303) a. de khwí(=ca) kóŋgóŋ ʔə-grí mə-houʔ.
this dog(=DEF) very NPX-be.big NEG-be.right
「この犬はあまり大きくない」
b. de khwí(=ca) kóŋgóŋ mə-krí.
this dog(=DEF) very NEG-be.big
「この犬はあまり大きくない」⁸⁸

10-8 この犬はあの犬より大きい。【比較級】

- (304) a. de khwí(=gá) yáŋ khwí=thaʔ kří=re.
this dog(=TOP) that dog=than be.big=RLS
「この犬はあの犬より大きい」
b. de khwí(=gá) yáŋ khwí=thaʔ ʔə-grí.
this dog(=TOP) that dog=than NPX-be.big
「この犬はあの犬より大きい」

10-9 この犬がその犬たちの中で一番大きい。【最上級】

- (305) a. de khwí(=gá) yáŋ khwí=rö=ma ʔə-grí=chúŋ.
this dog(=TOP) that dog=PL=LOC NPX-be.big=most
「この犬はその犬たちの中で最も大きい」
b. de khwí=gá yáŋ khwí=rö=thaʔ kří=re.
this dog=TOP that dog=PL=than be.big=RLS
「この犬はその犬たちより大きい」

10-10 今日はその人は来ない。【自動詞文の否定】

- (306) a. ŋəniŋ yáŋ=θu mə-la.
today that=person NEG-come
「今日その人は来ない」

⁸⁷ (302-b)には「この犬は大きくならない」という意味もありうる。

⁸⁸ (303-b)には「この犬はあまり大きくならない」という意味もありうる。

- b. ηəniŋ yáŋ=θu la=phǒ mə-houʔ.
 today that=person come=NMLS.FUT NEG-be.right
 「今日その人は来るわけではない」

10-11 あの人はその本を持って行かなかった。【他動詞文の否定】

- (307) yáŋ=θu yáŋ caʔouʔ(=ca=go) yu=rǒ mə-lá-li.
 that=person that book(=NMLS=OBJ) take=SEQ NEG-go-PST
 「その人はその本を持っていなかった」

10-12 全ての学生が参加しなかった。／学生は全員参加しなかった。【数量の全部否定】

- (308) a. kyóŋθu+kyóŋθá⁸⁹ ʔəkujθu ʔə-pa+ʔə-wəŋ mə-hiŋ-li.
 student+student all.person NPX-be.included+NPX-enter NEG-exist-PST
 「学生たちは全員参加しなかった」
- b. kyóŋθu-kyóŋθá tə-yɔʔ=lé(=baŋ) ʔə-pa+ʔə-wəŋ
 student+student one-CLF:person=too(=even) NPX-be.included+NPX-enter
 mə-hiŋ-li.
 NEG-exist-PST
 「学生たちは一人も参加しなかった」
- c. kyóŋθu-kyóŋθá tə-yɔʔ=paŋ(=lé) ʔə-pa+ʔə-wəŋ
 student+student one-CLF:person=even(=too) NPX-be.included+NPX-enter
 mə-hiŋ-li.
 NEG-exist-PST
 「学生たちは一人さえ（も）参加しなかった」

(309) にしめすように、(308-a) は部分否定で「学生たちは全員が参加したわけではなかった」という解釈もありうる。

10-13 全ての学生が参加したわけではない。【数量の部分否定】

- (309) kyóŋθu+kyóŋθá ʔəkujθu ʔə-pa+ʔə-wəŋ mə-hiŋ-li.
 student+student all.person NPX-be.included+NPX-enter NEG-exist-PST
 「学生たちは全員参加したわけではなかった」

⁸⁹ *kyóŋθu+kyóŋθá* 'student+student' は、独立して使用可能かつほぼ同義の語を並列する種類の複合語であり、精巧表現 (elaborate expression) の一種である。

10-14 (私は買わなかった。しかし、決して) 値段が高いというわけではない。【文の否定】

- (310) a. yə=poɪŋ(=lé) mə-hou?, ʔəphú kóngóŋ myá=re.
 that=ESS(=too) NEG-be.right price very.much be.many=RLS
 「そのようではない，値段がとても高い」
- b. ʔəphú kóngóŋ myá=re=hǒ mə-hou?.
 price very.much be.many=RLS=QUOT NEG-be.right
 「値段がとても高いというわけではない」

10-15 走るな！【禁止】

- (311) mə-brí=gě!
 NEG-run=NEG.IMP
 「走るな！」

10-16 大きな声を出すな！【他動詞文の禁止】

- (312) a. ʔə-myá ʔəθaiŋ mə-ke-ji=gě!
 NPX-be.many sound NEG-increase-CAUS=NEG.IMP
 「大きな音をだすな！」
- b. ʔəθaiŋ ʔə-myá mə-ke-ji=gě!
 sound NPX-be.many NEG-increase-CAUS=NEG.IMP
 「音をたくさんだすな！」

10-17 明日は雨は降らないだろう。【推量の否定】

- (313) a. hnaʔphraiŋ mú mə-rwa thaŋ=re.
 tomorrow rain(n) NEG-rain(vi) think=RLS
 「明日雨はふらないと思う」
- b. (ŋa) thaŋ=ca=gá hnaʔphraiŋ mú mə-rwa.
 (I) think=NMLS=TOP tomorrow rain(n) NEG-rain(vi)
 「(私が) 思うに明日雨はふらない」
- c. hnaʔphraiŋ mú rwa=phǒ mə-hou? thaŋ=re.
 tomorrow rain(n) rain(vi)=NMLS.FUT NEG-be.right think=RLS
 「明日雨がふることはないと思う」
- d. (ŋa) thaŋ=ca=gá hnaʔphraiŋ mú rwa=phǒ mə-hou?.
 (I) think=NMLS=TOP tomorrow rain(n) rain(vi)=NMLS.FUT NEG-be.right
 「(私が) 思うに明日雨がふることはない」

10-18 あの人に聞こえないように、小さな声で話してくれ。【目的節の否定】

- (314) a. yáj=θu mə-krá-hnɔiŋ(=hlai?)⁹⁰=yɔŋ ʔəθaiŋ ʔəʃe=nǎ (cəgá) prɔ!
 that=person NEG-hear-can(=in.order.to)=in.order.to sound small=COM (word) say
 「あの人聞こえないように、小さい声で（話を）言いなさい」
- b. ʔəθaiŋ ʔəʃe=nǎ (cəgá) prɔ, yáj=θu mə-krá-hnɔiŋ(=hlai?)=yɔŋ.
 sound small=COM (word) say that=person NEG-hear-can(=in.order.to)=in.order.to
 「小さい声で（話を）言いなさい、あの人聞こえないように」

10-19 私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。【否定のスコープの調節】

- (315) a. ŋa kobəŋ=go maiŋ hmrɔŋ=phǒ=ʔətwɔʔ yə=pɔiŋ mə-prɔ-li.
 I you.HON=OBJ anger lift.up=NMLS.FUT=for that=ESS NEG-say-PST
 「私はあなたを怒らせるためにそのように言わなかった/私はあなたを怒らせるためにそのように言ったのではない」
- b. ŋa yə=pɔiŋ mə-prɔ-li, (je) yáj ʔəkrɔŋ=nǎ kobəŋ maiŋ
 I that=ESS NEG-say-PST (that) that reason=COM you.HON anger
 pa=phǒ.
 be.included=NMLS.FUT
 「あなたが怒るような理由で（意識: あなたを怒らせるために）私はそのように言わなかった/あなたが怒るような理由で私はこのように言ったのではない（意識: 私はあなたを怒らせてたくてそのように言ったのではない）」
- c. ŋa kobəŋ=go maiŋ hmrɔŋ=phǒ=ʔətwɔʔ yə=pɔiŋ prɔ-li=ca
 I you.HON=OBJ anger lift.up=NMLS.FUT=for that=ESS NEG-say-PST=NMLS
 mə-houʔ.
 NEG-be.right
 「私はあなたを怒らせるためにそのように言った、というわけではない」
- d. ŋa yə=pɔiŋ prɔ-li=ca mə-houʔ, (je) yáj ʔəkrɔŋ=nǎ kobəŋ maiŋ
 I that=ESS NEG-say-PST=NMLS NEG-be.right (that) that reason=COM you.HON anger
 pa=phǒ.
 be.included=NMLS.FUT
 「あなたが怒るような理由で（意識: あなたを怒らせるために）私はそう言ったのではない」

(315-a), (315-b) とともに否定のスコープが二通りに解釈される。すなわち、「怒らせることを目的として、そのようには言わなかった」という解釈と、「怒らせることを目的としてはいなかったけれども、そのように言ったことで怒らせてしまった」という解釈である。他方、(315-c) と(315-d) では

⁹⁰ =hlaiʔ 'in.order.to' も使用するとマルマ語的である。使用しないと、よりラカイン語的である。

「怒らせることを目的としてそのように言った，というわけではない」という一通りの解釈しかない。

なお，(315-b)と(315-d)にみられる *je* は，ベンガル語で従属節を形成する接続詞である．任意の要素であり，マルマ語としては破格であるけれども，使用されることもある．

10-20 私が昨日買ってきた本はどこ（にある）？【内の関係の連体修飾節・目的語】

- (316) a. $\eta a \eta y \check{a} g \check{a} \quad we-kh \check{a}=ca \quad ca?ou? \quad ja=ma=l \acute{e}?$
 I yesterday buy-VEN=NMLS book what=LOC=CQ
 「私が昨日買ってきた本はどこ？」
- b. $\eta y \check{a} g \check{a} \quad we-kh \check{a}=ca \quad \eta \check{a} \quad ca?ou? \quad ja=ma=l \acute{e}?$
 yesterday buy-PST.VEN=NMLS I.OBL book what=LOC=CQ
 「昨日買ってきた私の本はどこ？」

10-21 その本を持って来た人は誰（か）？【内の関係の連体修飾節・主語】

- (317) a. $y \acute{a} \eta j \quad ca?ou?(=ko) \quad yu-kh \check{a}^{91}=ca \quad (lu) \quad ? \acute{a} \theta u=l \acute{e}?$
 that book(=OBJ) take-VEN=NMLS (person) who=CQ
 「その本を持って来たのは（持ってきた人は）誰？」
- b. $y \acute{a} \eta j \quad ca?ou?(=ko) \quad yu-kh \check{a}=\theta u \quad (lu) \quad ? \acute{a} \theta u=l \acute{e}?$
 that book(=OBJ) take-VEN=person (person) who=CQ
 「その本を持って来た人は誰？」
- c. $y \acute{a} \eta j \quad ca?ou?(=ko) \quad yu-kh \check{a}=\theta u(=g \acute{a}) \quad ? \acute{a} \theta u=l \acute{e}?$
 that book(=OBJ) take-VEN=person(=TOP) who=CQ
 「その本を持って来た人は誰？」
- d. $y \acute{a} \eta j \quad ca?ou?(=ko) \quad ? \acute{a} \theta u \quad yu-kh \check{a}=ca=l \acute{e}?$
 that book(=OBJ) who take-VEN=NMLS=CQ
 「その本を誰が持って来たの？」
- e. $*y \acute{a} \eta j \quad ca?ou?(=ko) \quad ? \acute{a} \theta u \quad yu-kh \check{a}=\theta u=l \acute{e}?$
 that book(=OBJ) who take-VEN=person=CQ
 「その本を誰が持って来た人なの？」

10-22 この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。【内の関係の連体修飾節・場所】

- (318) a. $de \quad t \acute{o} i? =ca=g \acute{a} \quad \eta \acute{a}=r \check{o} \quad ? \acute{a}-lou? \quad lou? =ca \quad t \acute{o} i?.$
 this room=DEF=TOP I=PL NPX-work work=NMLS room
 「この部屋が私たちの仕事をする部屋です」
- b. $de \quad t \acute{o} i? =ca=g \acute{a} \quad \eta \acute{a}=r \check{o} \quad ? \acute{a}-lou? \quad t \acute{o} i?.$
 this room=DEF=TOP I=PL NPX-work room
 「この部屋が私たちの仕事をする部屋です」

⁹¹ *-khā* ‘-VEN’ は文脈によっては ‘-ANDV’ の解釈をもつ (3-25 参照)。

(318-a) も(318-b) も, 「私たちが」 仕事をする部屋」という解釈もあれば, 「私たちの仕事」を (ほかの誰かが) する部屋」という解釈もありうる.

10-23 足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった. 【内の関係の連体修飾節・所有者】

- (319) a. ?əkhri tə-khyóŋ kyú=ca thoŋkhuj(=go) boi?-loi?=pya.
 leg one-CLF:river break(vi)=NMLS chair(=OBJ) throw-COMPL=PRF
 「足が一本壊れた椅子を捨ててやった」
- b. ?əkhri tə-khyóŋ ?ə-kyú thoŋkhuj(=go) boi?-loi?=pya.
 leg one-CLF:river NPX-break(vi) chair(=OBJ) throw-COMPL=PRF
 「足一本が壊れの椅子を捨ててやった」
- c. ?əkhri tə-khyóŋ gyú thoŋkhuj(=go) boi?-loi?=pya.
 leg one-CLF:river broken chair(=OBJ) throw-COMPL=PRF
 「足一本壊れの椅子を捨ててやった」

10-24 ドアを叩いている音が聞こえる. 【外の関係の連体修飾節】

- (320) a. táŋkhəboi? khə?=ca=go krá=re.
 door knock=NMLS=OBJ hear=RLS
 「ドアをノックするのが聞こえる」
- b. táŋkhəboi? khə?=ca ?əθaiŋ(=go) krá=re.
 door knock=NMLS sound(=OBJ) hear=RLS
 「ドアをノックする音が聞こえる」
- c. ?táŋkhəboi? ?ə-khə?=ko krá=re.
 door NPX-knock=NMLS=OBJ hear=RLS
 「ドアのノックが聞こえる」
- d. táŋkhəboi? khə?+θaiŋ(=go) krá=re.
 door knock+sound(=OBJ) hear=RLS
 「ドアをノックする音が聞こえる」

(320-a) で=go ‘=OBJ’ は任意の要素ながら, あったほうが自然である. (320-b) で=go ‘=OBJ’ は完全に任意の要素である. (320-c) は, 実際に使用されることはまずない. (320-d) は自然な文である.

10-25 あの人が結婚したという噂は本当 (か) ? 【外の関係の連体修飾節】

- (321) a. yáj=θu nəjai?-li=ca θədáj hmaiŋ(=re)=ló?
 that=person marry-PST=NMLS news be.true(=RLS)=PQ
 「彼 (女) の結婚したニュースは本当であるか？」
- b. yáj=θu nəjai?-li=ca θədáj ?ə-hmaiŋ=ló?
 that=person marry-PST=NMLS news NPX-be.true=PQ
 「彼 (女) の結婚したニュースは本当か？」

10-26 私はその人が来た時にご飯を食べていた。【時間節】

- (322) a. yáŋ=θu la-li=kha ŋa thəmóŋ cá-niŋ-li=re/cá=dúŋ(=bya).
 that=person come-PST=time I rice eat-stay-PST=RLS/eat=NMLS.CONT(=PRF)
 「その人が来る（来た）時に私はご飯を食べていた」
- b. ja=kha yáŋ=θu la-li(=re)=lé, yáŋ=kha ŋa thəmóŋ
 what=time that=person come-PST(=RLS)=PQ that=time I rice
 cá-niŋ-li=re/cá=dúŋ(=bya).
 eat-stay-PST=RLS/eat=NMLS.CONT(=PRF)
 「その人が来た時，その時私はご飯を食べていた」

10-27 私はその人が待っている所に行った。【場所節】

- (323) a. yáŋ=θu cǝŋ-niŋ=ca nera=dǝ/nera=go ŋa lá-li=re.
 that=person wait-stay=NMLS place=ALL/place=OBJ I go-PST=RLS
 「彼が待つところに私は行った」
- b. ja=ma yáŋ=θu cǝŋ-niŋ(=re)=lé, yáŋ=dǝ⁹² ŋa lá-li=re.
 what=LOC that=person wait-stay(=RLS)=PQ that=ALL I go-PST=RLS
 「その人が待っている場所，そちらに私は行きました」

10-28 私はその人が走っていったのを見た。【補文節・視覚】

- (324) a. yáŋ=θu brí=ca=go ŋa mraŋ-li=re.
 that=person run=NMLS=OBJ I see-PST=RLS
 「その人が走るのを私は見た」
- b. ŋa mraŋ-li=ca=gá yáŋ=θu brí=dúŋ(=bya).
 I see-PST=NMLS=TOP that=person run=NMLS.CONT(=PRF)
 「私が見たのは，その人が走っているところだ」

10-29 昨日の夜，私は彼らがしゃべっているのを聞いた。【補文節・聴覚】

- (325) a. ŋyǎgǎ+ŋě yáŋ=θu=rǝ cəgá pró=ca=go ŋa krá-li=re.
 yesterday+night that=person=PL word say=NMLS=OBJ I hear-PST=RLS
 「昨日の夜その人たちが話をするのを私は聞いた」
- b. ŋa krá-li=ca=gá ŋyǎgǎ+ŋě yáŋ=θu=rǝ cəgá pró=dúŋ(=bya).
 I hear-PST=NMLS=TOP yesterday+night that=person=PL word say=NMLS.CONT(=PRF)
 「私が聞いたのは，昨日の夜その人たちが話をしていたところだ」

⁹² (323-b)において yáŋ=dǝ ‘that=ALL’ のかわりに yáŋ=go ‘that=OBJ’ というのは非文である。ただし，yáŋ nera=go ‘that place=OBJ’ ならば可能である。

10-30 私はその人が昨日ここに来たことを知っている。【補文節・知識】

- (326) a. yáŋ=θu ŋyǎǵǎ de=dō la-li=ca=go ŋa θi=re.
 that=person yesterday this=ALL come-PST=NMLS=OBJ I know=RLS
 「その人が昨日ここへ来たことを私は知っている」
- b. ŋa θi=ca=gá yáŋ=θu ŋyǎǵǎ de=dō la-li=re.
 I know=NMLS=TOP that=person yesterday this=ALL come-PST=RLS
 「私が知っているのは、その人が昨日ここへ来たということだ」

10-31 (昨日) 彼は彼が今日ここに来たと言った。 / (昨日) 彼は、「私は今日ここに来た」と言った。
 【補文節・直接発話／間接話法】

- (327) a. ŋyǎǵǎ yáŋ=θu pró-li=ca=gá yáŋ=θu ŋənīŋ de=dō la=re.
 yesterday that=person say-PST=NMLS=TOP that=person today this=ALL come=RLS
 「昨日その人が言ったのは、その人が今日ここへ来たということだ」(間接話法)
- b. ŋyǎǵǎ yáŋ=θu pró-li=re “ŋa ŋənīŋ de=dō la=re.”
 yesterday that=person say-PST=RLS I today this=ALL come=RLS
 『私は今日来た』と昨日その人は言った」(直接話法)

10-32 私はリンゴが(あの)皿の上にあったのを食べた。【内在節・従主・主目】

- (328) a. yáŋ lŋbáin=tha?=ma hīŋ-li=ca páinθí=ca(=go)/páinθí(=go) ŋa
 that plate=place.above=LOC exist-PST=NMLS apple=DEF(=OBJ)/apple(=OBJ) I
 cá-li=re.
 eat-PST=RLS
 「あの皿の上にあったリンゴを私は食べた」
- b. ja páinθí=ca yáŋ lŋbáin=tha?=ma hīŋ-li(=re)=lé, yáŋ
 what apple=NMLS that plate=place.above=LOC exist-PST(=RLS)=CQ that
 páinθí=ca(=go)/páinθí(=go) ŋa cá-li=re.
 apple=DEF(=OBJ)/apple(=OBJ) I eat-PST=RLS
 「あの皿の上にあったリンゴ、そのリンゴを私は食べた」

10-33 私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。【内在節・従主・主目】

- (329) a. wiŋ=ma wəŋ-li=ca krəŋ=go ŋa pháin-li=re.
 house=LOC enter-PST=NMLS cat=OBJ I catch-PST=RLS
 「家に入ってきた猫を私は捕まえた」
- b. ja krəŋ wiŋ=ma wəŋ-li(=re)=lé, yáŋ krəŋ=go ŋa pháin-li=re.
 what cat house=LOC enter-PST(=RLS)=CQ that cat=OBJ I catch-PST=RLS
 「家に入ってきた猫、その猫を私は捕まえた」

参考文献

- 大塚行誠. 2013. 「ビルマ語パロー方言基礎語彙」『アジア・アフリカの言語と言語学』8: 163–200. <http://hdl.handle.net/10108/75670>.
- 岡野賢二. 2009. 「ビルマ語の受動表現に関する覚え書き」『語学研究所論集』14: 125–140. <https://doi.org/10.15026/62319>.
- 岡野賢二. 2010. 「現代口語ビルマ語のアスペクト表現について」『語学研究所論集』15: 215–230. <https://doi.org/10.15026/63814>.
- 岡野賢二. 2012. 「ビルマ語のヴォイス—アンケートを中心に—」『語学研究所論集』17: 170–183. <https://doi.org/10.15026/72795>.
- 岡野賢二. 2019a. 「連用修飾的複文：ビルマ語データおよび記述—語研論集第20号特集補遺—」『語学研究所論集』24: 303–315. <https://doi.org/10.15026/94765>.
- 岡野賢二. 2019b. 「特集「否定、形容詞と連体修飾複文」ビルマ語データと記述—語研論集第23号特集補遺—」『語学研究所論集』24: 325–357. <https://doi.org/10.15026/94767>.
- 岡野賢二・トゥザライン. 2019. 「現代ビルマ語の他動性」『語学研究所論集』24: 291–301. <https://doi.org/10.15026/94764>.
- 風間伸次郎. 2020. 「英語：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」『語学研究所論集』25: 139–171. <https://doi.org/10.15026/100161>.
- チンガイリャン. 2019a. 「現代ビルマ語のモダリティー」『語学研究所論集』24: 261–269. <https://doi.org/10.15026/94762>.
- チンガイリャン. 2019b. 「現代ビルマ語の情報標示の諸要素」『語学研究所論集』24: 317–324. <https://doi.org/10.15026/94766>.
- トゥザライン・岡野賢二. 2016. 「「情報構造と名詞述語文」ビルマ語データ」『語学研究所論集』21: 133–139. <https://doi.org/10.15026/93701>.
- トゥザライン・岡野賢二. 2019. 「ビルマ語の所有・存在—語研論集第18号特集補遺—」『語学研究所論集』24: 271–289. <https://doi.org/10.15026/94763>.
- 藤原敬介. 2003. 「マルマ語の音声に関する考察」『京都大学言語学研究』22: 237–300. <https://doi.org/10.14989/87830>.
- 藤原敬介. 2022. 「ベンガル語：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」『語学研究所論集』26: 359–438. <https://doi.org/10.15026/117386>.
- Kato, Atsuhiko and Khin Pale. 2012. “The Myeik (Beik) Dialect of Burmese: Sounds, Conversational Texts, and Basic Vocabulary” 『アジア・アフリカ言語文化論集』83: 117–160. <http://hdl.handle.net/10108/75670>.
- Huziwaru, Keisuke. 2011. “Nominalization and related phenomena in Marma” *North East Indian Linguistics* 3: 105–119.

執筆者連絡先：huziwarak@ntu.ac.jp

原稿受理日：2023年12月26日